AppManager ResponseTime for Web

バージョン 6.3

管理ガイド



ご注意（重要）

本ドキュメントおよび本ドキュメントに記載されているソフトウェアは、「ライセンス契約」または「機密保持契約」に基づいて提供されるものであり、「ライセンス契約」または「機密保持契約」の条項に服するものです。「ライセンス（使用許諾）契約」または「機密保持契約」で別途明示的に規定されている場合を除き、ネットアイキュー株式会社（以下「当社」といいます。）および名国 NetIQ Corporation は、本ドキュメントおよび本ドキュメントに記載されているソフトウェアをいかなる種類の保証もなしに、「現状有姿 (as is)」の状態でお客様に提供するものであり、本ソフトウェアに関して、明示および黙示を問わず、商品適合性又は特定目的に対する適合性に関する黙示の保証を含む、いかなる保証を行うものではありません。

本ドキュメントおよび本ドキュメントに記載されているソフトウェアは、当社による事前の書面承諾なしに、賃貸、売買または贈与してはならないものとします。ただし、法により別途許諾される場合はのぞきます。「ライセンス（使用許諾）契約」または「機密保持契約」で別途規定されない限り、本ドキュメントおよび本ドキュメントに記載されているソフトウェアのいかなる部分についても、当社による事前の書面承諾なしに、複製したり、情報検索方式に保存したり、また、その形式および方法（電子的方法、機械的な方法、その他の方法）を問わず、送信伝達してはならないものとします。本ドキュメントに含まれる会社名、個人名およびデータの中には、説明のために使用されているものもあり、必ずしも実際の会社、個人またはデータを表しているわけではありません。

本ドキュメントには、技術的な不正確性、誤字が含まれている可能性があります。本ドキュメントに含まれている情報には、定期的に変更が加えられます。これらの変更は、本ドキュメントの新版に組み込まれる可能性があります。当社は、いつでも、本ドキュメントに記載されているソフトウェアにつき、改良、変更を加えることができるものとします。

© 1995 - 2005 NetIQ Corporation, all rights reserved.

Check Point、FireWall-1、Provider-1、SiteManager-1、および VPN-1 は、Check Point Software Technologies Ltd. の商標または登録商標です。

ActiveAgent、ActiveAnalytics、ActiveAudit、ActiveKnowledge、ActiveReporting、ADcheck、AppAnalyzer、Application Scanner、AppManager、AuditTrack、Chariot、ClusterTrends、 CommerceTrends、 Configuration Assessor、ConfigurationManager、the cube logo design、DBTrends、DiagnosticManager、Directory and Resource Administrator、Directory Security Administrator、Domain Migration Administrator、End2End、Exchange Administrator、Exchange Migrator、Extended Management Pack、FastTrends、File Security Administrator、Firewall Appliance Analyzer、Firewall Reporting Center、Firewall Suite、Ganymede、the Ganymede logo、Ganymede Software、Group Policy Administrator、imMarshal、Intergreat、Knowledge Scripts、MailMarshal、Marshal、Migrate.Monitor.Manage、Mission Critical Software、Mission Critical Software for E-Business、the Mission Critical Software logo、MP3check、NetIQ、the NetIQ logo、the NetIQ Partner Network design、NetWare Migrator、OnePoint、the OnePoint logo, Operations Manager、PentaSafe、PSAudit、PSDetect、PSPasswordManager、PSSecure、Qcheck、RecoveryManager、Security Analyzer、Security Manager、Security Reporting Center、Server Consolidator、SQLcheck、VigilEnt、Visitor Mean Business、Vivinet、W logo、WebMarshal、WebTrends、WebTrends Analysis Suite、WebTrends for Content Management Systems、WebTrends Intelligence Suite、WebTrends Live、WebTrends Log Analyzer、WebTrends Network、WebTrends OLAP Manager、WebTrends Report Designer、WebTrends Reporting Center、WebTrends Warehouse、Work Smarter、WWWorld、および XMP は、米国 NetIQ Corporation または当社を含む NetIQ Corporation の関連会社（アメリカ合衆国内の関連会社であるか否かを問いません。）の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

言及されている他の会社名および商品名は、全て、識別目的のためにのみ使用されているもので、他社の商標または登録商標である可能性があります。

目次

本書について

本書の読者 v
必要なソフトウェアのバージョン vi
本書の使い方 vi
オンラインヘルプの使い方 vii
参照情報 viii

第 1 章 AppManager ResponseTime for Web の概要

AppManager ResponseTime for Web v6.3 **の新機能** 2
AppManager ResponseTime for Web **のコンポーネント** 3
Web-RT Knowledge Script **の概要** 6
AppManager ResponseTime for Web **のレポート機能** 8

第 2 章 AppManager ResponseTime for Web のインストール

システム要件 10
このモジュールに含まれるもの 11
アップグレードに関する考慮事項 11
Web-RT **管理対象オブジェクトのインストール先の決定** . . . 13
ローカルシステムとしての Windows **エージェントの実行** . . 14
AppManager ResponseTime for Web **のダウンロードと開梱** 15
セットアッププログラムの実行 16

第 3 章 **Web Recorder の概要**

このバージョンの Web Recorder **の新機能** 22
Web Recorder **の便利な機能** 22

Web Recorder の高度な機能 23
Web Recorder のコンポーネント 25
WebTransaction Knowledge Script の実行 26
WebTransaction Knowledge Script について 27

第 4 章 再生および WebTransaction の結果
再生結果 33
Web トランザクションのデータポイント 37
イベントとイベント詳細 39

第 5 章 URL Check Recorder の使用
レコーダオプション 42
[Script Options] タブ 43
[URLs] タブ 45
URLCheck Knowledge Script のチェックイン 52
[URL Properties] 53

第 6 章 URLCheck の結果
Script スクリプトオプションと結果 68
URLCheck イベント 69
イベントおよびデータポイントのデータ詳細 72
Knowledge Script オプション 74
Status Codes 84

第 7 章 Web-RT Knowledge Script リファレンス
AppManager ResponseTime for Web のバージョンの互換性 98
FTP 101
NNTPConnect 105
ReceiveInternetMail 107
Report_Web-RT_Mail 110
Report_Web-RT_Steps 114
Report_Web-RT_URLCheck 118

Report_Web-RT_Web 121
SendAndReceiveInternetMail 125
SendInternetMail 129
SMTPConnect 132
TakeDesktopOwnership 134
URLCheck 136
WebTransaction 143

第 8 章 **AppManager ResponseTime for Web のトラブルシューティング**

URLCheck Knowledge Script と WebTransaction Knowledge Script **の結果の違い** 151
インストールに関する問題 154
URL Check Recorder **に関する問題** 155
Discovery **に関する問題** 159
Knowledge Script **の実行に関する問題** 164

索引

本書について

NetIQ® AppManager® Suite (または AppManager) は、幅広い動作環境、アプリケーション、およびハードウェアについて、パフォーマンス、アベイラビリティ、サーバーの稼動状態の管理や診断、分析を行う総合的なソリューションです。

AppManager を使用すると、企業全体の重要なサーバーおよびアプリケーションリソースが視覚的に表示されるため、システム管理者は、使いやすい中央コンソールからサーバーおよびワークステーションを監視できるようになります。AppManager により、管理スタッフは、コンピュータおよびアプリケーションリソースの監視、潜在的な問題のチェック、応答アクションの起動、日常業務の自動化、リアルタイムレポートや履歴レポートに使用するパフォーマンスデータの収集、および分析を行うことができます。

本書の読者

この管理ガイドは、NetIQ AppManager コンポーネントを確実にインストールするための情報を提供します。本書は、AppManager Suite ソフトウェアのすべてまたは一部のインストールを担当するシステム管理者およびユーザーを対象としています。

AppManager をカスタマイズする方法については、『ユーザーガイド』または『*Developing Custom Knowledge Scripts*』を参照してください

必要なソフトウェアのバージョン

このバージョンの AppManager ResponseTime for Web は、AppManager 5.0.1 以上でサポートされます。システム要件については、「システム要件」10 ページを参照してください。

本書の使い方

本書は、AppManager の主要なマニュアルを補足することを目的としています。ただし、本書では特に Web の応答時間の監視に焦点を当てているため、AppManager のインストールまたは使い方に関する一般的な情報や、他のシステムやサーバーアプリケーションを監視する Knowledge Script に関する情報は含まれていません。より全般的な情報については、AppManager に付属するマニュアルを参照してください。

現在の環境に従って、本書で必要な箇所を選択してお読みください。

- 第 1 章「AppManager ResponseTime for Web の概要」では、AppManager ResponseTime for Web の概要を説明します。
- 第 2 章「AppManager ResponseTime for Web のインストール」では、AppManager ResponseTime for Web のインストールおよび設定の手順について概説します。
- 第 3 章「Web Recorder の概要」では、WebTransaction Knowledge Script の作成に役立つ Web Recorder アドインについて概説します。
- 第 4 章「再生および WebTransaction の結果」では、Web Recorder または管理対象クライアント上で実行できる WebTransaction Knowledge Script の結果について説明します。
- 第 5 章「URL Check Recorder の使用」では、URL Check Recorder アドインを使用して URL Check Knowledge Script を作成する方法を説明します。
- 第 6 章「URLCheck の結果」では、URLCheck Knowledge Script でジョブを実行するときに受け取る結果について説明します。
- 第 7 章「Web-RT Knowledge Script リファレンス」では、AppManager ResponseTime for Web に含まれる各 Knowledge Script の参照情報を提供します。

- 第 8 章「AppManager ResponseTime for Web のトラブルシューティング」では、共通の問題や制限に対処するためのヒントを提供します。

これらの章に加えて、索引が参照用として提供されています。

本書の表記法

次に、本書で使用する表記の規則を示します。

- ソースコード、プログラム名、プログラムの出力、ファイル名、およびユーザーが入力するコマンドにはクーリエフォントを使用します。
- イタリックのクーリエフォントは変数を示します。
- かっこ（「」）は用語を強調するために使用します。中かっこ（[ ]）は画面に表示されるメニュー、コマンド、ダイアログボックスのオプションなどを示します。
- キーボードのキーは、「Enter キー」、「Esc キー」のように表記します。

オンラインヘルプの使い方

AppManager には、操作手順のヘルプ、リファレンスヘルプ、および状況依存ヘルプが用意されています。

操作手順のヘルプを参照したり、ヘルプトピックを検索するには、[ヘルプ] メニューの **[** トピックの検索 **]** をクリックします。ダイアログボックス内で状況依存ヘルプを表示するには、**[** ヘルプ **]** ボタンをクリックするか、F1 キーを押します（各ダイアログボックスのボタン類には、ヘルプが表示されません。）

個別の Knowledge Script に関するヘルプを表示するには、[プロパティ] ダイアログボックスの **[** パラメータ値 **]** タブを表示しているときに **[** ヘルプ **]** ボタンをクリックするか、F1 キーを押します。また、KS ウィンドウで目的の Knowledge Script をハイライト表示して F1 キーを押し、その Knowledge Script のヘルプを表示することもできます。AppManager のユーザーから寄せられた Knowledge Script、またはカスタム Knowledge Script のヘルプは用意されていません。

本書を含め、すべての AppManager マニュアルには、印刷物だけでなく、オンラインで検索が可能な Acrobat PDF 形式のファイルも用意されています。

参照情報

AppManager ResponseTime for Web に Web Recorder を使用する前に読むべき Web Recorder ユーザーガイド に加えて、AppManager マニュアルの基本セットも重要な情報源です。必要に応じて、以下の文書も参照してください。

- 『インストールガイド』では、AppManager をインストールするための要件および AppManager のインストール手順に関して詳細に説明しています。
- 『ユーザーガイド』では、ジョブの実行、イベントへの応答、レポートの作成、および AppManager コンソールを使った操作に関する情報を詳細に説明しています。
- 『管理者ガイド』では、AppManager サイトの保守、セキュリティの監視、スクリプトを使ったタスクの処理、およびその他の高度な AppManager の操作に関する情報を詳細に説明しています。
- 『*Knowledge Script* ガイド』では、それぞれの Knowledge Script の機能の概要について説明しています。
- 『*Developing Custom Knowledge Scripts*』では、独自のカスタム Knowledge Script を開発する方法について説明しています。
- 『アップグレードと移行ガイド』では、AppManager の以前のバージョンからのアップグレードを行う方法を詳細に説明しています。
- 『レポートガイド』では、AppManager を使用してレポートサーバーを構成し、レポートを生成するための情報を説明しています。

Adobe Acrobat（PDF）形式の AppManager マニュアルセットは、AppManager の CD-ROM に用意されています。

また、いくつかのアプリケーション固有の情報は、CD-ROM の `appmanager¥documentation¥configuration_notes` フォルダに用意さ

れています。また、その他多くのリソースが NetIQ オンラインサポートおよび拡張サポート Web サイトに提供されています。以下に例を示します。

- 『管理ガイド』では、特定のアプリケーションの監視、または特定のトピックに関するヒント、アドバイス、および推奨事項などが提供されています。NetIQ オンラインサポートをときどきチェックして、管理ガイドの更新や新バージョンを探してみてください。
- AppManager　がサポートする製品のバージョンに関する最新情報は、NetIQ オンラインサポート Web サイトで見つけることができます。

注意　NetIQ Support へのアクセスにはパスワードや登録は必要ありません。ただし、拡張サポートサイトへは、登録済みの AppManager カスタマでなければアクセスできません。

AppManager のマニュアルに加えて、使用しているオペレーティングシステムおよびアプリケーションまたはサーバー固有の基本概念やリファレンス情報については、それぞれの製品のマニュアルを参照してください。これらのマニュアルから得られる情報は AppManager ResponseTime for Web を理解する上で非常に役立ちます。

第 1 章

AppManager ResponseTime for Web の概要

AppManager ResponseTime for Web は、組織の Web 構造を監視して、重要な Web サイトと Web サービスのアベイラビリティおよびパフォーマンスを確保できるようにします。AppManager ResponseTime for Web に含まれる Web-RT Knowledge Script は、Web サイトにアクセスする際にユーザーが遭遇する可能性のある問題を特定するのに役立ちます。これらのスクリプトを使用すると、個々の Web のリンク、ページ、およびトランザクションのアベイラビリティとレスポンスタイムを監視するだけでなく、SMTP、POP、および FTP などのサービスの稼動状態も監視することができます。

AppManager ResponseTime for Web は、1 日、1 週間、または 1 年にわたる期間の Web サイトのパフォーマンスを追跡し、ピーク使用期間やその使用情報を示します。また、ユーザーが特定のページをダウンロードできるかどうかだけでなく、そのページのすべてのオブジェクトをダウンロードできるかどうか、トランザクションを完了することができるかどうかを判断することができます。Knowledge Script を使用して、サーバーまたはネットワークのオーバーロードのために、または Web サーバー自体が他の過剰な負担がかかっているサーバーまたはデータベースにアクセスしているために、Web サイトがスローダウンしたり、使用不能になった時期を日単位や週単位で見つけることができます。

この章では、AppManager ResponseTime for Web を端的に説明し、重要な概念と用語を解説します。詳細については、以下の項目を参照してください。

- 「AppManager ResponseTime for Web v6.3 の新機能」2 ページ
- 「AppManager ResponseTime for Web のコンポーネント」3 ページ
- 「Web-RT Knowledge Script の概要」6 ページ
- 「AppManager ResponseTime for Web のレポート機能」8 ページ

AppManager ResponseTime for Web v6.3 の新機能

インストール手順が多少変更になりました。AppManager ResponseTime for Web のこのバージョンでは、2 つのレコーダアドイン（Web Recorder および URL Check Recorder）が管理対象オブジェクトと共にインストールされます。これらは以前、オペレータコンソールと共にインストールされていました。

また、AppManager ResponseTime for Web のこのバージョンでは次の機能が改善されています。

- URL Check Recorder を使用して、URLCheck Knowledge Script によって監視されている多数の URL の中から特定の URL を検出できます。詳細については、「検索機能」47 ページを参照してください。
- 新しい測定機能。URL Check Recorder は、URL が示す Web ページのダウンロード時間（ページにアクセスし、すべての要素をダウンロードする時間）を計算する他に、接続時間（Web サイトに接続してページの最初のバイトを受信するまでの時間）も測定します。詳細については、「Measure Connection Time」56 ページを参照してください。
- データ系列の凡例およびイベントタイトルをカスタマイズするためのオプションが増えました。詳細については、「Knowledge Script オプション」74 ページを参照してください。
- スクリプトをURLCheck Recorderで表示するときだけ表示できる特定の URL に関する注釈を追加できます。詳細については、「注意」65 ページを参照してください。
- 個別のダウンロード時間。URLCheck Knowledge Script では、個々の URL ごとにダウンロード時間を測定し、測定値がしきい値を超えた場合にイベントを生成できます。「Measure Download Time Knowledge Script オプション」78 ページを参照してください。
- Web Recorder では、記録されたスクリプトに手動で「クリック」ステップを追加することができます。詳細については、Web Recorder の『ユーザーガイド』を参照してください。
- 作業中のスクリプトを失うことなく Web Recorder を再起動し、任意のセッションのクッキーをリセットできます。詳細については、Web Recorder の『ユーザーガイド』を参照してください。

AppManager ResponseTime for Web のコンポーネント

AppManager ResponseTime for Web アドイン「**Web Recorder**」と「**URL Check Recorder**」を使用して、Web サイトのパフォーマンスの特定部分に焦点を当てるよう Knowledge Script を作成し、カスタマイズできます。また、これらのスクリプトを使用してデータを収集すると、ピーク使用期間など、長期に及ぶ Web サイトと Web サービスのパフォーマンスを追跡するのに役立ちます。

Web Recorder で作成した Knowledge Script は、World Wide Web 上の実際の URL にアクセスしてトランザクションを実行することで記録されたセッションをベースにしています。再生時、記録した WebTransaction Knowledge Script はクライアントコンピュータ上で実行し、レスポンスタイムとアベイラビリティの結果を計測します。Web Recorder を使用すると、ユーザーの立場に立ち、ユーザーの視点で Web サイトを見ることができます。そのために、Web Recorder は Microsoft Internet Explorer に依存して実際のブラウザセッションを生成します。

Web Recorder と異なり、**URL Check Recorder** は Web サイトにアクセスする際のユーザー経験を再生するものではありません。アプリケーション（または他の Web サーバー）がアクセスする方法で Web サーバーにアクセスするようにデザインされています。これは Internet Explorer を使用せず、その代わりに WinINET コールまたは WinHTTP API コールを使用します。URL Check Recorder で作成した URL Check Knowledge Script は、URL にアクセスするためにダウンロードされた基本ドキュメントを単に読み込みます。URL Check Recorder で URLCheck Knowledge Script を作成するときに選択したスクリプトオプションにより、ベースドキュメントから様々な検査や測定を実行できます。

URLCheck Knowledge Script を使用して、リンクとオブジェクトのリスト作成、オブジェクトのダウンロード、オブジェクトとリンクの検査、リンク、オブジェクト、および文字列の検索を実行できます。URLCheck Knowledge Script は、基本的なページのアベイラビリティ、使用率、接続時間（サイトへの接続に掛かる時間）、ダウンロード時間（ページ全体のダウンロードに掛かる時間）を測定できます。

AppManager ResponseTime for Web 用の 2 つのアドインの違いを以下の表に示します。

機能	Web Recorder	URL Check Recorder
生成される Knowledge Script	Web-RT_WebTransaction	Web-RT_URLCheck
収集されるデータ系列	レスポンスタイム：Internet Explorer が Web サイトコンポーネントをダウンロードし、表示するまでに掛かった時間	ダウンロード：時間要求元アプリケーションが Web サイトコンポーネントをダウンロードするために掛かった時間。 接続時間：アプリケーションが Web ページに接続してデータの最初のバイトをダウンロードするまでに掛かった時間。
Web ページのレンダリングに使用されるメカニズム	Internet Explorer	WinInet または WinHTTP (MSHTML を使用)
時間の測定対象	Internet Explorer によってページが置かれている Web サーバーから正しい信号が受信されたときにページが「レンダリング」され、その応答として Web Recorder に信号が送信されます。 全種類のすべての要素に対してレンダリングが試みられます。	ダウンロード時間の測定では、MSHTML を使用してダウンロードするすべてのオブジェクトが見つけられ、ロードされたときにページが「レンダリング」されます。 接続時間の測定では、ページへの接続が確立されデータの 1 バイトがダウンロードされます。 <SCRIPT> 要素はレンダリングされません。
処理の対象	ActiveX、Java、スクリプト言語、すべての Internet Explorer ポップアップダイアログボックス、Windows 認証、Secure Sockets Layer 認証プロトコル、プロキシサーバー。	Windows 認証、Secure Sockets Layer 認証プロトコル、プロキシサーバー。

機能	Web Recorder	URL Check Recorder
アベイラビリティの定義方法	記録されたトランザクションは正常に終了しました。	ページへの接続は正常に実行されました。
キャッシングの意義	キャッシングは重要です。Internet Explorer でページコンテンツをキャッシュするように設定されている場合は、ページのレンダリングがより高速になりす。これは一般的なユーザーの実感とは異なることもあります。	ありません。

AppManager ResponseTime for Web の最後のコンポーネントである **Web-RT** 管理対象オブジェクトは、AppManager ResponseTime for Web Knowledge Script が実行されるコンピュータ（管理対象クライアント）上にインストールされます。これがインストールされると、AppManager ResponseTime for Web の 2 つのアドイン（Web Recorder および URL Check Recorder）もインストールされます。このようにして、Web-RT 管理対象オブジェクトが Web サイトのパフォーマンスを測定するための観点が決定されます。

Web-RT 管理対象オブジェクトは、組織のファイアウォール内のコンピュータにインストールしてイントラネットから Web サイトを監視することも、ファイアウォール外にインストールしてインターネット上のある地点で組織の外からサイトを監視することもできます。Web-RT 管理対象クライアントをファイアウォール内にインストールした場合は、Web サイトのページとコンテンツが正しく表示されているかどうかを確認できます。ファイアウォール外に配置した場合は、ファイアウォールを通してユーザーが Web サイトにアクセスできるかどうかを確認できます。また、両方のモードで Web サイトを監視して、Web サイトのコンテンツが正しく表示され、ファイアウォール、ISP、その他のインターネット接続が期待どおりのサービスを提供していることを確認することもできます。

Web-RT Knowledge Script を使用すると、管理オブジェクトの配置場所によって、外部の Web サイトを監視したり、会社のイントラネットを監視してクリティカルなアプリケーション（Web ベースの供給、販売、または人事用のアプリケーションなど）が常に使用可能かどうかを確認することができます。また、Web-RT 管理オブジェクトをイントラネット上に配置すると、インターネット接続の問題が Web サーバーからの問題か、または

ネットワーク内部の問題かを判別して、Web サイトの障害によってかかる出費や長期にわたるトラブルシューティングを減らすことができます。詳細については、「Web-RT 管理対象オブジェクトのインストール先の決定」13 ページを参照してください。

AppManager ResponseTime for Web のバージョン情報

このバージョンの AppManager ResponseTime for Web では、旧バージョンの WebServices および Web-RT Knowledge Script の多くが、アドインの **URL Check Recorder** の新機能に置き換えられています。現在のバージョンは、バージョン 2.2 以上の Web Recorder で作成された Knowledge Script をサポートしますが、それより古いバージョンはサポートしません。2.2 より古いバージョンで作成された URLCheck Knowledge Script はすべて実行できます。

Web-RT バージョン 1.0 および WebServices と、Web-RT バージョン 2.0 以上の Knowledge Script および新機能との比較については、「AppManager ResponseTime for Web のバージョンの互換性」98 ページを参照してください。

Web-RT Knowledge Script の概要

Web-RT 分類には、以下の種類の Knowledge Script があります。

- FTP スクリプト（「Discovery_Web-RT」101 ページを参照してください。）
- NNTP (News) スクリプト (「NNTPConnect」106 ページを参照してください。)
- IInternet Mail スクリプト（「ReceiveInternetMail」108 ページ、「SendAndReceiveInternetMail」126 ページと「SendInternetMail」130 ページを参照してください。）
- SMTP スクリプト（「SMTPConnect」133 ページを参照してください。）
- URLCheck スクリプト（「URLCheck」137 ページを参照してください。）
- WebTransaction スクリプト（「WebTransaction」144 ページを参照してください。）

FTP Knowledge Script

Discovery_Web-RT Knowledge Script は FTP サーバーのアベイラビリティを監視し、ファイルをダウンロードしてそのファイルのコンテンツをローカルファイルと比較します。

NNTP (News) Knowledge Script

NNTPConnect Knowledge Script は、NNTP サーバーのアベイラビリティを監視します。

Internet Mail Knowledge Script

Internet Mail スクリプトは、メールサーバー（POP3 および SMTP）のレスポンスタイムとアベイラビリティの計測に使用します。これらのスクリプトには、SendInternetMail、ReceiveInternetMail と SendAndReceiveInternetMail. があります。

SMTP Knowledge Script

SMTP Knowledge Script の、SMTPConnect は、SMTP サーバーのアベイラビリティを監視します。

URLCheck Knowledge Script

アドインの **URL Check Recorder** から生成される Knowledge Script は、1 つ以上の URL に焦点を当て、そのアベイラビリティとパフォーマンスを確認します。このスクリプトでは、ページ上のリンクおよびオブジェクトを確認するほかに、特定のテキスト、リンク、またはオブジェクトを検索することもできます。「Check Link」機能を使用すると、多数の URL のアベイラビリティをすばやく確認できます。

WebTransaction Knowledge Script

WebTransaction に分類される Knowledge Script は、たとえば Web ページにログインして口座残高を確認するなど、Web ページで実行される一連のトランザクションを記録および再生するためのブラウザベースの Knowledge Script です。このスクリプトは、アドインの **Web Recorder** を使用して生成

されます。このスクリプトは、ユーザーの Web トランザクションのアベイラビリティおよびレスポンスタイムを監視します。

Web-RT 分類のすべての Knowledge Script に関する詳細は、第 7 章「Web-RT Knowledge Script リファレンス」を参照してください。

AppManager ResponseTime for Web のレポート機能

AppManager ResponseTime for Webには4つのレポートが用意されています。これらのレポートでのオプションの設定については、第 7 章「Web-RT Knowledge Script リファレンス」を参照してください。

- Report_Web-RT_Mail は、Web-RT Internet Mail Script のレポートを作成するために使用します。このレポートには、特定の Knowledge Script に対するアベイラビリティと総レスポンスタイムを表示する 2 つのグラフとテーブルが含まれます。
- Report_Web-RT_Web は、WebTransaction スクリプトのレポートを作成するために使用します。このレポートには、特定の Knowledge Script に対するアベイラビリティと総レスポンスタイムを表示する 2 つのグラフとテーブルが含まれます。WebTransaction Knowledge Script の記録については、Web Recorder の『ユーザーガイド』を参照してください。
- Report_Web-RT_Steps は、記録されたトランザクションの個々のステップに対するレスポンスタイムの詳細を示す WebTransaction スクリプトのレポートを作成するために使用します。このレポートを作成するには、**Collect response time for individual steps?** パラメータを有効にします。
- Report_Web-RT_URLCheck は、Web-RT URLCheck Knowledge Script のレポートを作成するために使用します。このレポートは、特定の Knowledge Script によってチェックされたすべての URL の全体的アベイラビリティを示します。URLCheck Knowledge Script の記録については、「URL Check Recorder の使用」41 ページを参照してください。

第 2 章

AppManager ResponseTime for Web のインストール

この章では、AppManager ResponseTime for Web をインストールする方法を説明します。この情報は、AppManager をインストールしている場合にのみ適用されます。記載されている内容は次のとおりです。

- 「システム要件」10 ページ
- 「アップグレードに関する考慮事項」11 ページ
- 「このモジュールに含まれるもの」11 ページ
- 「Web-RT 管理対象オブジェクトのインストール先の決定」13 ページ
- 「ローカルシステムとしての Windows エージェントの実行」14 ページ
- 「AppManager ResponseTime for Web のダウンロードと開梱」15 ページ
- 「セットアッププログラムの実行」16 ページ

AppManager コンポーネントやアドインのインストール手順については、『AppManager インストールガイド』を参照してください。このマニュアルのオンラインバージョンは、AppManager CD-ROM の ¥documentation フォルダに Acrobat PDF 形式で用意されています。

旧バージョンからアップデートする場合は、まず「アップグレードに関する考慮事項」11 ページをお読みください。

システム要件

AppManager ResponseTime for Web をインストールするための要件を以下に概説します。

- AppManager v5.0.1 以上。
- AppManager エージェント バージョン 5.0.1 以上。Recorder アドイン（Web Recorder および URL Check Recorder）を実行するすべてのコンピュータ上にインストールする必要があります。
- 次のオペレーティングシステムのいずれかに該当する。
  - Windows 2000
    WinHTTP のサポート（URL Check Recorder のみ）には Service Pack 3 以上が必要です。
  - Windows XP Professional
    WinHTTP のサポート（URL Check Recorder のみ）には Service Pack 1 以上が必要です。
    Windows XP Home はサポートされません。
  - Windows Server 2003
    WinHTTP API がサポートされます（URL Check Recorder のみ）。
- Microsoft Internet Explorer バージョン 6.0 以上。

注意 Web Recorder **アドインを使用して作成された** WebTransaction Knowledge Script **を実行予定のすべてのクライアントコンピュータにログインユーザーがいる必要があります。**Terminal Service **セッションには充分ではありません。管理対象クライアントの安全についての詳細とヒントは、**Web Recorder**『ユーザーガイド』の「**Web Recorder **の再生」の章を参照してください。**

AppManager **エージェント、リポジトリ、管理サーバーをインストールするためのシステム要件とインストール方法については、**『AppManager **インストールガイド』を参照してください。**

WinHTTP **および** WinINet（URL Check Recorder **のみ）のサポート**

特定のサービスパックがない場合、Windows 2000 および Windows XP は、Windows Internet (WinINet) API に依存する Knowledge Script を必要とします。これによりいくつかの機能が制限されます。新しいサービスパックがインストールされている Windows 2000 と Windows XP、および Windows

2003 では、Windows HTTP Services または WinHTTP がサポートされており、WinINet よりも堅牢で安全です。

WinINet にはソケットの確実性に限界があるため、たとえば必要なサービスパックのない Windows 2000 および Windows XP 上で実行されている URLCheck Knowledge Script は、堅牢なサイトからのドキュメントは表示しません（Check Link 操作だけがサポートされています）。WinHTTP をサポートしない Web-RT 管理対象オブジェクトが堅牢なサイトに遭遇したときは常に、特定の URL はアベイラビリティ情報のみをレポートし、限界についての情報メッセージを返します。

このモジュールに含まれるもの

このモジュールには、AppManager ResponseTime for Web の新しい管理対象オブジェクトと、新しい Knowledge Script を作成するための Web Recorder および URL Check Recorder アドインの改良バージョンが含まれています。AppManager ResponseTime for Web に含まれる Web-RT Knowledge Script の完全な参照情報はヘルプに提供されています。

AppManager ResponseTime for Web は、Windows コンピュータ上にインストールされた NetIQ AppManager エージェントと共に稼動します。

アップグレードに関する考慮事項

AppManager ResponseTime for Web バージョン 6.3 にアップグレードする前に、次の事項について検討してください。

- AppManager ResponseTime for Web 2.2（AppManager バージョン 6.0）の旧バージョンのスクリプト（バージョン 2.1 以前）はサポートされていないため、エラーとなり、次のメッセージが表示されます。

  ```
  The Managed Object failed to run the transaction. The Web
  ResponseTime Managed Object failed to execute the
  transaction because a thread could not be allocated to
  service the request
  ```

  このため、クライアントコンピュータを AppManager ResponseTime for Web の最新バージョンにアップグレードした後に、新しい WebTransaction Knowledge Script を作成して配備する必要があります。

- バージョン 2.2 以前の WebTransaction Knowledge Script はアップグレードできません。新しい Web Recorder（バージョン 6.2 以降）を使用して新しい WebTransaction Knowledge Script を作成する必要があります。出来る限り早く最新バージョンの Web Recorder にアップグレードして、WebTransaction Knowledge Scriptを新規に作成することをお薦めします。新旧バージョンの WebTransaction Knowledge Script を一緒に実行することはお勧めできません。
- バージョン 6.2 の WebTransaction Knowledge Script をバージョン 6.3 にアップグレードして、最新バージョンの Web Recorder で保存することができます。
- 旧バージョンの URLCheck Knowledge Script は実行できます。新機能を使用しない限り変更する必要はありません。

  AppManager ResponseTime for Web バージョン 6.3 に含まれる URL Check Recorder で旧バージョンの URLCheck Knowledge Script を開くと、新機能により旧バージョンでは機能しなくなります。このため、URLCheck Knowledge Script をアップグレードする前にすべてのエージェントコンピュータをアップグレードする必要があります。

  URLCheck Knowledge Script をアップグレードするには、単に URL Check Recorder 内の .qml ファイルを開いてください。
- 新しい Discovery_Web-RT Knowledge Script は､旧バージョンの管理対象オブジェクト上で実行されたときに次のイベントでエラーとなります。

  「`Back-level version. This is a back-level version of NetIQ AppManager ResponseTime for Web. Install the latest version of the software.`」
- AppManagerバージョン5.0.1のオリジナルのWeb-RTまたはWebServices Knowledge Script を実行している場合は、Web-RT 管理対象オブジェクトをアップグレードしたときにエラーとなります。また、バージョン 6.3 の Discovery_Web-RT Knowledge Script を実行する場合は、これらのジョブは [ジョブ] ウィンドウに表示されません。これは、AppManager ResponseTime for Web の最新バージョンではすべてのリソースオブジェクトが変更されているためです。
- AppManager エージェントをアップグレードする前に、実行中の Web-RT ジョブをすべて停止してください。AppManager ResponseTime for Web は AppManager エージェント（具体的には `netiqmc` サービス）の

プロセスの外部で実行されるため、実行中のジョブに関連するすべての ResponseTime プロセスも停止していることを確認してください。停止していないプロセスは、アップグレード中にインストールされないか、登録されないことがあります。インストーラには、これらの ResponseTime プロセスを停止する特権はありません。

次の Web-RT プロセスが影響を受けます。

- QWEBA6.EXE
- QWEBAEx4.EXE
- WEBSM.EXE
- WEBEX21SM.EXE
- WEBEXSM.EXE

Web-RT 管理対象オブジェクトのインストール先の決定

エンドユーザーの視点からWebサイトのアベイラビリティを保証するために、インターネット上のファイアウォールの外側に Web-RT 管理対象オブジェクトをインストールできます。インターネット上の Web-RT 管理対象オブジェクトでは、ISP によって提供される帯域幅やサービスレベルも測定できます。AppManager ResponseTime for Web の 6.3 以降のバージョンより、2 つのレコーダアドインがすべての管理対象クライアントに自動的にインストールされます。このため、Web Recorder または URL Check Recorder を実行するすべてのコンピュータ上に管理対象オブジェクトのインストールを予定してください。

AppManager エージェントがインターネット上で地理的およびトポロジ的に（ネットワークバックボーンによって）分散されている場合、エージェント上にインストールした Web-RT 管理対象オブジェクトを使用して、問題がユーザーの地理的な場所に関するものなのか、またはユーザーの ISP またはインターネット接続方法に関するものなのかを判定することができます。異なる種類と速度の接続を使用しているサーバー（DSL やさまざまな種類のモデム）に管理対象オブジェクトをインストールすると、クライアントの接続範囲からサイトへアクセスしたときのパフォーマンスを判定することができます。たとえば、サイト訪問者が使用すると予想される最も遅い接続速度に対する適切なURL読み込み時間を確認することができま

す。または、複数の分散されたエージェントから Web サイトにアクセスしたときのレスポンスタイムの平均を統計的に表示できます。

Web-RT 管理対象オブジェクトをファイアウォール内に配置すると、データとイベントは AppManager 管理サーバーに返されます。AppManager 管理サーバーは、そのデータを AppManager リポジトリに転送します。管理サーバーは、ファイアウォールの内側と外側のどちらにも配置することができます。

ローカルシステムとしてのWindowsエージェントの実行

ほとんどの AppManager ResponseTime アプリケーション（AppManager ResponseTime for Web を含む）では、AppManager Windows エージェント、具体的には`netiqmc` プロセスをローカルシステムとして実行する必要があります。これは、AppManager ResponseTime アプリケーションが AppManager エージェントのプロセスの外部で実行されるからです。管理対象オブジェクトのプロセスは、それぞれの Knowledge Script 内で指定されたユーザー ID として別々に実行されます。エージェントは、Knowledge Script パラメータで指定されたどんなユーザーIDとしても新しいプロセスを開始する権限を持たなければなりません。したがって、エージェントを実行するにはローカルシステム権限を持たなければなりません。

既存の AppManager エージェントがインストールされたコンピュータ上に AppManager ResponseTime for Web をインストールする場合は、ローカルシステムとして実行されていないエージェントを更新する必要があります。これは `netiqmc` サービスにのみ適用される要件ですが、両方のエージェントサービスが同じ権限で実行されるように更新しておくことをお薦めします。これらのサービスをローカルシステムとして実行するように更新しないと、Discovery_ Knowledge Script を実行できません。

エージェントサービスを更新するには、以下の操作を行ないます。

1. Web-RT　管理対象オブジェクトをインストールする各コンピュータ上で、[スタート]、[設定]、[コントロールパネル] の順にクリックします。
2. [管理ツール]、[サービス] をクリックします。

3 サービスのリストから **NetIQ AppManager Client Communication Manager**（netiqccm）サービスを見つけます。右クリックで、**[** プロパティ **]** を選択します。

4 [プロパティ]ダイアログボックスで、**[**ログオン**]**タブをクリックします。**[** ローカルシステムアカウント **]** としてログオンを選択します。

5 **NetIQ AppManager Client Resource Monitor** (netiqmc) サービスで同じ手順を繰り返します。

6 両方のサービスを再起動します。

AppManager ResponseTime for Web のダウンロードと開梱

1 NetIQのWebサイトから適切なAppManager ResponseTime for Webを管理サーバー上にダウンロードします。AppManager のバージョンにより AppManager ResponseTime for Web のバージョンが異なることがあります。

2 コマンドプロンプトで、AMxxx_Web-RT.exe 実行可能ファイルを実行して setup.exe プログラム、プレインストールチェックプログラム (ckWeb-RT.exe)、readme.txt ファイル、Web Recorder ユーザーガイド (WebRecorder.pdf)、管理ガイド .pdf ファイル（本マニュアル -- AppManagerResponseTimeForWeb.pdf) を開梱します。

プレインストールチェックプログラムの実行

AppManager CD-ROM から AppManager ResponseTime for Web をインストールする場合は、インストールを進める前にプレインストールチェックプログラムを実行することをお薦めします。このプログラムは、AppManager ResponseTime for Web のコンポーネントをインストールしようとしているコンピュータがシステム要件を満たしているかどうかを検証します（これはWebからダウンロードしたパッケージをインストールするときに自動的に実行されます)。このプログラムにより生成されるレポート（HTML 形式）には、各コンポーネントの要件と、システムの検証結果が示されます。このレポートは Web ブラウザで表示することができます。

インストール前のチェックプログラムは、AppManager ResponseTime for Web のコンポーネントをインストールするそれぞれのコンピュータで実行してください。

セットアッププログラムの実行

セットアッププログラムを実行すると、コンピュータ上のすべての AppManager コンポーネントが自動的に特定され、アップデートされます。このため、セットアッププログラムはいずれかのコンピュータ上で 1 度実行するだけで済みます。

通常は、ネットワーク上に配布用コンピュータを確立し、そこにセットアッププログラムを保存します。そうすれば、1 つの場所からセットアッププログラムを実行することにより多数のコンピュータをアップデートできます。配布用コンピュータとアップデートされるコンピュータは同一ドメイン内にあるか、信頼関係にあるドメインにある必要があります。

AppManager ResponseTime for Web は次のコンピュータにインストールする必要があります。

- NetIQ AppManager エージェントがインストールされているすべての管理対象クライアント。

  これにより管理対象オブジェクトと 2 つのレコーダアドイン（Web Recorder と URL Check Recorder）がインストールされます。

- AppManager リポジトリ。

  これにより新しい Knowledge Script がチェックインされます。

- すべての AppManager オペレータコンソールコンピュータ。

  これにより、ヘルプファイルがインストールされます。

インストールの完了後に、AppManager ResponseTime for Web をインストールしたすべての管理対象クライアント上で Discovery_Web-RT Knowledge Script を実行する必要があります。リストウィンドウの **[Master]** タブから **[DISCOVERY]**Knowledge Script タブをクリックすると、AppManager Discovery Knowledge Script が表示されます。

リポジトリへのモジュールのインストール

AppManager リポジトリコンピュータ上で、セットアッププログラムを実行し、プロンプトに従って新しい Knowledge Script をチェックインします。クラスタサーバー上またはクラスタのローカルノード上に AppManager リポジトリをインストールした場合は、クラスタ内のすべてのノード上でセットアッププログラムを実行します。

AppManager ResponseTime for Web をリポジトリにインストールする手順は次のとおりです。

1 リポジトリ上でインストールを実行するには、コマンドプロンプトで、`AM500(` **または** `430)_Web-RT_setup.exe` 実行ファイルを実行します。

ファイルを解凍するときに休止状態になりますが、問題はありません。

2 [Welcom] ダイアログボックスで **[Next]** をクリックします。

3 [New Components] ダイアログボックスで **[Select All]** をクリックします。

4 [License Agreement] ダイアログボックスで、ライセンス契約を受け入れる場合は **[Y]** を選択します。**[N]** を選択するとインストール手順が終了します。

インストールされるファイルのリストが表示されます。**[Next]** をクリックします。

5 SQL の sa パスワードが空白の場合はダイアログボックスが表示されます。適切な認証情報を入力して、Knowledge Script をリポジトリにインポートします。

6 [Information] ダイアログボックスで **[OK]** をクリックします。

これで Knowledge Script がリポジトリにインストールされます。オペレータコンソールの Knowledge Script ウィンドウで、**[DISCOVERY]** タブをクリックすると新しい Discovery Knowledge Script が表示されます（1 つ以上の AppManager ResponseTime for Web インスタンスが検出されるまで、新しい **[WEB-RT]** タブは表示されません）。

注意　リポジトリでのインストール中に「`WARNING: The pre-install`

`check failed for the MO component. This component will not be installed,`**」というメッセージが表示されることがありますが、インストールは続行されます。これは、**Knowledge Script **がリポジトリにチェックインされ、ヘルプファイルがインストールされたが、前提条件が満たされなかったため管理対象オブジェクトはコンピュータにインストールされなかったことを意味します。**

クライアントコンピュータへの AppManager ResponseTime for Web のインストール

このインストール手順では、Web-RT 管理対象オブジェクトだけでなく、2 つのレコーダアドイン Web Recorder および URL Check Recorder もインストールされます。この手順は、手動で実行するか AMAdmin_MaintenanceInstall Knowledge Script を使用して実行できます。詳細については以下を参照してください。

手動でのインストール

AppManager ResponseTime for Web コンポーネントを手動でインストールする手順は次のとおりです。

監視する各クライアント上で次の手順を実行します。

1 管理対象クライアント上でインストールを実行するには、コマンドプロンプトで、`AM500(` **または** `430)_Web-RT_setup.exe` 実行ファイルを実行します。

注意　リポジトリでのインストール中に「`WARNING: The pre-install check failed for the MO component. This component will not be installed.`**」というメッセージが表示されることがあります。これは、インストールする管理対象オブジェクトのすべての前提条件をクライアントが満たしていないことを示します。「システム要件」** 10 **ページを参照して、すべての前提条件を満たしてください。**

2 これらの Knowledge Script の使用法については、ヘルプのインストールを参照してヘルプをインストールするか、第 7 章「Web-RT Knowledge Script リファレンス」を参照してください。

注意　**AppManager ResponseTime **モジュールをインストールすると、Service Monitor **コンポーネントがシステムドライブ（例：**`<systemdrive>¥Program Files¥NetIQ¥ServiceMonitor`**）に自動的にインストールされます。**Service Monitor **コンポーネントのインストールに別の場所を指定することはできません。**

AMAdmin_MaintenanceInstall Knowledge Script を使用したインストール

リモートクライアントに Web-RT 管理対象オブジェクトをインストールするには、AMAdmin_MaintenanceInstall Knowledge Script を使用します。このスクリプトの詳細については、その実行手順を提供するヘルプをインストールすることをお薦めします（以下の「ヘルプのインストール」の項を参照）。

セットアッププログラムが完了すると、遭遇した問題の記録が¥NetIQ¥Temp¥NetIQ_Debug フォルダの MAINT.ERR ファイルに記録されています。このアップデートによるすべての変更の記録が同じ¥NetIQ¥Temp¥NetIQ_Debug フォルダの MAINT.LOG ファイルに記録されます。

ヘルプのインストール

オペレータコンソールコンピュータ上でセットアッププログラムを実行し、プロンプトに従ってヘルプファイルをインストールします。

オペレータコンソールコンピュータにインストールされたヘルプを使用して、個々の Knowledge Script についての情報を得ることができます。

[AMADMIN] タブで、MaintenanceInstall Knowledge Script を右クリックして **[** プロパティ **]** を選択します。**[** プロパティ **]** ダイアログボックスの **[** 値 **]** タブで、**[** ヘルプ **]** をクリックします。Knowledge Script ウィンドウで Knowledge Script を選択し、**F1** キーを押してヘルプを表示することもできます。

AppManager ResponseTime for Web のアンインストール

アンインストール実行ファイル（Uninstall_Web-RT.exe）は AppManager ResponseTime for Web をインストールするときに、AppManager¥bin ディレクトリに置かれます。netiqmc および netiqccm（AppManager エージェント）サービスを最初に停止した後に、このファイルを実行してモジュールをアンインストールします。

第 3 章

Web Recorder の概要

AppManager ResponseTime for Web の Web Recorder アドインを使用してカスタムの Web-RT Knowledge Script を作成し、Web サイトを使用するユーザーがトランザクションをタイムリーに完了できるかどうか検査します。Web Recorder を使用して作成される Knowledge Script は、デフォルトで Web-RT Knowledge Script の WebTransaction サブカテゴリとなり、AppManager ResponseTime for Web の一部として実行されます。

Web Recorder は完全に再設計され、多数の新機能を持ちます。WebTransaction Knowledge Script を作成する際に、これらの機能を活用する方法について説明する『ユーザーガイド』が用意されています。この章は、新しい Web Recorder の概説であり、Web Recorder が AppManager ResponseTime for Web の枠組みの中でどのように機能するのかを理解する手助けとなります。Web Recorder を使用する上での詳細については、Web Recorder の『ユーザーガイド』を参照してください。『ユーザーガイド』は、PDF 形式で AppManager ResponseTime for Web に含まれています。

この章で説明する Web Recorder の内容は次のとおりです。

- 「このバージョンの Web Recorder の新機能」22 ページ
- 「Web Recorder の便利な機能」22 ページ
- 「Web Recorder の高度な機能」23 ページ
- 「Web Recorder のコンポーネント」25 ページ
- 「WebTransaction Knowledge Script の実行」26 ページ
- 「WebTransaction Knowledge Script について」27 ページ

このバージョンの Web Recorder の新機能

旧バージョンの AppManager ResponseTime for Web からアップグレードする場合は、新バージョンをインストールする前に本書の「インストール」の章を読んでください。

バージョン 6.2 の Web Recorder は完全な再設計により優れた柔軟性を提供します。このため、ユーザー環境に最適な Web-RT_WebTransaction Knowledge Script を作成することができます。バージョン 6.3 の新機能は次のとおりです。

- 記録によって自動的にクリック手順が追加されないときに記録されたスクリプトにクリック手順を追加できます。
- Web Recorder を再起動して、未保存のスクリプトを失うことなくすべてのセッションクッキーをリセットできます。

各新機能の詳細については、Web Recorder の『ユーザーガイド』を参照してください。

注意 Web Recorder は管理オブジェクトと共にインストールされるようになりました。AppManager ResponseTime for Web **バージョン** 6.3 **以前は、**Web Recorder **および** URL Check Recorder **アドインはオペレータコンソールコンポーネント（ヘルプファイル）と共にインストールされました。**
バージョン 6.2 **の** Web Recorder **で作成した** WebTransaction Knowledge Script **は、新バージョンの** Web Recorder **で開いて保存することでアップグレードできます。**

バージョン 2.2 **以前の** Web Recorder **で作成した** WebTransaction Knowledge Script **は再生できます。ただし、新バージョンの** Web Recorder **に提供されている機能は使用できません。これらの** Knowledge Script **は記録し直すことをお薦めします。詳細については、****「アップグレードに関する考慮事項」** 11 **ページを参照してください。**

Web Recorder の便利な機能

AppManager ResponseTime for Web で WebTransaction Knowledge Script を記録し実行する理由は何でしょうか。それについて例を使って説明します。音楽の CD を販売する Web サイトを想定します。Web Recorder を使用すると、ユーザーがサイトへ接続し、商品カタログの各ページを表示し、ショッ

ピングカートに品目を追加し、クレジットカード情報を確認し、買い物を完了したことを記録することができます。

このトランザクションの記録に基づいて、トランザクションの一部または全体を再生し監視する Knowledge Script を生成することができます。たとえば、初めてサイトに接続するときの所要時間だけ監視する Knowledge Script や、そのサイトのホームページから商品カタログに移動するときの所要時間を監視する Knowledge Script を生成することができます。また、トランザクションの各ステップを監視する 2 つ目の Knowledge Script を生成することもできます。

Web Recorder で記録したトランザクションから作成した Knowledge Script では、Web サイトを収容するサーバー側からではなくクライアント側から指定のトランザクションを監視しするため Web サイト上でのユーザーの実際の経験が示されます。

これらの Knowledge Script は、指定したスケジュールに従って Web サイトを監視させることができます。たとえば、サイトに初めてアクセスしたときから、注文までのトランザクション全体を 15 分ごとに監視する Knowledge Script ジョブを実行することができます。この実行間隔によって、サイトへのアクセスは 1 日中可能かどうか、ユーザーは常にトランザクションを完了できるかどうかを確認することができます。ステップのいずれかが失敗すると、イベントが発生します。各イベントには、トランザクションステップのサマリテーブルが含まれ、ユーザーに表示されるエラーメッセージと共にどのステップが失敗したかが示されます。

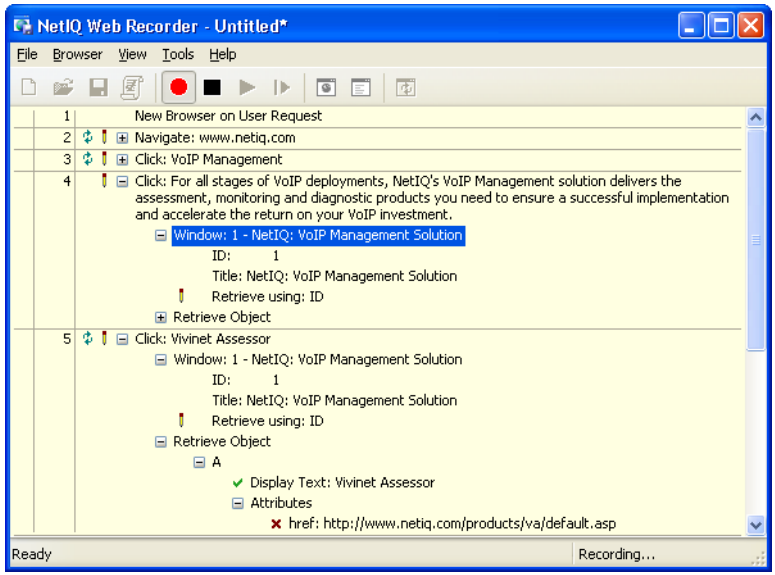
また、Web サイト上の各ページにレスポンスタイムのしきい値を設定することができます。しきい値を設定すると、サイト上の個々のページがロードされるのに時間がかかりすぎたときに イベントが発生します。Web ページ上の 1 行のテキストを選択して、スクリプトの再生中に一致するテキストを検索するロジックを Knowledge Script に追加することもできます。

Web Recorder の高度な機能

Web Recorder は Web サイトとユーザーとの対話を記録します。Web Recorder からの出力は、AppManager リポジトリにチェックインできる標準の Knowledge Script です。また、これらの Knowledge Script では reope0Recorder

を実行して、スクリプトを確実に実行（つまり、クライアントコンピュータ上でユーザーとのやりとりを再生）できるように編集できます。

Web Recorder には、スクリプトエディタとブラウザウィンドウという 2 つの主要なコンポーネントがあります。これは Microsoft Internet Explorer のいくつかの機能を改善します。記録するときに、URL をブラウザに入力し、トランザクションの完了に必要なすべてのリンクに従います。Web Recorder はトランザクションの各ステップの記録を作成し、この記録を修正して WebTransaction Knowledge Script として保存できます。以下にスクリプトエディタインタフェースの外観を示します。前に記録された Web ブラウザセッションが編集可能な一連のステップとして表示されます。



作成する WebTransaction Knowledge Scriptをクライアントコンピュータ上で実行すると、記録された正確なステップを実行し、レスポンスタイムおよびアベイラビリティ情報を収集して返します。

注意　WebTransaction Knowledge Script を再生するには、管理対象クライアントにログインユーザーがいる必要があります。詳細については、Web Recorder**『ユーザーガイド』の「**Web Recorder **の再生」の章を参照してください。**

保存した WebTransaction Knowledge Script は、定期的にトランザクションを実行できます。これにより、一日を通じたサイトのアベイラビリティ、内部リンクと外部リンクの完全性、およびページの読み込み速度を監視することができます。WebTransaction Knowledge Script を使用してイベントを生成し、AppManager レポートのためのデータを収集できます。記録されたトランザクション全体、またはトランザクションの個々のステップのしきい値を設定すると、しきい値を超えたときにイベントが発生します。

WebTransaction Knowledge Script は記録された各 Web ページのトランザクションデータを収集し（Knowledge Script 再生中にステップとして表示される）、トランザクションの総プロセスタイム（Knowledge Script によって監視されるすべてのステップが完了するまでに掛かる合計の秒数）を返します。各ステップから収集されたデータは、グラフウィンドウ、チャートコンソール、またはレポートに表示できるため、サイトパフォーマンスマンスの継続的な表示が可能です。総プロセスタイムにより、Knowledge Script を実行すべき頻度が決定されます。

Web Recorder のコンポーネント

Web Recorder は 5 つのウィンドウ（ビュー）で構成されます。各ウィンドウについての詳細は、Web Recorder の『ユーザーガイド』を参照してください。

- スクリプトエディタ

  Web Recorder のメインウィンドウです。

- ブラウザウィンドウ

  Web Recorder により拡張機能が追加された Internet Explorer ブラウザウィンドウです。

- HTML ストラクチャビュー

  選択された Web ページの HTML アーキテクチャを分析し、ブラウザによってパースされた情報を提供します。

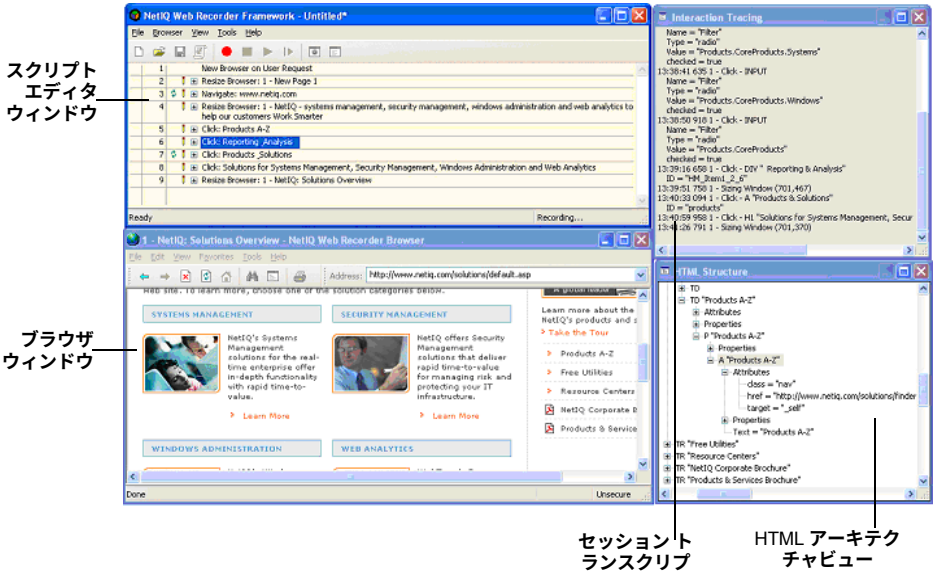
- オブジェクトプロパティビュー

  HTML ストラクチャビューから選択されたオブジェクトに定義された属性を分析します。

- セッショントランスクリプトビュー

  記録されたブラウズセッションの間、指定 Web サイトでの Internet Explorer とのやり取りを高度に再現します。

以下の図に、すべての Web Recorder コンポーネントを示します。



Web Recorder を起動すると、デフォルトではスクリプトエディタウィンドウだけが開きます。スクリプトエディタのメニューから、その他のウィンドウにアクセスして表示することができます。

WebTransaction Knowledge Script の実行

Web-RT Knowledge Scriptは、Web-RT管理対象オブジェクトがインストールされたコンピュータ上で稼動します。WebTransaction サブカテゴリの Web-RT Knowledge Script は Web Recorder によって生成されます。WebTransaction Knowledge Script は、その他の Knowledge Script とほぼ同様の規則に従いますが、ジョブを実行する代わりに、記録された Web トランザクションを再生し、時間を計測します。

注意　WebTransaction Knowledge Script を再生するコンピュータには、ログインユーザーと有効な Internet Explorer **プロファイルが必要です。詳細について**

は、Web Recorder**『ユーザーガイド』の再生に関する章を参照してください。**

Web Recorder で生成した Knowledge Script を実行するには、以下の操作を行います。

1 Web トランザクションを開始するコンピュータ上に Knowledge Script をドラッグアンドドロップします。さまざまな接続を使用するサイトのパフォーマンスをテストするには、地理的に異なる場所にあるコンピュータを使用します。

注意　同じ Knowledge Script を使用して多くの異なる場所から Web サイトを監視するには、そのサイトのログインは、Knowledge Script で指定したユーザーによる複数のログインが可能になるように設定する必要があります。

2 [スケジュール] タブをクリックし、Knowledge Script を実行する間隔と時間を設定します。

実行間隔は全体処理時間（これは Knowledge Script の再生後に [結果] ウィンドウに表示されます）と同一コンピュータ上で実行される WebTransaction Knowledge Script ジョブの数に基づいて決めます。詳細については、Web Recorder『ユーザーガイド』の「Web Recorder の再生」の章を参照してください。

3 ［パラメータ値］タブをクリックし、イベント、データ収集、およびしきい値のパラメータを設定します。トランザクションの特定のステップに対するレスポンスタイムを監視する場合は、記録したトランザクションを Knowledge Script として保存する前に、監視する個々のステップを選択する必要があります。

4 [アクション] タブをクリックし、しきい値を超えたとき、またはステップが失敗したときのアクションを設定します。

5 [OK] をクリックします。

WebTransaction Knowledge Script について

他の Web-RT Knowledge Script（および大半の AppManager Knowledge Script）とは異なり、WebTransaction Knowledge Script を実行するにはクライアント上のデスクストップを制御する必要があります。また、クライアントからのより多くのリソースを必要とします。他の AppManager Knowledge Script と同様に、負荷を軽減するための一定の制約があります。次の項には、クライアントコンピュータ上で WebTransaction Knowledge Script を実行するためのヒントが記載されています。

- 「同一コンピュータ上での WebTransaction Knowledge Script と Win-RT Knowledge Script の実行」28 ページ
- 「WebTransaction の制限の設定」29 ページ

上記の他に、ホワイトペーパー「Web ResponseTime エージェントのスケーラビリティを概算するためのベストプラクティス」も参照してください。これは AppManager の CD-ROM および Web からダウンロードできる AppManager ResponseTime for Web のパッケージに含まれています。厳格なテスト結果に基づくこのホワイトペーパーでは、ベストプラクティスのガイドラインと複数の Web-RT Knowledge Script を同時に実行する際の制約について説明します。

同一コンピュータ上での WebTransaction Knowledge Script と Win-RT Knowledge Script の実行

AppManager ResponseTime for Windows と AppManager ResponseTime for Web を 1 台のコンピュータ上にインストールし、同一コンピュータ上で Web-RT Knowledge Script と Win-RT Knowledge Script を実行できます。ただし、Win-RT Knowledge Script と WebTransaction Knowledge Script は同時に実行できません。どちらの Knowledge Script もオブジェクト上で実行するためにデスクトップを制御する必要がありますが、デスクトップの所有権を持つことができるのは 1 度の 1 つのモジュールのみです。

注意　Web Recorder によって生成される Web-RT Knowledge Script だけがこの問題の影響を受けます。URL Check Recorder アドインによって生成されたもの（URLCheck Knowledge Script）も含めて、その他の Web-RT Knowledge Script はデスクトップの所有権を必要としないため、Win-RT Knowledge Script と同時に実行できます。

デスクトップの所有権は、「HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\NetIQ\Response Time」レジストリキーの下の共有レジストリ値「Desktop」によって管理されます。このキーの値として示されるモジュール名（Web-RT または Win-RT）により実行される Knowledge Script が決まります。

Web-RT_WebTransaction Knowledge Script または Win-RT Knowledge Script をクライアント上にドロップすると、レジストリ値「Desktop」が既に存在するかどうかをチェックし、次の処理を実行します。

- 値がない（または空白の）場合、「Desktop」値に対応するモジュール名が指定されます。値が指定されると、Knowledge Script が実行されます。「Desktop」値が指定されないと、エラーイベントが発生し、スクリプトは実行を停止します。

- 「Desktop」値がすでに存在し、Knowledge Script の対応モジュール名に設定されている場合、スクリプトは通常通りに実行されます。
- レジストリ値がすでに存在し、Knowledge Script の対応モジュール名に設定されていない場合、エラーイベントが発生し、スクリプトは実行を停止します。

AppManager ResponseTime for Windows と ResponseTime for Web の両方に、デスクトップの所有権を取得するための Knowledge Script が含まれています。一度「Desktop」レジストリ値が設定されると、このスクリプトは既存の値を上書きし、デスクトップの制御を対応モジュールに与えます。

ResponseTime for Windows では、この Knowledge Script は Win-RT_TakeDesktopOwnership と呼ばれます。ResponseTime for Web では、Web-RT_TakeDesktopOwnership Knowledge Script が使用されます。

WebTransaction の制限の設定

Web-RT 管理対象オブジェクトでは、Internet Explorer とのリソースの問題を避けるために、同時トランザクションの数が 5 までに制限されています。この値は実行時に設定されます。各 WebTransaction ジョブごとに、対応する QWEBA6.exe プロセスが生成されます。これは AppManager エージェント（netiqmc プロセス）からプロセス外で実行されます。QWEBA6.exe プロセスを開始すると、実行するためのトークンがあるかどうかがチェックされます。使用可能なトークンの数は、レジストリキー WebTransactionLimit62 の値により定義されます。このデフォルト値は 5 です。

キー： HKLM¥Software¥netiq¥Response Time
値：WebTransactionLimit62

ジョブがトークンを取得できないと、トランザクションはキューに追加され、キュータイマーが起動します。この限度は Knowledge Script に定義されています。

注意 1 ～ 5 までの値を指定できます。それ以外のすべての値は無視され、デフォルトの 5 が使用されます。この値を変更するには、すべてのジョブを停止する必要があります。また、アクティブな QWEBA6.exe が実行されている間には、変更は有効になりません。

Web Recorder の旧バージョンでは同様のキー WebTransactionLimit が使用されていました。

ジョブのキュータイムアウトが切れると、トランザクションは実行されず、「キュータイムアウト」イベントが発生します。トランザクションはキューの最後に移動します。「キュータイムアウト」イベントの例を以下に示します。

```
Error 0x803C0106: The job was aborted because it failed
to obtain Internet Explorer resources before timing out.
```

この問題を避けるには、次の手順から選択して実行します。

- キュータイムアウト値を増やす。AppManager オペレータコンソールで [プロパティ] ダイアログボックスを開き、このパラメータの値を変更します。
- ジョブの実行間隔を増やします（[プロパティ] ダイアログボックスでスケジュールを変更することにより）。
- クライアントコンピュータ上の WebTransaction ジョブの数を減らします。

トークンを入手すると、トランザクションが実行され、ジョブのタイムアウトタイマが起動されます。トランザクションが、Knowledge Script に定義されたジョブのタイムアウト値を超えると、トランザクションが停止して「ジョブタイムアウト」イベントが生成されます。

```
Error 0x803C0104: The job was aborted because it had been
using Internet Explorer resources for too long.
```

ジョブは、次のどちらかの理由でタイムアウトになった可能性があります。

- Web サーバーが応答を停止した。
- ジョブタイムアウト値が低すぎる。

ジョブタイムアウト問題を避けるには、次の手順から選択して実行します。

- Web サーバーが使用可能なことを確認します。
- ジョブタイムアウト値を増やします。AppManager オペレータコンソールで [プロパティ] ダイアログボックスを開き、このパラメータの値を変更します。

ジョブタイムアウトイベントを受け取ると、結果の総プロセスタイムが数ミリ秒ずれていることがあります。通常、総プロセスタイムは適切なジョブタイムアウト値を決定するためのガイドラインです。ジョブタイムアウト値は総プロセスタイムより若干長くする必要があります。ただし、ジョブタイムアウトの場合、ジョブタイムアウト値が総プロセスタイムより若干短いことがあります。

WebTransaction Knowledge Scriptを実行するための総合的なガイドラインについては、Web Recorderの『ユーザーガイド』を参照してください。

第 4 章

再生および WebTransaction の結果

Web Recorder で記録された Web 閲覧セッションを再生するたびに、暫定的結果が [Results] ウィンドウに表示されます。管理対象クライアント上で Web Recorder を使用して作成された Knowledge Script を実行すると、Response Time データポイントのデータの詳細に同一結果が表示されます。再生に失敗した場合には、失敗した結果がイベントの詳細に表示されます。これらのより包括的な結果は、WebTransaction Knowledge Script の実行後に AppManager オペレータコンソールでイベントおよびデータの詳細をドリルダウンすることで表示できます。

Web Recorder Playback および WebTransaction Knowledge Script ジョブの結果については次のトピックを参照してください。

- 以下の「再生結果」
- 「Web トランザクションのデータポイント」37 ページ
- 「イベントとイベント詳細」39 ページ

再生結果

Web Recorder が記録されたトランザクションの再生を終了すると、[結果] ウィンドウにレスポンスタイプおよびアベイラビリティに関するデータがステップごとに詳細に表示されます。

[結果] ウィンドウに表示される、記録されたトランザクションの各ステップには、次の情報が含まれます。

1 ステップ番号、ステップの説明、およびステップの結果たとえば、次のようになります。

```
[ 1 - New Browser on User Request:      Ok]
```

ステップの結果は、次のいずれかです。

- `OK`
  ステップは正常に完了しました。
- `Failed`
  ステップは失敗しました。このように失敗した場合は、失敗のエラーコードを示す行が追加されます。問題の原因と解決法を調べるには、Web Recorder『ユーザーガイド』の「トラブルシューティング」の章を参照してください。
- `Failed And Continue`
  Search ステップおよび Advanced Search ステップでは、再生失敗イベントでトランザクションを中止するか継続するかを選択できます。継続を選択して検索が失敗すると、「`Failed and Continue`」がステップの結果となります。

  ウィンドウのステップは常に継続です。このため、記録中に表示されるダイアログボックス再生時に表示されない場合にこのエラーが発生することがあります。
- `Failed And Abort.`
  Search ステップおよび Advanced Search ステップでは、再生失敗イベントでトランザクションを中止するか継続するかを選択できます。中止を選択して検索が失敗すると、これがステップの結果となります。

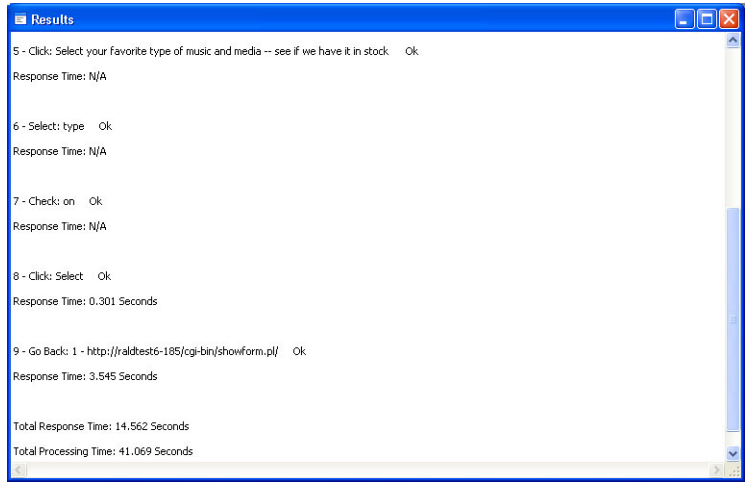
2 The Response Time for that step.

```
[ Response Time: 0.187 Seconds]
```

各ステップのレスポンスタイムは、Internet Explorer が発行する `DownloadBegin` 信号と `DownloadComplete` 信号との間のすべての時間値の合計です。Delay ステップによって生じる遅延や、ユーザーによって（低速での再生など）追加された遅延は、合計レスポンスタイムには含まれませんが、合計処理時間に含まれます。

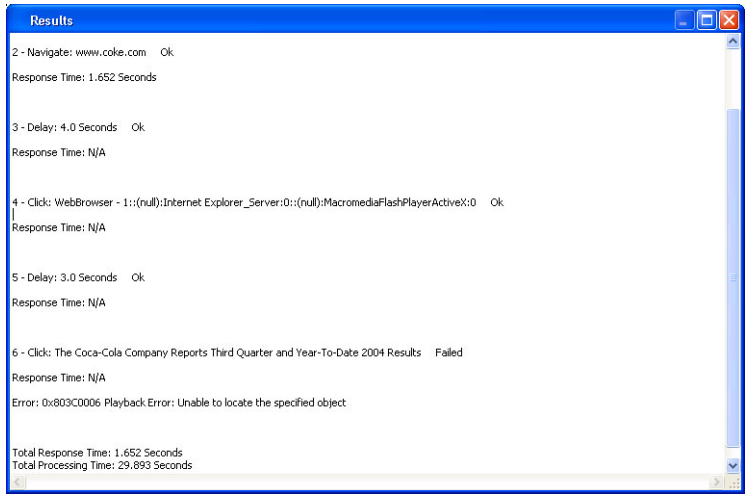
注意　すべてのステップの時間が計測されるわけではありません。ページの更新をトリガするステップだけが計測されます。対象となるステップはナビゲーションマーカーによって指定されます。

以下は、Plenty o’ CDs Music Emporium Web サイト上で実行されたトランザクションの結果です。



[Results] ウィンドウの下に、合計レスポンスタイムと合計処理時間の概要が示されています。合計処理時間は、記録されたトランザクション全体を再生するために掛かる時間です。一方、合計レスポンスタイムは、すべての個別ステップのレスポンスタイムの合計です。

別の [Results] ウィンドウに、4 番目のステップがオブジェクトを取得できなかったときに失敗したトランザクションを示します。



Web Recorder『ユーザーガイド』のトラブルシューティングの章に、ステップの失敗の大半の種類と、それらを解決するためのアドバイスが示されています。

レスポンスタイムのメッセージ

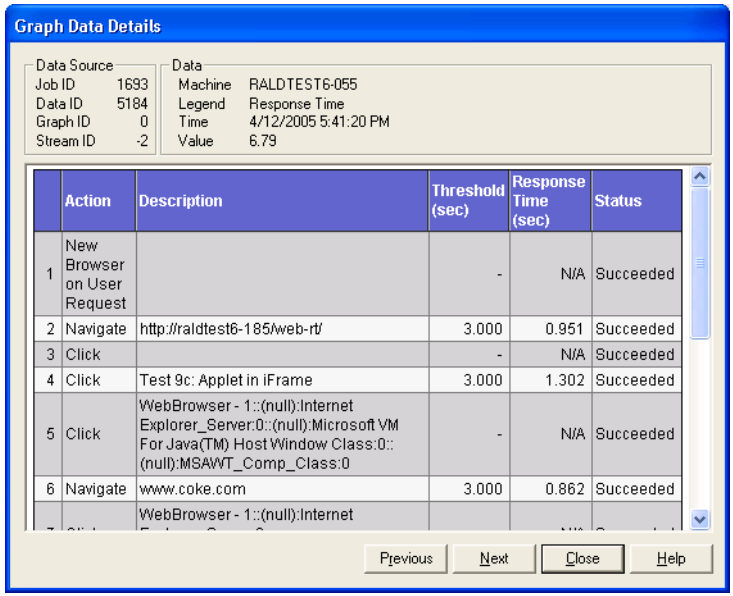
結果には、レスポンスタイム値の他に次のメッセージの 1 つが表示されます。

メッセージ	意味	原因
Response Time: N/A	**ステップの時間は測定されませんでした。**	**ステップに測定の指定がありません。**Script Editor Navigation **マーカーを受け取りませんでした。このステップでは、記録からはダウンロードアクションは予測されません。**

メッセージ	意味	原因
Response Time: None	ステップの時間は測定されましたが、レスポンスタイムは測定されませんでした。	これは、記録中にダウンロードアクションが発生すると起こりますが、再生中に常に起きるわけではありません。これは一般的な状況であり、僅かな時間（例：0.020秒）しか掛かりません。
Response Time: *N*	ステップの時間は測定されました。示された値はステップの完了までに掛かった秒数です。	

Web トランザクションのデータポイント

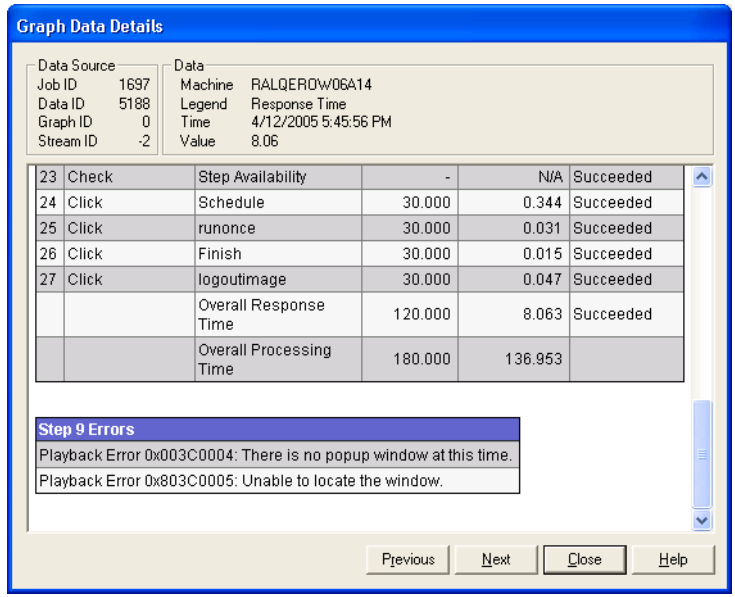
WebTransaction Knowledge Script ジョブが正常に実行されると、Availability、Processing Time、および Response Time のデータポイントが生成されます。Overall Availability および Overall Response Time データポイントは、データの詳細を提供します。Overall Response Time データポイントの詳細には、Web Recorder によって表示される [Results] ウィンドウと同様の形式で結果が示されます。



各トランザクションステップごとに測定されたレスポンスタイムは、ジョブを実行する際に設定したレスポンスタイムしきい値の隣に表示されます。測定されたレスポンスタイムがしきい値を超えると赤く表示されます。

4	Text Change	password	-	N/A	Succeeded
5	Click	Login to SkillPort	3,000	4,076	Succeeded
6	Click	OK	3,000	4,607	Succeeded
7	Search	SEARCH-and-LEARN	-	N/A	Succeeded

ステップが失敗し、ジョブが中止されると、Step Failure イベントが生成され、Overall Response Time データポイントは生成されません。このような場合、Overall Availability データポイントは「0」です。エラーメッセージがある場合は、結果と共に表の下に表示されます。



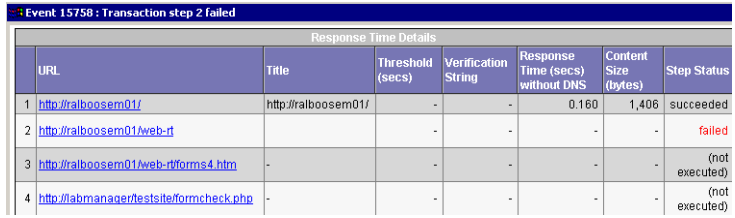
対応する Knowledge Script パラメータが有効になっている場合は、Web トランザクションの各個別ステップに対してAvailabilityおよびResponse Time データポイントも生成されます。Overall Availability および Overall Response Time データポイントと異なり、これらのデータポイントにはデータ詳細が含まれていません。

注意　リポジトリが一杯になる恐れがあるため、すべてのステップにデータ収集を有効にすることはお薦めしません。WebTransaction Knowledge Script **ジョブは、各ジョブに複数のデータポイントを生成することがあります。これについては、**Web Recorder**『ユーザーガイド』で詳細に説明されています。**

イベントとイベント詳細

Web Recorder を使用して Knowledge Script を記録中に、ステップが失敗した場合やステップのレスポンスタイムがしきい値を超えたときにイベントを発生させたり、そのステップのページに含まれる文字列を指定して検索するように各ステップを構成することができます。イベント詳細に結果が

表示されます。以下の図は、失敗したトランザクションステップのイベント詳細です。記録されたスクリプト内の失敗した（failed）ステップに続く各ステップは完了していません（ステータスは「未実行（not executed）」）。



Event 15758 : Transaction step 2 failed

Response Time Details

	URL	Title	Threshold (secs)	Verification String	Response Time (secs) without DNS	Content Size (bytes)	Step Status
1	http://ralboosem01/	http://ralboosem01/	-	-	0.160	1,406	succeeded
2	http://ralboosem01/web-rt		-	-	-	-	failed
3	http://ralboosem01/web-rt/forms4.htm	-	-	-	-	-	(not executed)
4	http://labmanager/testsite/formcheck.php	-	-	-	-	-	(not executed)

第 5 章

URL Check Recorder の使用

AppManager ResponseTime for Web と共に URL Check Recorder を使用するためのガイドラインを示します。次の項目について説明します。

- 「レコーダオプション」42 ページ
- 「[Script Options] タブ」43 ページ
- 「[URLs] タブ」45 ページ
- 「URLCheck Knowledge Script のチェックイン」52 ページ
- 「[URL Properties]」53 ページ

アドインの URL Check Recorder から生成される Knowledge Script は Web-RT Knowledge Script の URL Check サブカテゴリに分類されます。これらのスクリプトは複数のURLのアベイラビリティとパフォーマンスに焦点を置いています。これらのスクリプトは、ページ上のリンクおよびオブジェクトを確認するほかに、特定のテキスト、リンク、またはオブジェクトを検索することもできます。「**Check Link**」機能を使用すると、多数の URL のアベイラビリティをすばやく確認できます。URL Check Recorder の出力形式は標準の Knowledge Script 形式（.QML）で、URL Check Recorder で開きなおして簡単に更新ができます。

Web-RT Knowledge Script のサブカテゴリである URLCheck の結果は、イベントおよびアベイラビリティ（%）データポイントのデータ詳細に含まれます。Knowledge Script は多数の URL を含むことがあるため、[**Validate all links**]（すべてのリンクを検証）および [**Validate all objects**]（すべてのオブジェクトを検証）などのオプションが大量の結果を返す可能性があります。そのため、デフォルトではエラー情報だけがイベントに含まれ、アベイラビリティ（%）データポイントのデータ詳細は含まれません。

警告：デフォルトを変更してデータ詳細を制限しないと、リポジトリがすぐにいっぱいになり、AppManager システム全体の結果収集に影響を及ぼす恐れがあります。

はじめに

URL Check Recorder を起動するには、AppManager オペレータコンソールから [アドイン]、[**URL Check Recorder**] をクリックします。[**URLs**] タブをクリックします。[Link] テーブルセルをクリックして有効にします。リンクフィールドに URL を入力します。必要に応じて、**Enter** キーを押し、その欄の別のセルに URL を入力します。

次に任意の URL を右クリックして [Verify] を選択しテストします。[**Script Options**] タブで選択したオプションを使用してリンクの確認が実行されます。

または、作業を保存して Knowledge Script としてリポジトリにチェックインします。ファイルメニューで [別名で保存] をクリックし、チェックインします。

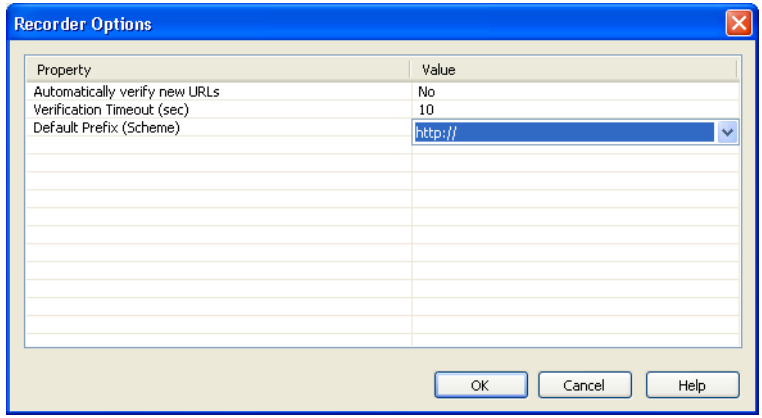
レコーダオプション

[Recorder Options] ダイアログボックスでは、[**URLs**] タブに入力した URL を URL Check Recorder がどのように処理すべきかを決定する全般的設定を行うことができます。これらのオプションは、以下のレジストリに保存されます。`HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥NetIQ¥Response Time¥URL Check Recorder`.

[Recorder Options] ダイアログボックスを表示するには、ツールメニューから **[Recorder Options]** を選択します。

- [**Automatically verify new URLs**] このオプションを選択すると、新規 URL が入力されたときや URL が修正されたときに、バックグランドで URL の確認が自動的に行われます。確認の結果を示すアイコンが [**URLs**] タブ上の該当する URL の隣に表示されます。
- [**Verification timeout**]：URL の確認を終了するまでの時間を指定します。

- [**Default prefix (Scheme)**]：HTTP または HTTPS のいずれかを選択します。プレフィックスが入力されていない場合、このデフォルトのプレフィックスが URL の先頭に自動的に付加されます。



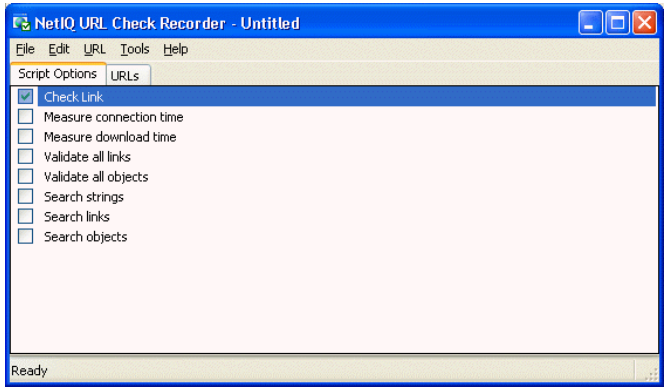
[Script Options] タブ

[**Script Options**] タブは、Knowledge Script の動作のチェックリストです。ここで選択したオプションにより、[URL Properties] ダイアログボックスの対応するオプションが表示または非表示（グレーアウト）になります。

スクリプトオプションにより、残りのワークセッションの設定と出力が決定されます。たとえば、[**Script Options**] タブの [**Validate all links**] スクリプトオプションを有効にする場合は、結果としての URLCheck Knowledge Script により、該当するパラメータが追加され次の図のように [プロパティ] ダイアログボックスで強調表示されます。

Event Severity		
Event severity when URL fails	10	Severity
Event severity when overall URL availability falls below threshold	15	Severity
Event severity when connection time threshold is exceeded	21	Severity
Event severity when download time threshold is exceeded	21	Severity
Event severity when link validation is in error	22	Severity
Event severity when object validation is in error	22	Severity
Event severity when search string criteria are met	25	Severity
Event severity when search link criteria are met	25	Severity
Event severity when search object criteria are met	25	Severity

新しい Knowledge Script が作成されたり、既存の Knowledge Script が開かれると、[Script Options] タブがデフォルトで表示されます。各オプションの説明は以下の [Script Options] を参照してください。



[Script Options]

ここで選択するオプションによって、選択された Knowledge Script で実行される内容が決まります。オプションの選択を追加することにより、異なる動作と出力テーブルが得られます。ここでスクリプトオプションが選択

されていない限り、[URL Properties] の対応するオプションは使用できません。

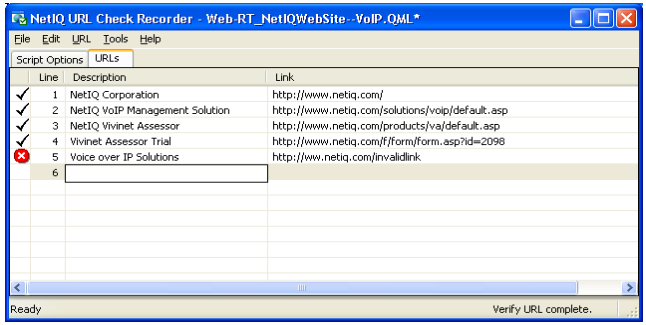
オプション	説明
Check Link	デフォルトの動作。その他の選択はすべて付加的です。リストされている URL の状態をチェックする Knowledge Script を作成します。
Measure connection time	このオプションを有効にすると、URL によって示されるページへの接続とデータの最初のバイトの受信に掛かった時間が返されます。
Measure download time	このオプションを有効にすると、HTML と関連オブジェクトのダウンロードに掛かった時間が返されます。
Validate all links	このオプションを有効にすると、ページ上のすべてのリンクのステータスコードがチェックされます。
Validate all objects	このオプションを有効にすると、ページ上のすべてのオブジェクトのステータスコードをチェックします。
Search strings	このオプションを有効にすると、ページの表示部分上の特定の文字列を検索します。
Search links	このオプションを有効にすると、HTML（HTML 要素の HREF 属性）内の特定のリンクを検索します。
Search objects	このオプションを有効にすると、HTML（HTML 要素の SRC 属性）内の特定のオブジェクトを検索します。

ヒント矢印キーを使用してオプション間を移動し、スペースバーを押してオプションをチェックまたはクリアできます。[Check link]オプションは常にチェックされており、クリアすることはできません。

[URLs] タブ

[**URLs**] タブは URL Check Recorder の中心部で、操作の大半はここで行います。URL と各 URL に関する情報をテーブルセルに入力します。確認オプションが [Preferences] ダイアログボックス（「[Edit] メニュー」49 ページを参照）で選択されている場合、URL Check Recorder は入力された情報を使用して各リンクを自動的に確認します。確認には [General] タブで選択されているプロパティが使用されます。

確認処理はバックグランドで実行され、別のスレッドが使用されます。つまり、他の URL の確認処理を行いながら新たな URL を追加したり編集したりできます。ただし、リンクの確認中は、そのリンクを削除することはできません。



URL を Web ブラウザからリンクフィールドへとドラッグアンドドロップするか、Windows のクリップボードを使用して URL に貼り付けることができます。リンクのデフォルトの説明が [**Description**] フィールドに自動的に表示されます。ドラッグアンドドロップ機能については、「[Explore] メニュー項目」48 ページを参照してください。リンクの説明がテーブルセル内に収まらない場合は、ツールチップに表示されます。

[**Status**] カラムには URL の確認結果が表示されます。ツールチップにはステータスコードが表示されます。この説明は、Web サーバーか、サーバーに接続できない場合はデスクトップに表示されます。ステータスコードの詳細については、「Status Codes」84 ページを参照してください。

[URLs] タブでは、テーブル上で URL の検索および編集が行えます。左のカラムには URL の確認状況が表示されます。URL の確認を行うには、[URL] メニューの [**Verify**] をクリックします。URL の確認中は、アイコンが表示されます。URL の確認が正常に終了すると、黒いチェックマークが表示されます。赤い X が表示された場合、確認が失敗したことを表しています。南京錠のアイコンが表示された場合は、認証が必要であることを表しています。認証を必要とするリンクの確認を行うには、[URL Properties] ダイアログボックスの [**General**] タブで、ユーザー名とパスワードを設定してから確認を行います。

[**Line**] カラムには、行番号（出力時の参照用）、[**Status**] カラムには HTTP ステータスコード（2xx-5xx）、WinHTTP または WinINet エラーメッセージ（12xxx）、または Windows Socket エラーコード（11xxxx）のいずれかが表示されます。さらに、エラーコードの詳細がツールチップに表示されます。これらのコードについては、「Status Codes」84 ページを参照してください。

新しい URL のパスを定義するときに、「HTTP」や「HTTPS」を入力する必要はありません。URL Check Recorder はこれらのプレフィックスを受け付けますが、プレフィックスが入力されていない場合、デフォルトのプレフィックスを自動的に追加します。デフォルトのプレフィックスは [Preferences] ダイアログボックスに定義されます（「[Edit] メニュー」49 ページを参照）。

注意　HTTP:// または HTTPS:// を使用する URL のみ入力できます。FTP://、FILE://、MAILTO://、GOPHER:// などで始まる URL はサポートされていません。

[URL] メニューの [**Properties**] をクリックし、URL のプロパティを設定します。イベント生成、プロキシのユーザー ID とパスワード、ダウンロード時間のしきい値、および HTML コードで検索する検索文字列を決定するプロパティなどを設定します。詳細については、「[URL Properties]」53 ページを参照してください。リスト内の URL に対して、切り取り、コピー、貼り付け、またはドラッグアンドドロップが行えます。任意の URL から選択した URL に URL のプロパティをコピーするには、[Edit] メニューの [**Paste Properties**] をクリックします。詳細については、「[Paste Properties] ダイアログボックス」51 ページを参照してください。

検索機能

1 つの URLCheck Knowledge Script に複数の URL を含めることができます。スクリプトが非常に大きいときには、URL テーブルから特定の URL を見つけ難くなります。検索機能を使用すると URL テーブルで文字列を簡単に検索できます。

検索機能を使用するには、まず、URL Check RecorderでURLCheck Knowledge Script を開きます。[**URLs**] タブで [Edit] メニューから [Find] を選択します。

テーブル内で検索する文字列を入力して [**Find**] をクリックします。[**Description**] カラムと [**Link**] カラムの両方で文字列が検索されます。

文字列が見つかると、テーブルがスクロールされ URL が強調表示されます。入力した文字列がない場合は、テーブルの終わりに達したことを知らせるメッセージが表示されます。

[URLs] テーブルで URL を操作するためのヒント

以下の方法で [**URLs**] テーブル内を移動できます。

- 上下矢印キーを使用して行から行への移動が行えます。[**Description**] カラムと [**Link**] カラムのセルは編集可能です。
- 左向きおよび右向き矢印キーを使用して空の [**Description**] カラムと [**Link**] カラムの間を移動できます。
- Tab キーを使用してグリッド内で左から右に移動できます。一番右のセルで Tab キーを押すと、選択対象が次の行の一番左のセルに移ります。
- セル内に情報を直接入力できます。セルの内容を変更した後に上下矢印キーや Tab キーを押すと、変更が保存されて選択対象が別のセルに移ります。

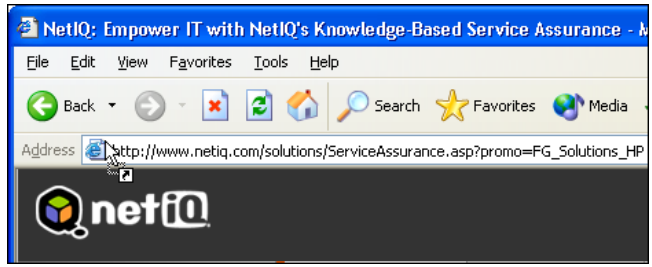
入力中に左右矢印キーを押すと、行から行ではなく文字から文字への移動が行えます。

[Explore] メニュー項目

[**Explore**] メニューを使用して Internet Explorer で選択された URL を開きます。[**URLs**] タブで URL を含むセルをクリックします。次に、URL メニューで [**Explore**] をクリックします。

[Explore] メニュー項目では、開かれるブラウザを使用して確認したい URL を見つけ、即座にそれを URL Check Recorder に貼り付けることもできます。このメニュー項目を有効にするには URL を [**Link**] フィールドに入力します。次に開かれたブラウザウィンドウで、テストする Web サイトに移動します。ブラウザの [アドレス] フィールドで、Internet Explorer アイコンの上にマウスポインタを置きます。次に、URL を URL Check Recorder ウィン

ドウにドラッグします（以下の図のマウスポインタを参照）。URL を [リンク] カラムにドロップします。



URL をテーブルにドロップすると、URL Check Recorder によって新しい行が追加され、URL が貼り付けられ、その URL に関する説明がある場合はそれが挿入されます。Internet Explorer で Web の閲覧中に複雑な URL を見つけて追加する場合、この方法を使用すると便利です。新しい URL をテーブル内にドロップすると、画面が新しいエントリまでスクロールされ、その設定情報が表示されます。

URL テーブルでは、デスクトップまたは Internet Explorer の Web ページ内の任意のリンクからURLショートカットをドラッグアンドドロップすることもできます。標準の切り取り、コピー、貼り付け、削除、挿入などの機能もサポートされています（「[Edit] メニュー」 49 ページを参照）。

[Edit] メニュー

URL Check Recorder の [Edit] メニューでは以下の項目を使用することができます。

メニュー項目	ショートカットキー	アクション
Cut	Ctrl+X	選択項目を削除し、プロパティも含めてその選択項目をクリップボードに貼り付けます。項目が 1 つ選択されている場合のみ使用できます。
Copy	Ctrl+C	選択項目をプロパティも含めてクリップボードに貼り付けます。項目が 1 つ選択されている場合のみ使用できます。

Paste	Ctrl+V	• クリップボードに完全な URL がある場合、URL、ラベル、およびすべてのプロパティを、選択されているすべての URL に貼り付けます。 • クリップボードに保存されている URL がデスクトップまたは Internet Explorer から保存した URL のショートカットである場合、URL とそのラベルが行に貼り付けられます。 • クリップボードの内容がテキストのみで、セルが編集モードになっている場合、選択されているセルにテキストがコピーされます。 • クリップボードが空の場合は使用できません。
Paste Properties	Ctrl+P	• このリストからの URL がクリップボードに貼り付けられている場合、選択した URL に貼り付けたいプロパティを選択できます。 • このリストからの URL がクリップボードにない場合、または何も選択されていない場合、[Paste Properties] オプションは使用できません。「[Paste Properties] ダイアログボックス」51 ページを参照してください。
Delete	Del	現在の選択項目を削除します。項目が 1 つ以上選択されている場合のみ使用できます。

[URL] メニュー

URL Check Recorder の [URL] メニューでは以下の項目を使用することができます。

メニュー項目	ショートカットキー	アクション
Explore	F5	Microsoft Internet Explorer を使用して URL のページをレンダリングします。
Verify	Shift+F5	選択された URL の接続性を確認します（URL リストから URL が選択されている場合にのみ有効）。
Verify All	Ctrl+F5	すべての URL の接続性を確認します。

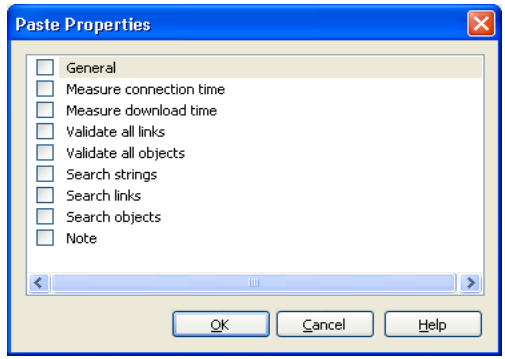
Insert	Ins	任意の URL が選択されている場合、その URL とそれ以下のすべての項目を 1 つ繰り下げて、その URL の元の位置に新規 URL を挿入します。URL が選択されていない場合、リストの最後に新規 URL を追加します。
Stop Verify	Break	確認を停止します（確認の実行中のみ使用可能）。
Properties…	Ctrl+Enter	選択された URL の [URL Properties] ダイアログボックスを表示します（項目が最低 1 つ選択されている場合のみ使用できます）。詳細については、「[URL Properties]」 53 ページを参照してください。

[Paste Properties] ダイアログボックス

[Paste Properties] 機能を使用して、[URL Properties] ダイアログボックスで選択した任意の URL のプロパティを、別の URL（複数可）にコピーすることができます。

[Paste Properties] ダイアログボックスは、クリップボードに完全な URL があり、[URLs] ダイアログボックスの各種タブでいくつかの URL プロパティが選択されている場合に使用できます。この機能を使用するには、クリップボードにコピーする URL の行と貼り付け先の行の、行全体を選択する必要があります。

[Paste Properties] チェックリストには、貼り付け可能な値が表示されます。リストされる要素は、[Script Options] ダイアログボックスの設定に応じて異なります。使用可能なプロパティの詳細については、「[URL Properties]」 53 ページを参照してください。



URL Check Recorder の制約

URL Check Recorder は、各 Knowledge Script ファイルあたり最大で 999 個までの URL をサポートします。

`HTTP://` または `HTTPS://` を使用する URL のみサポートされます。`FTP://`、`FILE://`、`MAILTO://`、`GOPHER://` などで始まる URL はサポートされていません。

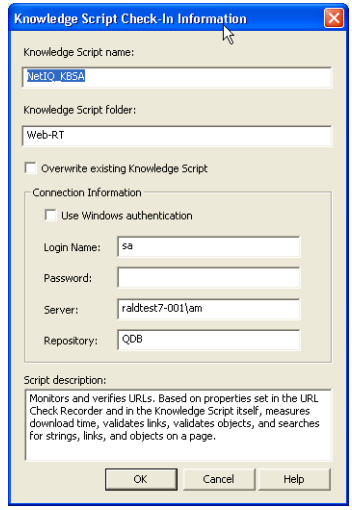
「/」を含むリンクの説明は、URL をグリッドにドラッグアンドドロップするときに正しくコピーされません。表示される説明には、「/」に続く文字だけが含まれ、「/」は「-」に変更されます。この解決策としては、手動で説明を入力するか、「/」を別の文字に変更します。

URL Check Recorder の制約についての詳細は、第 8 章「AppManager ResponseTime for Web のトラブルシューティング」を参照してください。

URLCheck Knowledge Script のチェックイン

[Knowledge Script Check-In]ダイアログボックスでは、保存されたKnowledge Script を指定の AppManager リポジトリにチェックインできます。これらの URLCheck Knowledge Script は、デフォルトでは Knowledge Script ウィンドウの [**Web-RT**] タブに追加されます。[Knowledge Script Check-In] ダイアログボックスを表示するには、[File] メニューから [**Check-In**] を選択します。

Knowledge Script 名、AppManager 管理サーバー名、リポジトリ名を入力します。次に使用する認証モードを選択します。Windows 認証か SQL 認証のいずれかを使用してリポジトリにアクセスできます。



注意　[Knowledge Script Folder] フィールドのデフォルト値を変更すると、URLCheck Knowledge Script は AppManager オペレータコンソールの [Web-RT] タブに表示されません。

Knowledge Script フォルダ名と Knowledge Script 名の合計は 40 文字を超えることはできません。

チェックインに成功しても失敗しても、確認のダイアログボックスに結果が表示されます。

[URL Properties]

このダイアログボックスでは、選択した URL の個々のプロパティを修正できます。定義したプロパティは選択した URL、またその URL から作成した Knowledge Script にのみ適用されます。[**General**] タブは常に使用できます。それ以外のタブはさまざまな [Script Options] に対応しており、該当するスクリプトオプションが選択されている場合のみ使用できます。

URL プロパティの詳細については、以下のトピックを参照してください。

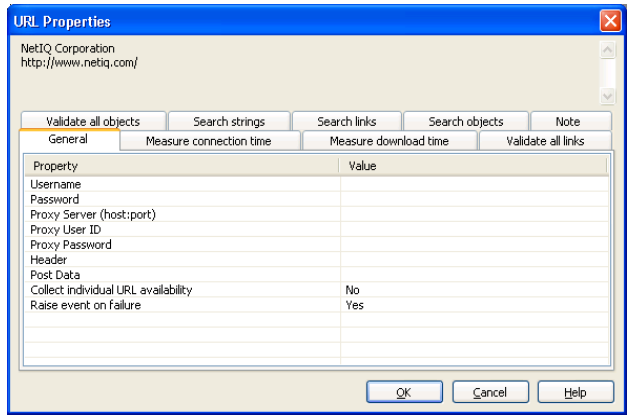
- 「[General] タブ」54 ページ
- 「Measure Connection Time」56 ページ
- 「Measure Download Time」57 ページ
- 「[Validate all links]」58 ページ
- 「[Validate all objects]」60 ページ
- 「[Search strings]」61 ページ
- 「[Search links]」62 ページ
- 「[Search objects]」63 ページ
- 「注意」65 ページ

[General] タブ

このプロパティタブでは、各 URL の接続およびペイロードのパラメータを定義できます。

このタブで指定された値は、リンクの確認に使用されます。リンク確認の実行により、Knowledge Script にチェックインする前に認証やプロキシの設定を確認することができます。**[URLs]** タブ上の URL を強調表示して [URL] メニューの [Verify] をクリックします。

注意　パスワードは、データ入力時およびネットワーク送信時には暗号化されます。



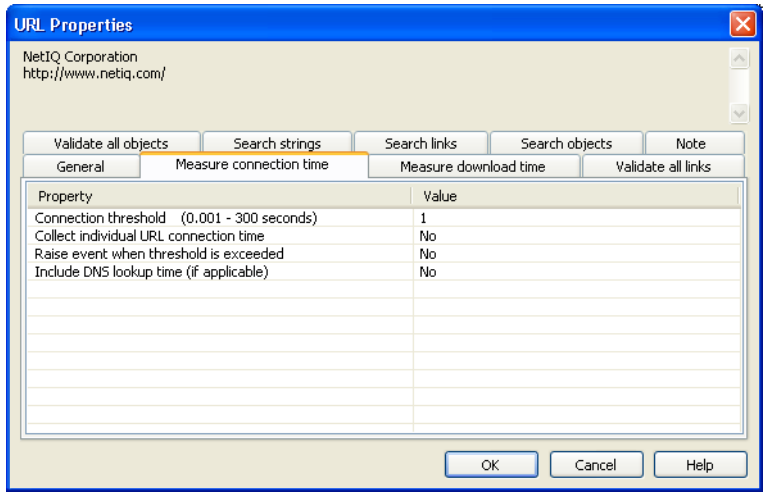
プロパティ	値
Username	URL 認証のユーザー名を入力します。このパラメータはオプションです。
Password	URL 認証のパスワードを入力します。自動的に暗号化されます。このパラメータはオプションです。
Proxy Server (host:port)	プロキシサーバーのホスト名とポート番号を「ホスト：ポート」の形式で入力します。このパラメータはオプションです。
Proxy User ID	プロキシサーバー認証のユーザー名を入力します。このパラメータはオプションです。
Proxy Password	プロキシサーバー認証のパスワードを入力します。自動的に暗号化されます。このパラメータはオプションです。
Header	サーバーで実行される各種機能に必要なヘッダを入力します。「値：パラメータ」の形式で入力します。1 つのヘッダのみサポートされます。 このパラメータはオプションです。

Post Data	**ページを受信して適切に要求を処理するために必要な追加データを入力します。これは** `HTTP Get` **関数の「?」に続くデータです。「名前 / 値」が対になります。入力形式は、「値** `1=` **パラメータ** `&` **値** `2=` **パラメータ** `2`**」です。** **このパラメータはオプションです。**
Collect individual URL Availability?	**個々の** URL **のアベイラビリティに関するデータを収集するには** [Yes] **を設定します。デフォルトは** [No] **です。結果はグラフおよび** [Graph Data] **タブに反映されます。**
Raise event on failure?	**インターネット接続またはベースページの読み込みが失敗したときにイベントを生成するには、** [Yes] **を設定します。デフォルトは** [Yes] **です。**

Measure Connection Time

このプロパティタブでは、URL によって示されるページへの接続とデータの最初のバイトの受信に掛かる時間にしきい値を定義できます。

[Measure connection time] プロパティは、該当するスクリプトオプションが選択されている場合にのみ有効です。

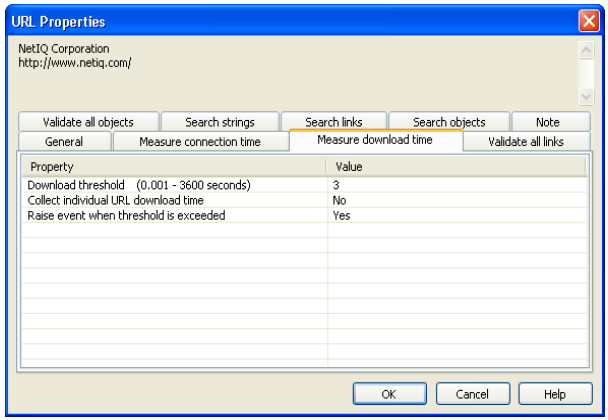


プロパティ	値
Connection threshold (0.001 - 300 seconds)	許容される最大接続時間（秒単位）、URL への接続と関連 Web ページの最初のバイトをダウンロードするまでに掛かった時間を指定します。接続に掛かった時間がこのしきい値を超えるとイベントが発生します。 デフォルトは 1 秒です。
Collect individual URL connection time?	この URL の接続時間データ系列を生成するには、[Yes] を設定します。 デフォルトは [No] です。
Raise event if threshold is exceeded?	指定 Web ページへの接続し 1 バイトをダウンロードするまでに掛かった時間が接続しきい値を超えたときにイベントを発生させるには、[Yes] を設定します。 デフォルトは [Yes] です。
Include DNS lookup time (if applicable)?	接続時間の測定に、DNS サーバーが URL を解決するために掛かる時間を含めるには、[Yes] を設定します。 デフォルトは [No] です。

Measure Download Time

このプロパティタブでは、HTML および関連オブジェクトをダウンロードするのにかかる時間のしきい値を定義できます。

[Measure download time] プロパティは、該当するスクリプトオプションが選択されている場合にのみ有効です。



プロパティ	値
Download threshold (0.001 - 3600 seconds)	URL が示す Web ページ上の HTML とすべてのオブジェクトを完全にダウンロードするために掛かる時間の最大しきい値です。ページの完全なダウンロードに掛かる時間がダウンロードしきい値を超えると、イベントが発生します。 デフォルトは 3 秒です。
Collect individual URL download time?	個別の URL と対応するページの完全なダウンロードに掛かる時間についてデータを収集するには、[Yes] を設定します。 デフォルトは [No] です。
Raise event if threshold is exceeded?	1 つの URL でダウンロード時間がしきい値を超えたときにイベントを発生させるには、[Yes] を設定します。 デフォルトは [No] です。

[Validate all links]

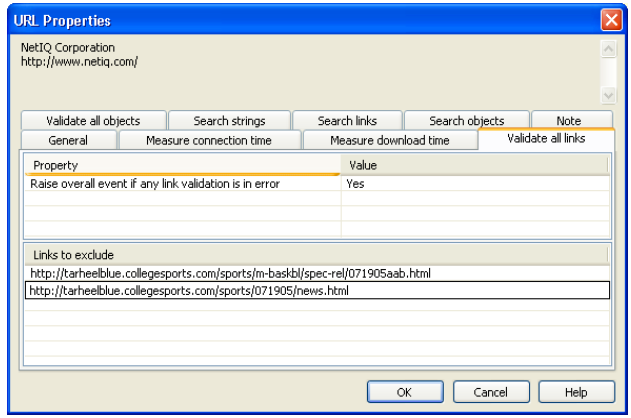
このプロパティタブは、ページ上のすべてのリンクのステータスコードをチェックします。[**Links to exclude**] フィールドに除外するリンクを入力す

るか貼り付けることにより、除外するリンクのリストを作成することもできます。[**Validate all links**] プロパティは、該当するスクリプトオプションが選択されている場合にのみ有効です。

以下の HTML 要素がリンクであるとみなされます。

- `A HREF=`
- `LINK HREF=`
- `AREA HREF=`
- `FRAME SRC=`
- `IFRAME SRC=`

注意　ブックマークはリンクの確認では無視されます。たとえば、`<a href=mypage.htm#anchor1>`**ここをクリック** `</a>` **は、**`<a href=mypage.htm>`**ここをクリック** `</a>` **として見なされます。この場合、**`mypage.htm`**へのその他のリンク（その他のブックマークも含む）を確認しようとすると、リンクが複数回カウントされてしまいます。**



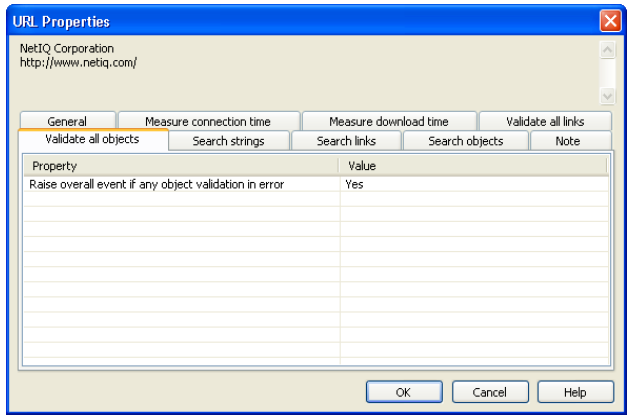
プロパティ	値
Raise overall event if any link validation is in error?	[**Yes**] に設定すると、この Knowledge Script によって確認されたリンクにエラーがある場合にイベントが発生します。イベントの詳細に、すべてのリンクとそのステータスがリストされます。 400 番代から 500 番代の HTTP ステータスコード、WinHTTP または WinINet エラーコード（12xxxx）、または Windows Socket エラーコード（11xxxx）が返されたリンクは、エラーとみなされます。 デフォルトは [Yes] です。 これらのコードについては、「Status Codes」84 ページを参照してください。
Links to exclude	確認から除外するリンクのリスト。このフィールドには 100 個までのリンクをドラッグアンドドロップするか入力できます。

[Validate all objects]

このプロパティタブは、ページ上のすべてのオブジェクトのステータスコードをチェックします。[**Validate all objects**] プロパティは、該当するスクリプトオプションが選択されている場合にのみ有効です。

以下の HTML 要素がオブジェクトであるとみなされます。

- `IMG SRC=`
- `EMBED SRC=`
- `BGSOUND SRC=`
- `INPUT TYPE=IMAGE SRC=`
- `SCRIPT SRC=`
- `APPLET CODE=` or `CODEBASE=`



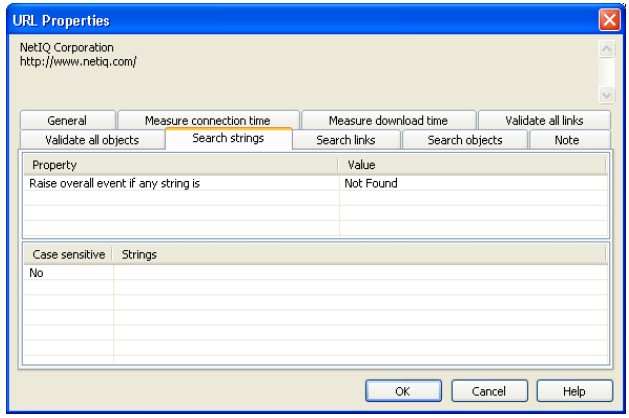
プロパティ	値
Event if object validation is in error	400 番代から 500 番代の HTTP ステータスコード、WinHTTP または WinINet エラーコード（12xxxx）、または Windows Socket エラーコード（11xxxx）が返されたリンクは、エラーとみなされます。このプロパティを有効にすると、リンクにエラーある場合にイベントが発生します。デフォルトではイベントは有効になっています。 ステータスコードについては、「Status Codes」84 ページを参照してください。

[Search strings]

このプロパティタブは、ページの表示されている部分で特定の文字列を検索します。[**Search Strings**] プロパティは、該当するスクリプトオプションが選択されている場合にのみ有効です。複数の文字列を入力したり、大小文字を区別するかどうかを指定したりできますが、ワイルドカード検索はサポートされません。

文字列が見つかった場合、または見つからなかった場合に、イベントが生成されます。

注意　テキストボックス内の値や選択要素（「VALUE=」要素など）は、テキスト検索では検索されません。



プロパティ	値
Event if string is:	指定した文字列の値がすべて見つかった場合（[Found]）かまたは見つからなかった場合（[Not Found]）のどちらの場合にイベントを生成するかを指定します。デフォルトは [Not Found] です。
Case Sensitive	有効にすると、大小文字を区別して検索が行われます。
Strings	検索文字列。最大 100 個までの文字列を指定することができます。

[Search links]

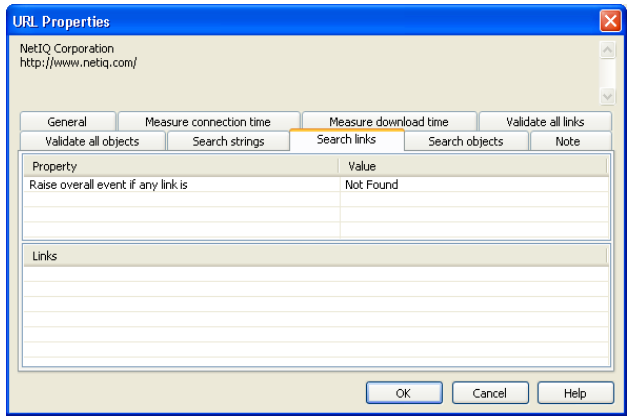
このプロパティタブは、HTML で特定のリンクを検索します。以下の HTML 要素がリンクであるとみなされます。

- A HREF=
- LINK HREF=
- AREA HREF=
- FRAME SRC=
- IFRAME SRC=

注意　相対パス（`../../tarheels.htm` など）を入力すると通常は見つかりません。これは、検索開始時にすべてのリンクが有効なパスに解決されるからです。

[**Search Links**] プロパティは、該当するスクリプトオプションが選択されている場合にのみ有効です。リンク名を入力するかまたはコピー / 貼り付け機能やドラッグアンドドロップ機能を使用して、リンクのリストを生成することができます。ワイルドカード検索はサポートされません。

注意　ブックマークは検索では無視されます。たとえば、
`<a href=mypage.htm#anchor1>` **ここをクリック** `</a>` **は、**
`<a href=mypage.htm>` **ここをクリック** `</a>` **として見なされます。**



プロパティ	値
Event if link is:	**指定したリンクがすべて見つかった場合（[Found]）かまたは見つからなかった場合（[Not Found]）のどちらの場合にイベントを生成するかを指定します。デフォルトは** [Not Found] **です。**
Search Link	**検索するリンク。最大** 100 **個までのリンクを指定できます。**

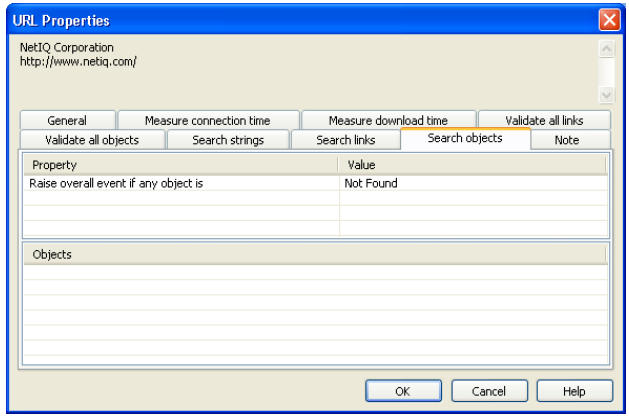
[Search objects]

このプロパティタブは、HTML で指定されたオブジェクトを検索します。以下の HTML 要素がオブジェクトであるとみなされます。

- `IMG SRC=`

- EMBED SRC=
- BGSOUND SRC=
- INPUT TYPE=
- IMAGE SRC=
- SCRIPT SRC=
- APPLET CODE= or CODEBASE=

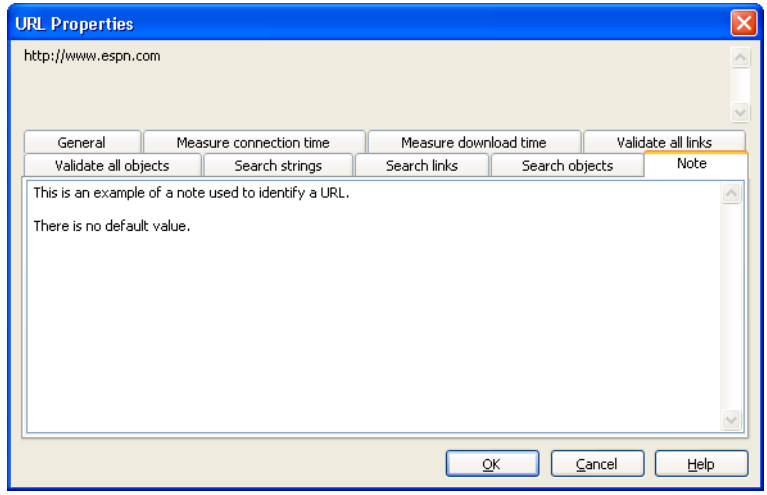
[**Search objects**] プロパティは、該当するスクリプトオプションが選択されている場合にのみ有効です。オブジェクトのパスを直接入力できますが、ドラッグアンドドロップ機能はリストではサポートされません。Internet Explorer からオブジェクトをドラッグした場合、オブジェクトのバイナリコンテンツだけがドラッグされてパスはドラッグされません。そのため、GIF 参照をドラッグアンドドロップすることはできません。[Objects] テーブルでは、テキスト参照のドロップのみサポートされます。ワイルドカード検索はサポートされません。



プロパティ	値
Event if Object is:	指定したオブジェクトがすべて見つかった場合（[Found]）かまたは見つからなかった場合（[Not Found]）のどちらの場合にイベントを生成するかを指定します。デフォルトは[Not Found]です。
Search Object	索するオブジェクト。最大 100 個までのオブジェクトを指定することができます。

注意

このプロパティタブでは、説明文を URL に追加できます。ここに入力するテキストは、Knowledge Script 自体には表示されません。ただし、Knowledge Script が URL Check Recorder で開かれ、URL が強調表示され、[URL プロパティ] ダイアログボックスが表示されるときにテキストがこのタブに表示されます。



第 6 章

URLCheck の結果

URLCheck Knowledge Script は、作成時の設定にもとづいてイベントを生成し、データを収集します。URLCheck Knowledge Script の詳細については、「Web-RT Knowledge Script」の章の「URLCheck」137 ページを参照してください。

URL Check Recorder には、URLCheck Knowledge Script の動作を決定するための多数のオプションが用意されています。イベントを生成し、データを収集するためのパラメータは、URLCheck Knowledge Script ごとに [Script Options] タブのスクリプトオプションを使用して設定します。次にスクリプトによってチェックされる各URLごとにイベント収集およびデータ収集オプションを [**URL Properties**] タブを使用して有効にできます。結果としての Knowledge Script 内で、イベントの「全体的」タイプ、特定の URL に適用されないイベントを有効または無効にできます。

URLCheck Knowledge Script を実行すると、膨大な種類のステータスコードとエラーメッセージが表示されることがありますが、それに加えて、AppManager オペレータコンソールに表示されるデータおよびイベント詳細は非常に複雑なことがあります。この章のトピックでは、表示される結果の理解に役立つ情報を提供します。

- 「Script スクリプトオプションと結果」68 ページ
- 「URLCheck イベント」69 ページ
- 「イベントおよびデータポイントのデータ詳細」72 ページ
- 「Knowledge Script オプション」74 ページ
- 「Status Codes」84 ページ

Script スクリプトオプションと結果

URL Check Recorder の [**Script Options**] タブに設定されたスクリプトオプションにより、Knowledge Script が実行されるときおよびデータが収集されるときの処理が決定されます。たとえば、[**Measure connection time**] スクリプトオプションを選択した場合、Knowledge Script ジョブは Web サーバーとの接続が完了したときに結果を返します。

[**Measure download time**]、[**Validate all links**]、[**Validate all objects**]、および 3 つの検索オプション（文字列、リンク、オブジェクト）のいずれかを選択すると、Knowledge Script が実行されたときに追加処理が行われます。さらに具体的に述べると、実際の HTML ページがレンダリングされます。レンダリング結果はイベント内に記録され、[**Rendering**] カラムに [Success] か [Failure] が表示されます。URL の確認が失敗したかまたはリダイレクトされた場合は、[NA] が表示されます。

[Rendering] カラムに [Failure] が表示された URL については、[**Measure download time**]、[**Validate all links**]、[**Validate all objects**] オプション、または実行された検索の結果は得られません。レンダリングに失敗したページは、Web サーバーに問題がある可能性があります。

ページのレンダリングが正常に行われた場合、選択したスクリプトオプションまたはオプションの結果が返されます。

- [**Measure download time**] の場合、メインページおよびそのページのすべてのオブジェクト（サブフレーム内のオブジェクトも含む）をダウンロードするのにかかった時間が結果として表示されます。このオプションの実行は時間がかかる場合があります。
- [**Validate all links**] および [**Validate all objects**] の場合、ページ上のすべてのリンクまたはオブジェクトのリスト、それぞれが見つかった回数、および対応するステータスコードが返されます。

  警告 : 確認対象のページにリンクやオブジェクトが多数含まれている場合、これらの結果が非常に大量になり、リポジトリを大量に使用する場合があります。このため、Knowledge Script パラメータ [**Details to be saved with the Percent Available data point**] には、[Failure] か [None] のどちらかを設定することをお薦めします。

- [**Search strings**]、[**Search links**]、[**Search objects**] のオプションでは、返される詳細に設定された検索条件、検索件数がリストされます。データ詳細には、検索条件が満たされたかどうか（Found または Not Found）も記録されます。検索条件を満たすものがなかった場合、赤いフラグが表示されます。

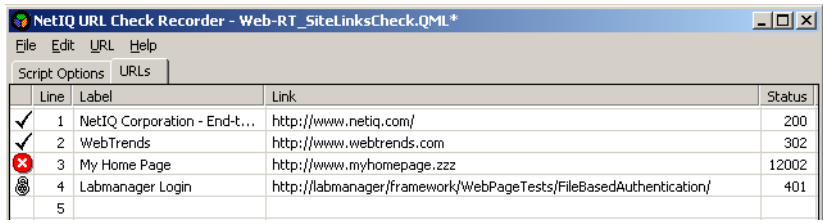
注意　ページのレンダリングが行われるとき、そのページ内にある Script コードは実行されません。したがって、スクリプトコードによってリンクまたはオブジェクトが表示される場合、これらのリンクまたはオブジェクトは確認や検索、[Measure download time] には含まれません。

URLCheck イベント

URLCheck ジョブを実行すると、全体イベント（特定の Knowledge Script によってチェックされるすべての URL に該当するイベント）と共に個別の URL エラーを示すイベントを生成します。たとえば、デフォルトの 100% のアベイラビリティしきい値を使用して実行する場合、URL が検証に失敗すると、URL Percent Available Below Threshold 全体イベントが表示されます。

各イベントのタイトルは、URL Check Recorder の [Knowledge Script Options] ダイアログボックスに設定できます。一方、イベント警告レベルは、Knowledge Script 自体の [イベント警告レベル] パラメータを使用して設定します。

選択されたスクリプトオプションと URL プロパティにより、1 つの Knowledge Script が複数の異なるイベントを生成することがあります。以下の図は、URLCheck Knowledge Script の作成に使用した URL です。



イベント詳細メッセージには、有効にされたすべての URL プロパティの結果を示すサマリテーブルが含まれます。赤で表示されている項目は、失敗

またはイベント条件が発生したことを表しています。上記の URL と関連するイベント詳細の一部を示します。

Percent available
60% 3 out of 5, Threshold set at 100

	Label	URL	Status Code	Status Description	Redirect Destination	Redirect Status Code	Redirect Status Description	Rendering	Connection Time (sec) *incl. DNS
3	My Home Page	http://www.myhomepage.zzzz	11001	Host not found.				NA	0.000
5	LabManager Login	http://labmanager/framework/WebPageTests/FileBasedAuthentication/	401	Authorization Required				NA	0.000

この全体イベント「URL Percent Available Below Threshold」は 2 つの URL への接続の試みが失敗したことを報告しています。

個別イベントと全体イベント

各 URL に設定した URL プロパティにより、個々の URL が使用不能なときや接続またはダウンロードしきい値を超えたときにイベントが生成されます。警告レベルパラメータは Knowledge Script で設定できても、これらの個別イベントを有効にするパラメータは Knowledge Script 自体には表示されません。個別の URL と関連する次のイベントは、URL Check Recorder の [URL Properties] ダイアログボックスで有効または無効にできます。

- URL Failed -- Not Available（URL エラー ― 使用不能）
- URL Connection Time exceeds threshold（URL 接続時間がしきい値を超えました。）
- URL Download Time exceeds threshold（URL ダウンロード時間がしきい値を超えました。）

これらの個別イベントに含まれるテーブルは、「URLCheck イベント」69 ページに示されているテーブルと類似していますが、テーブル内の情報は 1 つの URL にのみ適用されます。以下に例を示します。

	Label	URL	Status Code	Status Description	Redirect Destination	Redirect Status Code	Redirect Status Description	Rendering	Connection Time (sec) *incl. DNS	Connection Threshold (sec)	Content Size (bytes)	Download Time (sec)	Download Threshold (sec)
1	NetIQ Corporation	http://www.netiq.com/	200	OK				Success	0.130	0.001	97,366	0.510	0.001

この例では、URL の接続時間が [URL Properties] ダイアログボックスに設定されたしきい値を超えています。「アベイラビリティ（%）」テーブルはこのイベントに表示されません。これは全体イベントにのみ適用されます

個別エラーによってトリガされたイベントに加えて、Knowledge Script によってチェックされたすべてのURLのアベイラビリティが指定のしきい値を下回ると、デフォルトで全体的アベイラビリティイベントも表示されます。このイベントは Knowledge Script パラメータとして有効にできます。スクリプトオプションによって有効にされた場合、[イベント警告レベル] パラメータを除き、その他の「全体的」イベントは Knowledge Script スクリプトには表示されません。これらの全体的イベントには以下が含まれます。

- リンクまたはオブジェクトの検証エラー。これらのイベントを表示するには、次のスクリプトオプションを有効にする必要があります。**[Validate all links]**、**[Validate all objects** これらのオプションを有効にする場合、デフォルトでは検証が失敗するとイベントが発生します
- テキスト、リンク、またはオブジェクトの検索エラー。次のスクリプトオプションを有効にする必要があります。**Search strings**、**Search links**、**Search objects** これらのオプションを有効にする場合、デフォルトでは検証が失敗するとイベントが発生します。

個別の URL を選択して、任意の全体的イベントから除外することができます。除外された URL は、全体的イベントをトリガせず、イベントがトリガされたときにはイベント詳細に含まれません。

以下に、リンクの検証エラーにより発生するイベントから個別の **URL** を除外する方法を示します。

1 [URLs]テーブルの任意のURLを強調表示して[URL]メニューの[プロパティ] をクリックします。

2 [URL Properties] ダイアログボックスで **[Validate all links]** タブをクリックします。

3 [**Raise overall event if any link validation is in error?**] に値を設定します。[URL property] を [**No**] に設定します。

同様な手順を使用して、オブジェクトの検証や検索項目と関連するイベントから URL を除外することができます。

ただし、全体的 URL アベイラビリティと関連するイベントは、多少処理が異なります。このイベントを有効または無効にするには、[Knowledge Script

Properties] ダイアログボックスで [R**aise event when overall URL availability falls below threshold?**] ボックスをチェックまたはクリアします。

イベントおよびデータポイントのデータ詳細

管理対象クライアント上で URLCheck Knowledge Script を事項すると、完全な結果がPercent Availableデータポイントのイベントおよびデータ詳細に表示されることがあります。これらのデータ詳細の設定により、リポジトリ内に保存されるデータの量を制限できます。Knowledge Script は多数の URL を含むことがあるため、[**Validate all links**] および [**Validate all objects**] などのオプションが大量の結果を返す可能性があります。そのため、デフォルトではエラー情報だけがイベントに含まれ、データポイントのデータは含まれません。

警告 : データ詳細を制限しないと、すぐにリポジトリがいっぱいになり、AppManager システム全体の結果収集に影響を及ぼす恐れがあります。

データ収集のオプションは、Knowledge Script で以下のパラメータを使用して変更できます。

プロパティ	値
Details to be included in events	エラーイベントの詳細のみ収集するには、[Failure] を設定します。すべての結果の詳細を収集するには、[All] を設定します。デフォルトは [Failure] です。
Details to be saved with Percent Available data point	[Failure]、[Success]、[All]、または [None] を設定します。 • [Failure] にはエラーイベントの詳細または一致したイベント検索条件が含まれます。 • [Success] には成功の結果のみが含まれます。 • [All] にはすべての結果の詳細が含まれます。 • [None] にはデータ詳細は含まれません。 デフォルトの設定は [None] です。

「URLCheck イベント」69 ページで引用した例に戻り、[**Details to be saved with Percent Available data point**] パラメータでの [Failure] の設定を使用し

てイベントを再作成しました。Percent Available データポイントのデータ詳細には、以下のみが含まれます。

Percent available
66% 2 out of 3, Threshold set at 100

	Label	URL	Status Code	Status Description	Redirect Destination	Redirect Status Code	Redirect Status Description
3	My Home Page	http://www.myhomepage.zzzz	11001	Host not found.			

ダウンロード時間の測定、リンクまたはオブジェクトの検証、または項目の検索が同様の URLCheck Knowledge Script で有効にされると [**Rendering**] という新しいカラムが表示されます。

Status Code	Status Description	Redirect Destination	Redirect Status Code	Redirect Status Description	Rendering
12007	The server name or address could not be resolved				NA

このカラムは、URL が問題なくレンダリングされたかどうかを [Success] または [Failure] で示します。ステータスコードがエラーの場合、[Rendering] カラムに [NA] が示されます。

レンダリングが失敗した場合、その URL のスクリプトオプションは処理されません。

[**Measure download time**] スクリプトオプションがチェックされると、3 つの新しいカラム [**Content Size (bytes)**]、[**Download Time (sec)**]、[**Download Threshold (sec)**] がデータ詳細テーブルに含まれます。同様に [Measure connection time] スクリプトオプションを有効にすると、[**Connection Time**] および [**Connection Threshold**] カラムが表示されます。

次のデータポイントにはデータ詳細は含まれていません。

- 全体的および個別の [Measure Download Time]
- 全体および個別の [URL Connection Time]
- 個別の [Availability]

Knowledge Script オプション

[Knowledge Script Options] ダイアログボックスでは、データ系列の名前を決定し、URLCheck Knowledge Script によって実行される様々なタスクと関連するイベントのタイトルを設定できます。

このダイアログボックスでは、最後に作成された Knowledge Script の設定を修正できます。URL Check Recorder で Knowledge Script を再度開くと、そこでの設定により、以前に開かれたスクリプトの設定が上書きされます。

[**Reset**] ボタンを使用して、[Knowledge Script Options] ダイアログボックスの選択したタブ上のすべての値をそれぞれのデフォルト設定にリセットできます。

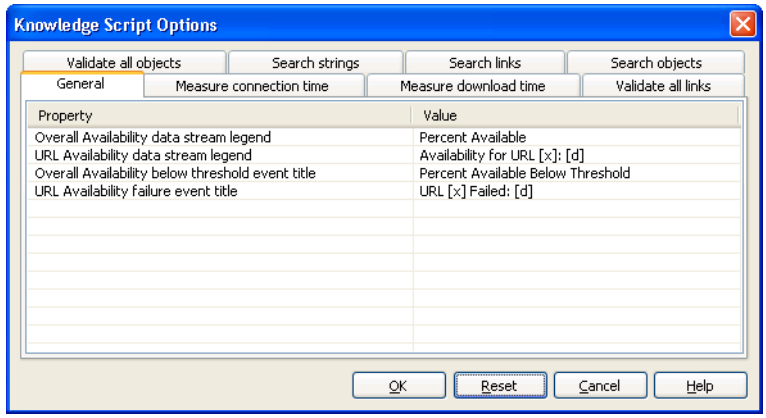
次の項では、各 Knowledge Script オプションについて詳細に説明します。

[General] Knowledge Script オプション

このタブには、General タブ上の [Availability Script Options] と関連するイベントおよびデータ系列にタイトルを指定するためのオプションが含まれています。関連するデータ系列とイベントは、URL のアベイラビリティを測定し、URL によりエラーのステータスコードが生成されると警告を発します。

プロパティ	値
Overall URL Availability data stream legend	**「全体的」URL のアベイラビリティ、つまりこの Knowledge Script によってチェックされたすべての URL の比率としてアベイラビリティを測定するデータ系列の凡例。** **デフォルトは、「Percent Available」です。**

URL Availability data stream legend	単一 URL のアベイラビリティステータスを測定するデータ系列の凡例。このフィールドには、次の置換変数を使用できます。 • [x] – URL インデックスを置換します。インデックスとは、URLs テーブルの [Line] カラムのURLに割り当てられた番号のことです。 • [d] – URL の説明を置換します。説明とは、URLs テーブルの [Description] カラムに入力された値のことです。 デフォルトは「Availability for URL [x]: [d]」です。
Overall Availability below threshold event title	使用可能なURLの比率（特定のKnowledge Script によってチェックされたすべての URL にもとづく）が、設定された [Minimum overall URL availability] しきい値を下回ると発生するイベントのタイトル。 デフォルトは、[URL Percent Available below Threshold] です。
URL Availability failure event title	個別の URL がリンクエラーと関連するステータスコードを返すときに発生するイベントのタイトル。ステータスコードについては、「Status Codes」84 ページを参照してください。 このフィールドには、次の置換変数を使用できます。 • [x] – URL インデックスを置換します。インデックスとは、URLs テーブルの [Line] カラムのURLに割り当てられた番号のことです。 • [d] – URL の説明を置換します。説明とは、URLs テーブルの [Description] カラムに入力された値のことです。 デフォルトは、「URL [x] Failed: [d]」です。

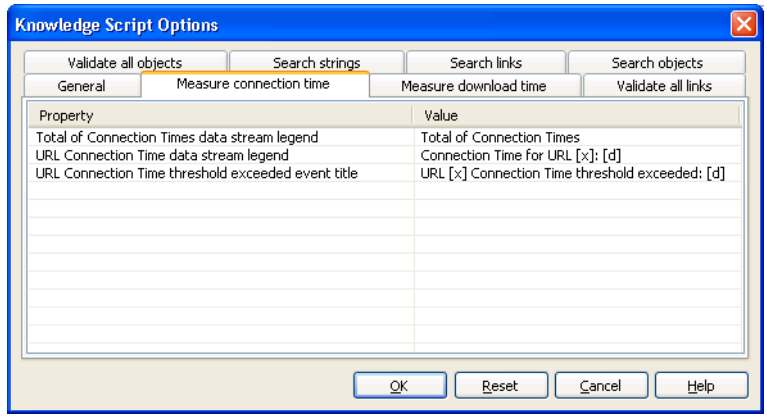


Measure Connection Time Knowledge Script オプション

このタブには、Measure Connection Time スクリプトオプションと関連するイベントおよびデータ系列にタイトルを指定するためのオプションが含まれています。関連するデータ系列およびイベントはKnowledge ScriptがURLに接続して最初の情報のバイトをダウンロードするまでに掛かる時間を測定し、接続時間のしきい値を超過すると警告を発します。

プロパティ	値
Total of Connection Times data stream legend	**接続時間の合計、つまりこの** Knowledge Script **によってチェックされたすべての** URL **に接続して、各**URL**から最初の情報のバイトダウンロードするまでに掛かる時間を合計するデータ系列の凡例。** **デフォルトは、**[Total of Connection Times] **です。**

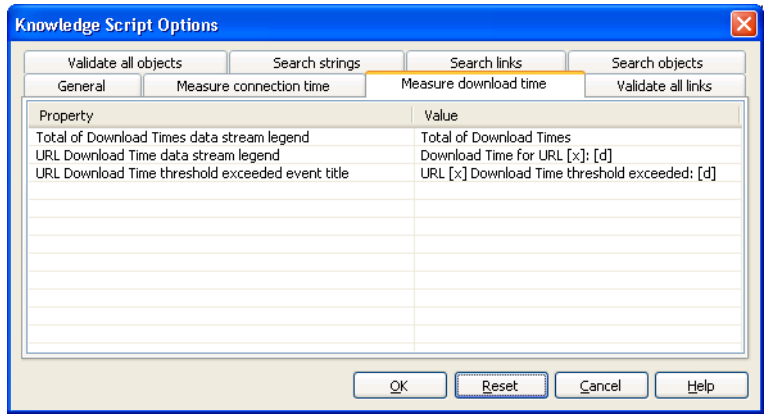
URL Connection Time data stream legend	個別の URL に接続して、その URL から最初の情報のバイトをダウンロードするまでに掛かる時間を測定するデータ系列の凡例。このフィールドには、次の置換変数を使用できます。 • [x] – URL インデックスを置換します。インデックスとは、URLs テーブルの [Line] カラムの URL に割り当てられた番号のことです。 • [d] – URL の説明を置換します。説明とは、URLs テーブルの [Description] カラムに入力された値のことです。 デフォルトは「Connection Time for URL [x]: [d]」です。
URL Connection Time threshold exceeded event title	単一の URL の接続時間が、[URL connection timeout] パラメータに設定された値を超えると発生するイベントのタイトル。このフィールドには、次の置換変数を使用できます。 • [x] – URL インデックスを置換します。インデックスとは、URLs テーブルの [Line] カラムの URL に割り当てられた番号のことです。 • [d] – URL の説明を置換します。説明とは、URLs テーブルの [Description] カラムに入力された値のことです。 デフォルトは「URL [x] Connection Time threshold exceeded: [d]」です。



Measure Download Time Knowledge Script オプション

このタブには、Measure Download Time スクリプトオプションと関連するイベントおよびデータ系列にタイトルを指定するためのオプションが含まれています。関連するデータ系列およびイベントは、Knowledge ScriptがHTMLおよび関連オブジェクトをダウンロードするまでに掛かる時間を測定し、ダウンロード時間がしきい値を超えると警告を発します。

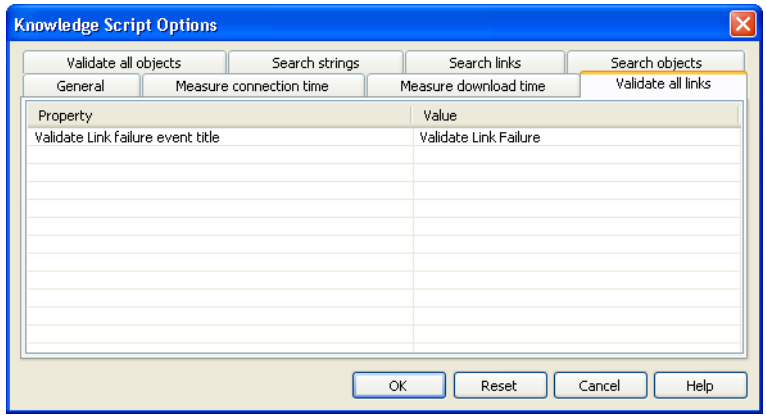
プロパティ	値
Total of Download Times data stream legend	この Knowledge Script によってチェックされたすべての Web ページ、HTML、すべてのオブジェクトを完全にダウンロードするまでに掛かる時間を合計するデータ系列の凡例。 デフォルトは、[Total of Download Times] です。
URL Download Time data stream legend	個別の Web ページ、HTML、およびすべてのオブジェクトを完全にダウンロードするまでに掛かる時間を測定するデータ系列の凡例。このフィールドには、次の置換変数を使用できます。 • [x] – URL インデックスを置換します。インデックスとは、URLs テーブルの [Line] カラムの URL に割り当てられた番号のことです。 • [d] – URL の説明を置換します。説明とは、URLs テーブルの [Description] カラムに入力された値のことです。 デフォルトは「Download Time for URL [x]: [d]」です。
URL Download Time threshold exceeded event title	単一の URL のダウンロード時間が、[URL download timeout] パラメータに設定された値を超えると発生するイベントのタイトル。このフィールドには、次の置換変数を使用できます。 • [x] – URL インデックスを置換します。インデックスとは、URLs テーブルの [Line] カラムの URL に割り当てられた番号のことです。 • [d] – URL の説明を置換します。説明とは、URLs テーブルの [Description] カラムに入力された値のことです。 デフォルトは「URL [x] Download Time threshold exceeded: [d]」です。



Validate All Links Knowledge Script オプション

このタブには、[Validate all links] スクリプトオプションと関連するイベントにタイトルを指定するためのオプションが含まれています。関連するイベントはリンクが検証できないときにアラートを発します。

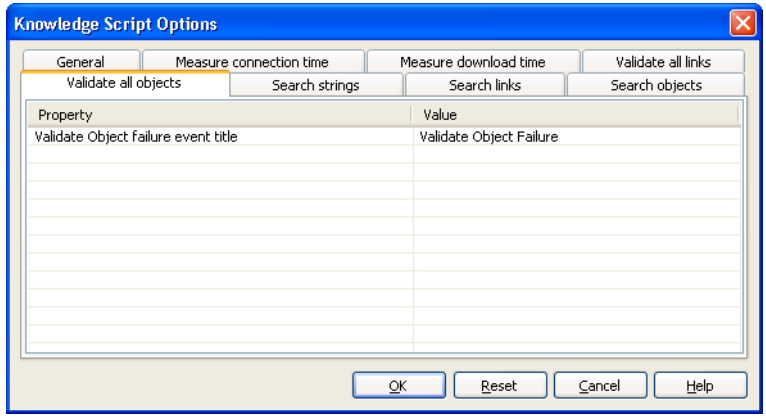
プロパティ	Value
Validate link failure event title	**リンクが検証できないときに発生するイベントのタイトル。** **デフォルトは、**[Validate Link Failure] **です。**



Validate All Objects Knowledge Script オプション

このタブには、[Validate all objects] スクリプトオプションと関連するイベントにタイトルを指定するためのオプションが含まれています。関連するイベントはオブジェクトが検証できないときにアラートを発します。

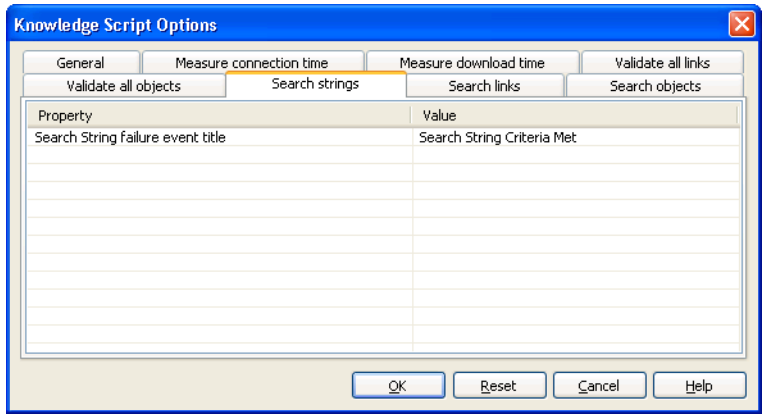
プロパティ	値
Validate Objects failure event title	**オブジェクトが検証できないときに発生するイベントのタイトル。** **デフォルトは、**[Validate Object Failure] **です。**



Search Strings Knowledge Script オプション

このタブには、[Search strings] スクリプトオプションと関連するイベントにタイトルを指定するためのオプションが含まれています。関連するイベントは、ページ上に一致する文字列が見つかるとアラートを発します。

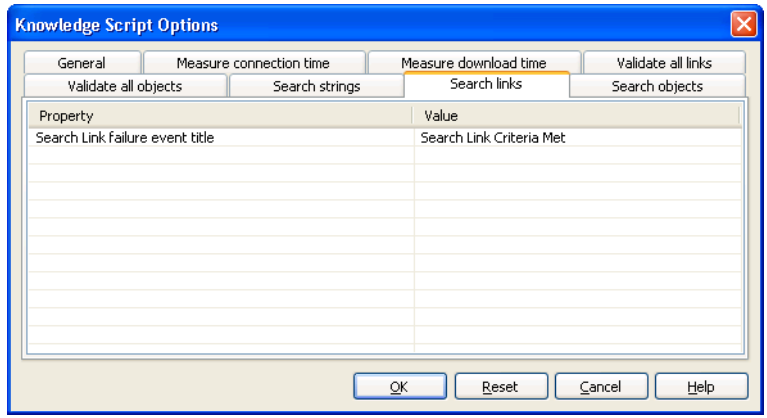
プロパティ	Value
Search Strings event title	**指定された検索文字列の値が一致すると発生するイベントのタイトル。** **デフォルトは、**[Search String Criteria Met] **です。**



Search Links Knowledge Script オプション

このタブには、[Search links] スクリプトオプションと関連する失敗イベントにタイトルを指定するためのオプションが含まれています。関連するイベントは、ページ上に一致するリンクが見つからないとアラートを発します。

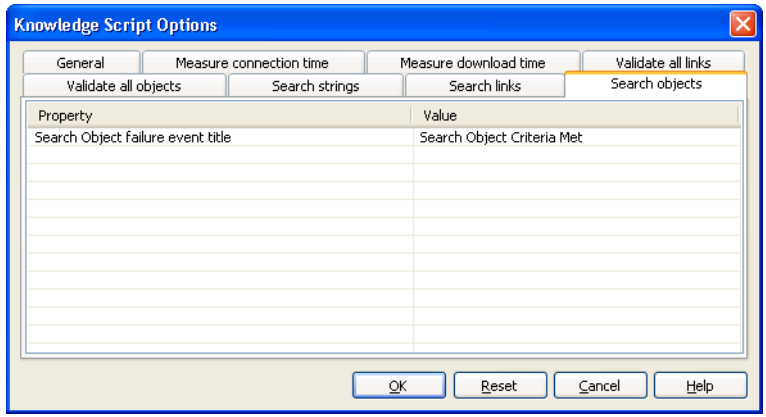
プロパティ	値
Search Links event title	**指定されたリンクがすべて見つかると発生するイベントのタイトル。** **デフォルトは、**[Search Link Criteria Met] **です。**



Search Objects Knowledge Script オプション

このタブには、[Search objects] スクリプトオプションと関連する失敗イベントにタイトルを指定するためのオプションが含まれています。関連するイベントは、ページ上に一致するオブジェクトが見つからないとアラートを発します。

プロパティ	Value
Search Objects event title	**指定されたオブジェクトがすべて一致すると発生するイベントのタイトル。** **デフォルトは、**[Search Object Criteria Met] **です。**



Status Codes

動作状況を示すために、3 種類のコードが返されます。詳細については、以下の項目を参照してください。

- 「HTTP ステータスコード」84 ページ
- 「WinINet および WinHTTP エラーコード」87 ページ
- 「Windows Socket エラーコード」93 ページ

HTTP ステータスコード

HTTP ステータスコードは以下のとおりです。

コード	説明
100--Continue	要求を継続できます。
101--Switching Protocols	サーバーによって更新ヘッダのプロトコルが切り替えられました。
200--OK	要求が正常に終了しました。
201--Created	要求が完了し、新規リソースが作成されました。
202--Accepted	処理を行うために要求が受け付けられましたが、処理はまだ完了していません。

203--Non-Authoritative or Partial Information	エンティティヘッダで返されたメタ情報は、元のサーバーから入手できる確定的なセットではありません。
204--No Content	サーバーは要求を完了しましたが、送り返す新しい情報はありません。
205--Reset Content	要求は完了しました。クライアントプログラムは要求の送信元であるドキュメントビューをリセットし、ユーザーが別の入力操作をすぐに行えるようにする必要があります。
206--Partial Content	サーバーがリソースのGET要求の一部を完了しました。
300--Ambiguous	サーバーは何を返すか判断できませんでした。
301--Moved Permanently	要求されたリソースは、新しい固定 URI(Uniform Resourec Identifier) に割り当てられました。今後このリソースを参照する場合、返された URI のいずれかを使用する必要があります。
302--Redirect	要求されたリソースは、一時的に別の URI(Uniform Resource Identifier) に格納されています。
303--Redirect Method	要求への応答は別のURI(Uniform Resource Identifier)にあります。この応答を取得するには、そのリソースで GET HTTP 動詞を使用します。
304--Not Modified	要求されたリソースは修正されていません。
305--Use Proxy	要求されたリソースには、ロケーションフィールドで指定されたプロキシを介してアクセスする必要があります。
307--Temporary Redirect	リダイレクトされた要求も同じ HTTP 動詞を使用します。HTTP/1.1 の場合。
400--Bad Request	構文が無効であるため、サーバーによって要求が処理されませんでした。
401--Unauthorized	要求されたリソースにはユーザー認証が必要です。
402--Payment Required	現在 HTTP プロトコルに実装されていません。
403--Forbidden	サーバーによって要求が解読されましたが、処理は拒否されました。
404--Not Found	サーバーは、要求された URI に一致するものを見つけることができませんでした。
405--Bad Method	使用されている HTTP 動詞は許可されていません。

406--Not Acceptable	クライアントで受け付けられる応答が見つかりませんでした。
407--Authentication Required	プロキシ認証が必要です。
408--Request Timeout	要求の待機中にサーバーがタイムアウトしました。
409--Conflict	リソースの現状と矛盾するため、要求は完了できませんでした。詳細情報を送信しなおす必要があります。
410--Gone	要求されたリソースがすでにサーバーにはありません。転送先アドレスは不明です。
411--Length Required	コンテンツの長さが定義されていない要求の受け入れをサーバーが拒否しました。
412--Precondition Failed	要求の1つ以上のヘッダフィールドで指定された事前条件がサーバーでテストされ、不正であると判定されました。
413--Request too Large	要求のエンティティが、サーバーで処理しようとするエンティティまたは処理可能なエンティティよりも大きいため、要求の処理がサーバーによって拒否されました。
414--URI too Long	要求の URI(Uniform Resource Identifier) が、サーバーで解釈する長さより長いため、要求の処理がサーバーによって拒否されました。
415--Unsupported Media	要求されたリソースでは、要求のエンティティの形式が要求されたメソッドに対してサポートされていません。このため、要求の処理がサーバーによって拒否されました。
449--Retry with	適切なアクションを行ってから、要求を再試行する必要があります。
500--Server Error	サーバーが予期せぬ状態に陥り、要求を完了できませんでした。
501--Not Supported	要求を完了するために必要な機能をサーバーがサポートしていません。
502--Bad Gateway	ゲートウェイまたはプロキシとして動作しているサーバーが、要求を完了するためにアクセスした上位サーバーから不正な応答を受け取りました。
503--Service Unavailable	サービスが一時的に過負荷になっています。

504--Gateway Timeout	**ゲートウェイの待機中に要求がタイムアウトしました。**
505--Version not Supported	**要求メッセージで使用されている** HTTP **プロトコルのバージョンが、サーバーでサポートされていないか、またはサポートが拒否されています。**

HTTP ステータスコードの詳細については、以下を参照してください。

http://msdn.microsoft.com/library/default.asp?url=/library/en-us/wininet/wininet/http_status_codes.asp

WinINet および WinHTTP エラーコード

WinINet エラーコードは、URL Check Recorder が Windows 2000 サービスパック 3、Windows XP サービスパック１、または Windows 2003 Server 以外プラットフォーム上で実行されている場合にのみ表示されます。これらのプラットフォームでは、WinHTTP　エラーコードが使用されます。WinHTTP エラーコードの詳細については、以下を参照してください。

WinINet エラーコードは以下のとおりです。

コード	説明
12001	ERROR_INTERNET_OUT_OF_HANDLES **現時点ではこれ以上ハンドルを生成できません。**
12002	ERROR_INTERNET_TIMEOUT **要求がタイムアウトになりました。**
12003	ERROR_INTERNET_EXTENDED_ERROR **サーバーから拡張エラーが返されました。通常、これは詳細なエラーメッセージを含む文字列またはバッファです。エラーテキストを取得するには、**InternetGetLastResponseInfo **を呼び出します。**
12004	ERROR_INTERNET_INTERNAL_ERROR **内部エラーが発生しました。**
12005	ERROR_INTERNET_INVALID_URL URL **が無効です。**
12006	ERROR_INTERNET_UNRECOGNIZED_SCHEME URL **スキーマが認識されないかまたはサポートされていません。**
12007	ERROR_INTERNET_NAME_NOT_RESOLVED **サーバー名を解決できませんでした。**

12008	ERROR_INTERNET_PROTOCOL_NOT_FOUND 要求されたプロトコルが見つかりませんでした。
12009	ERROR_INTERNET_INVALID_OPTION InternetQueryOption または InternetSetOption への要求が、無効なオプション値を指定しました。
12010	ERROR_INTERNET_BAD_OPTION_LENGTH InternetQueryOption または InternetSetOption に入力されたオプションの長さが、指定されたオプションの種類に対して正しくありません。
12011	ERROR_INTERNET_OPTION_NOT_SETTABLE 要求オプションのクエリは実行されましたが、設定できません。
12012	12012 ERROR_INTERNET_SHUTDOWN Win32 Internet 機能のサポートが、シャットダウンされたかまたは読み込まれません。
12013	ERROR_INTERNET_INCORRECT_USER_NAME 入力されたユーザー名が正しくないため、FTP サーバーへの接続およびログオンの要求が完了できませんでした。
12014	ERROR_INTERNET_INCORRECT_PASSWORD 入力されたパスワードが正しくないため、FTP サーバーへの接続およびログオンの要求が完了できませんでした。
12015	ERROR_INTERNET_LOGIN_FAILURE FTP サーバーへの接続およびログオンの要求が失敗しました。
12016	ERROR_INTERNET_INVALID_OPERATION 要求された操作は無効です。
12017	ERROR_INTERNET_OPERATION_CANCELLED 操作がキャンセルされました。通常、要求を実行していたハンドルが操作の完了前に閉じられたことが原因です。
12018	ERROR_INTERNET_INCORRECT_HANDLE_TYPE 入力されたハンドルの種類が、この操作に対して適切ではありません。
12019	ERROR_INTERNET_INCORRECT_HANDLE_STATE 入力されたハンドルが正常な状態ではないため、要求された操作を実行できません。
12020	ERROR_INTERNET_NOT_PROXY_REQUEST プロキシを介して要求を実行できません。

12021	ERROR_INTERNET_REGISTRY_VALUE_NOT_FOUND **要求されたレジストリ値が見つかりませんでした。**
12022	ERROR_INTERNET_BAD_REGISTRY_PARAMETER **要求されたレジストリ値は見つかりましたが、種類が正しくないかまたは無効な値を含んでいます。**
12023	ERROR_INTERNET_NO_DIRECT_ACCESS **現時点ではネットワークに直接アクセスできません。**
12024	ERROR_INTERNET_NO_CONTEXT **ゼロコンテキスト値が入力されたため、非同期要求を実行できませんでした。**
12025	ERROR_INTERNET_NO_CALLBACK **コールバック機能が設定されていなかったため、非同期要求を実行できませんでした。**
12026	ERROR_INTERNET_REQUEST_PENDING 1 **つ以上の要求が保留中のため、要求された操作が完了できませんでした。**
12027	ERROR_INTERNET_INCORRECT_FORMAT **要求の形式が無効です。**
12028	ERROR_INTERNET_ITEM_NOT_FOUND **要求された項目が見つかりませんでした。**
12029	ERROR_INTERNET_CANNOT_CONNECT **サーバーへの接続に失敗しました。**
12030	ERROR_INTERNET_CONNECTION_ABORTED **サーバーとの接続が切断されました。**
12031	ERROR_INTERNET_CONNECTION_RESET **サーバーとの接続がリセットされました。**
12032	ERROR_INTERNET_FORCE_RETRY **要求を再実行する** Win32 Internet **機能を呼び出します。**
12033	ERROR_INTERNET_INVALID_PROXY_REQUEST
12036	ERROR_INTERNET_HANDLE_EXISTS **ハンドルがすでに存在するため、要求が失敗しました。**
12037	ERROR_INTERNET_SEC_CERT_DATE_INVALID
12038	ERROR_INTERNET_SEC_CERT_CN_INVALID

12039	ERROR_INTERNET_HTTP_TO_HTTPS_ON_REDIR
12040	ERROR_INTERNET_HTTPS_TO_HTTP_ON_REDIR
12041	ERROR_INTERNET_MIXED_SECURITY **コンテンツが完全に安全でないことを示します。表示されているコンテンツの一部が、安全でないサーバーから送られてきている可能性があります。**
12042	ERROR_INTERNET_CHG_POST_IS_NON_SECURE
12043	ERROR_INTERNET_POST_IS_NON_SECURE
12110	ERROR_FTP_TRANSFER_IN_PROGRESS **操作がすでに進行中です。要求された操作を** FTP **セッションハンドルで実行できません。**
12111	ERROR_FTP_DROPPED **セッションが中断されたため、**FTP **操作が完了しませんでした。**
12130	ERROR_GOPHER_PROTOCOL_ERROR Gopher **サーバーから返されたデータの解析中に、エラーが検出されました。**
12131	ERROR_GOPHER_NOT_FILE **ファイルロケータに対して要求を実行する必要があります。**
12132	ERROR_GOPHER_DATA_ERROR Gopher **サーバーからデータを受信中に、エラーが検出されました。**
12133	ERROR_GOPHER_END_OF_DATA **データの終わりに達しました。**
12134	ERROR_GOPHER_INVALID_LOCATOR **指定されたロケータは無効です。**
12135	ERROR_GOPHER_INCORRECT_LOCATOR_TYPE **ロケータの種類が、この操作に対して適切ではありません。**
12136	ERROR_GOPHER_NOT_GOPHER_PLUS **要求された操作は** Gopher+ **サーバーに対してか、または** Gopher+ **操作を指定するロケータを使用する場合のみ実行可能です。**
12137	ERROR_GOPHER_ATTRIBUTE_NOT_FOUND **要求された属性が見つかりませんでした。**
12138	ERROR_GOPHER_UNKNOWN_LOCATOR **ロケータの種類が不明です。**

12150	ERROR_HTTP_HEADER_NOT_FOUND **要求されたヘッダが見つかりませんでした。**
12151	ERROR_HTTP_DOWNLEVEL_SERVER **サーバーによってヘッダが返されませんでした。**
12152	ERROR_HTTP_INVALID_SERVER_RESPONSE **サーバーの応答を解析できませんでした。**
12153	ERROR_HTTP_INVALID_HEADER **入力されたヘッダは無効です。**
12154	ERROR_HTTP_INVALID_QUERY_REQUEST HttpQueryInfo **への要求が無効です。**
12155	ERROR_HTTP_HEADER_ALREADY_EXISTS **ヘッダがすでに存在しているため、追加できませんでした。**
12156	ERROR_HTTP_REDIRECT_FAILED

WinINet エラーコードの詳細については、以下を参照してください。

http://msdn.microsoft.com/library/default.asp?url=/library/en-us/vidref98/html/dvmsgerrormessages.asp.

WinHTTP エラーコードは以下のとおりです。

コード	**説明**
12044	ERROR_WINHTTP_CLIENT_AUTH_CERT_NEEDED **サーバーがクライアント認証を要求しています。**
12045	ERROR_WINHTTP_SECURE_INVALID_CA **証明書チェーンが処理されましたが信頼プロバイダによって信頼されていないルート証明書で終了されました。**
12057	ERROR_WINHTTP_SECURE_CERT_REV_FAILED **廃棄サーバーがオフラインのため、廃棄をチェックできなかったことを示します。**
12157	ERROR_WINHTTP_SECURE_CHANNEL_ERROR **発生したエラーはセキュアチャネルと関連があることを示します。**
12166	ERROR_WINHTTP_BAD_AUTO_PROXY_SCRIPT Proxy Auto-Configuration (PAC) **ファイルのスクリプトコードを実行中にエラーが発生しました。**

コード	説明
12167	ERROR_WINHTTP_UNABLE_TO_DOWNLOAD_SCRIPT PAC ファイルをダウンロードできませんでした。たとえば、PAC URL によって参照されたサーバーが発見されなかったか、またはサーバーが 404 NOT FOUND と応答しました。
12169	ERROR_WINHTTP_SECURE_INVALID_CERT 証明書が無効であることを示します。
12170	ERROR_WINHTTP_SECURE_CERT_REVOKED 証明書が取り消されたことを示します。
12179	ERROR_WINHTTP_SECURE_CERT_WRONG_USAGE 証明書が要求された使用には無効であることを示します。
12181	ERROR_WINHTTP_HEADER_COUNT_EXCEEDED ヘッダの数が WinHTTP による許容数を超えています。
12182	ERROR_WINHTTP_HEADER_SIZE_OVERFLOW 受け取ったヘッダのサイズが要求処理の限界を超えています。
12183	ERROR_WINHTTP_CHUNKED_ENCODING_HEADER_SIZE_OVERFLOW 大量の暗号を解析中にオーバーフロー状態が発生しました。
12184	ERROR_WINHTTP_RESPONSE_DRAIN_OVERFLOW 受信応答が内部 WinHTTP のサイズの限界を超えたときに返されます。
12185	ERROR_WINHTTP_PROXY_AUTH_REQUIRED HTTP ステータスコード 407 が返された場合に Windows Server 2003 ファミリーに戻ります。これはプロキシ認証が必要であることを示します。クライアントがプロキシサーバーを介してターゲットサーバーへの SSL 接続の試みを処理するためにこのエラーが追加されましたが、プロキシサーバーで認証が必要です。 このエラーは Windows XP SP1 および Windows 2000 SP3 では戻されません。クライアントは SSL 接続が失敗したことを認識しません。この場合は、その後の呼び出しに失敗し、INCORRECT_HANDLE_STATE エラーが返されます。

WinHTTP エラーメッセージについては、以下を参照してください。

http://msdn.microsoft.com/library/default.asp?url=/library/en-us/winhttp/http/error_messages.asp

Windows Socket エラーコード

Web サーバーへの初期接続を確立するために使用される Windows Socket(WinSock 2) によって生成されるエラーコードは次のとおりです。これらのエラーは通常、Web サーバーへの接続問題を示します。

コード	説明
WSAEINTR--10004	機能呼び出しの割り込みが発生しました。
WSAEACCES--10013	許可が拒否されました。
WSAEFAULT--10014	アドレスが間違っています。
WSAEINVAL--10022	引数が無効です。
WSAEMFILE--10024	開いているファイルの数が多すぎます。
WSAEWOULDBLOCK--10035	リソースが一時的に使用できません。
WSAEINPROGRESS--10036	操作が実行中です。
WSAEALREADY--10037	操作がすでに実行中です。
WSAENOTSOCK--10038	ソケット以外に対してソケット操作が行われました。
WSAEDESTADDRREQ--10039	宛先アドレスが必要です。
WSAEMSGSIZE--10040	メッセージが長すぎます。
WSAEPROTOTYPE--10041	ソケットに対してプロトコルの種類が間違っています。
WSAENOPROTOOPT--10042	プロトコルオプションが間違っています。
WSAEPROTONOSUPPORT--10043	プロトコルがサポートされていません。
WSAESOCKTNOSUPPORT--10044	この種類のソケットはサポートされていません。
WSAEOPNOTSUPP--10045	操作がサポートされていません。
WSAEPFNOSUPPORT--10046	プロトコルファミリがサポートされていません。
WSAEAFNOSUPPORT--10047	アドレスファミリがプロトコルファミリによってサポートされていません。
WSAEADDRINUSE--10048	アドレスがすでに使用中です。

WSAEADDRNOTAVAIL--10049	要求されたアドレスを割り当てられません。
WSAENETDOWN--10050	ネットワークがダウンしています。
WSAENETUNREACH--10051	ネットワークに接続できません。
WSAENETRESET--10052	リセットによってネットワーク接続が切断されました。
WSAECONNABORTED--10053	ソフトウェアによる接続の中断が発生しました。
WSAECONNRESET--10054	接続がピアによってリセットされました。
WSAENOBUFS--10055	使用できるバッファスペースがありません。
WSAEISCONN--10056	ソケットがすでに接続されています。
WSAENOTCONN--10057	ソケットが接続されていません。
WSAESHUTDOWN--10058	ソケットのシャットダウン後であるため送信できません。
WSAETIMEDOUT--10060	接続がタイムアウトしました。
WSAECONNREFUSED--10061	接続が拒否されました。
WSAEHOSTDOWN--10064	ホストがダウンしています。
WSAEHOSTUNREACH--10065	ホストへのルートが存在しません。
WSAEPROCLIM--10067	処理の数が多すぎます。
WSASYSNOTREADY--10091	ネットワークサブシステムが使用できません。
WSAVERNOTSUPPORTED--10092	Winsock.dll のバージョンが範囲外です。
WSANOTINITIALISED--10093	WSAStartup が正常に実行されていません。
WSAEDISCON--10101	シャットダウン（Graceful shutdown）中です。
WSATYPE_NOT_FOUND--10109	クラスの種類が見つかりません。
WSAHOST_NOT_FOUND--11001	ホストが見つかりません。
WSATRY_AGAIN--11002	権限のないホストが見つかりません。
WSANO_RECOVERY--11003	回復不可能なエラーです。
WSANO_DATA--11004	名前は有効ですが、要求された種類のデータレコードがありません。

Windows Socket のエラーコードについては、以下を参照してください。
http://msdn.microsoft.com/library/default.asp?url=/library/en-us/winsock/winsock/windows_sockets_error_codes_2.asp.

第 7 章

Web-RT Knowledge Script リファレンス

Web-RT 分類には、AppManager ResponseTime for Web を使用して Web サイトを監視する以下のKnowledge Scriptがあります。オペレータコンソール内では、KS ウィンドウの **[Web-RT]** タブで Knowledge Script またはレポートを選択し、**F1** キーを押すと詳細情報が表示されます。

Knowledge Script	説明
Discovery_Web-RT	Web サイト、サービス、およびトランザクションのアベイラビリティを監視する AppManager Web-RT エージェントを発見します。
FTP	FTP サイトのアベイラビリティを監視し、指定したファイルをサイトからダウンロードすることができるかどうかを確認します。
NNTPConnect	NNTP サーバーのアベイラビリティを監視します。
ReceiveInternetMail	POP3 プロトコルを使用してインターネットメールメッセージを受信するときのアベイラビリティとレスポンスタイムを監視します。
Report_Web-RT_Mail	Web-RT InternetMail Knowledge Scriptを対象にレスポンスタイムとアベイラビリティを詳細にレポートします。
Report_Web-RT_Steps	WebTransaction Knowledge Script のステップを対象にレスポンスタイムとアベイラビリティを詳細にレポートします。
Report_Web-RT_URLCheck	URL Check Recorder Knowledge Script を対象にアベイラビリティ（パーセンテージ）を詳細にレポートします。
Report_Web-RT_Web	WebTransaction Knowledge Script を対象にレスポンスタイムとアベイラビリティを詳細にレポートします。

Knowledge Script	説明
SendAndReceiveInternetMail	POP3 および SMTP プロトコルを使用してインターネットメールメッセージを送受信するときのアベイラビリティとレスポンスタイムを監視します。
SendInternetMail	SMTP プロトコルを使用してインターネットメールメッセージを送信するときのアベイラビリティとレスポンスタイムを監視します。
SMTPConnect	SMTP サーバーのアベイラビリティを監視します。
TakeDesktopOwnership	管理クライアント上のデスクトップの制御を AppManager ResponseTime for Web に割り当てます。
URLCheck	URL のアベイラビリティとパフォーマンスを監視します。テキスト、リンク、およびオブジェクトの確認や検索も行います。この Knowledge Script は、URL Check Recorder 拡張版から生成されます。
WebTransaction	Web トランザクションに対するアベイラビリティとレスポンスタイムを監視します。この Knowledge Script は、Web Recorder 拡張版から生成されます。

関連項目

AppManager ResponseTime for Web のバージョンの互換性

AppManager ResponseTime for Web のバージョンの互換性

最新バージョンの ResponseTime for Web では、オリジナルのバージョンの WebServices および Web-RT Knowledge Script は **URL Check Recorder** および**Web Recorder**拡張版の新機能に置き換えられました。バージョン間の互換性は以下に簡単にまとめられています。WebServices の Knowledge Script または AppManager ResponseTime for Web のバージョン 1.2、2.0、または 2.1 の Knowledge Script はサポートされません。AppManager ResponseTime for Web v6.3 で作成した新しい Knowledge Script は後方の互換性はありません。つまり、前バージョンの管理オブジェクトでは実行できません。

たいていの場合、少なくとも 2.2 以上の Web-RT 管理オブジェクトは、2.2 以上の Knowledge Script を実行できますが、2.2 より古いバージョンの

Knowledge Script はサポートしていません。次の表は、バージョンの互換性の詳細を説明しています。

AppManager ResponseTime for Web と拡張版のバージョン	説明
ResponseTime for Web 1.2 (AppManager v5.0.1 と共に出荷)	AppManager for WebServices (WebServices Knowledge Script分類)のKnowledge Scriptをサポート
ResponseTime for Web 2.0 (Web ダウンロード版パッケージ)	URL Check拡張版がWebServices Knowledge Scriptに置き換えられました。 WebServices と WebTransaction Knowledge Script はサポートされます。
ResponseTime for Web 2.1 (Web ダウンロード版パッケージ)	URL Check に WinHTTP のサポートが追加。 WebServices と WebTransaction Knowledge Script はサポートされます。
ResponseTime for Web 2.2 (Web ダウンロード版パッケージ、AppManager 6.0 と共に出荷)	Web Recorder の主要アップグレード。 • WebTransaction Knowledge Script は後方の互換性がありません。 • WebServices と 前バージョンの WebTransaction Knowledge Script はサポートされません。
ResponseTime for Web 6.2 (Web ダウンロード版パッケージ)	Web Recorder の主要アップグレード。 • 新しい WebTransaction Knowledge Script は後方の互換性がありません。 • WebTransaction Knowledge Script v2.2 以上のみサポートされます。 URL Check Recorder のマイナーアップグレード。 • 新しいURL Check Knowledge Scriptは後方の互換性がありません。 • すべての URLCheck Knowledge Script 2.x がサポートされます。

お持ちのバージョンの AppManager ResponseTime for Web をアップグレードする際には、すべての管理クライアントも同じレベルに統一されるようにアップグレードされることを強くお勧めします。また、新しいバージョンをインストールしたあとは、前バージョンの Web Recorder または URL Check Recorder で作成した Knowledge Script を再記録または再度作成することを

お勧めします。これらは新しい管理オブジェクト（ 上記の表を参照）でも実行はできますが、再記録するか、少なくとも拡張版内でオープンし、保存したあと、リポジトリにチェックバックしないかぎりは、新しい機能を利用することができません。

関連項目

Web-RT Knowledge Script リファレンス

Discovery_Web-RT

この Knowledge Script を使用すると、Web サイト、サービス、Web トランザクション、関連プロトコルを監視する AppManager Web-RT 管理オブジェクトを発見できます。

リソースオブジェクト

Windows NT、Windows 2000、Windows XP、または Windows Server 2003

デフォルトのスケジュール

デフォルトの設定で、このスクリプトは各コンピュータに対して 1 度だけ実行されます。

パラメータ値

必要に応じて、次のパラメータを設定します。

パラメータ	説明
[発見に成功したらイベントを発生]	何らかの理由でジョブが失敗すると、常にイベントが発生します。また、[Yes] チェックボックスをオンにして、発見が正常に終了したことを知らせるイベントを発生させることもできます。デフォルトではイベントは発生しません。
[イベント警告レベル]	以下のイベントの重大性を通知する、1 から 40 までの範囲のイベント警告レベルを設定します。 • [正常な発見時のイベント警告レベル]。ジョブが正常に終了したときにイベントを発生させるようにこの Knowledge Script を設定した場合は、発見に成功したときのイベント警告レベルを設定します。デフォルトの設定は 25（青色のイベントインジケータ）です。 • [発見に失敗したときのイベント警告レベル]。デフォルトは 5 です。 • [部分的な発見時のイベント警告レベル]。通常、この種のエラーはターゲットコンピュータに必要なすべてのインストールが行なわれていないときに発生します。デフォルトは 10 です。

FTP

この Knowledge Script を使用すると、FTP サイトのアベイラビリティをチェックし、サイトからファイルをダウンロードできるかどうかを確認することができます。また、ローカルコンピュータのファイルのコンテンツと FTP サイトからダウンロードしたファイルのコンテンツを比較することもできます。

次の状態のいずれかが発生すると、イベントが発生します。

- 指定した FTP サイトが FTP 接続要求に応答しない。
- 指定した FTP ファイルをサイトからダウンロードできない。
- ローカルファイルが見つからない。
- ダウンロードされた FTP ファイルのコンテンツと指定したローカルファイルのコンテンツが異なる。

ダウンロードされたファイルのコンテンツとローカルファイルのコンテンツの比較を選択すると、FTP サイトからファイル全体がバイナリ形式と ASCII 形式の両方でダウンロードされ、両形式のファイルがローカルファイルと比較されます。コンテンツが異なる場合は、2 つ目のファイルを比較した後でイベントが発生します。ダウンロードされたファイルは、ファイルが比較されている間のみ保存され、比較が完了すると削除されます。

FTP Knowledge Script は、さまざまなポート番号の使用、ファイアウォールを通して使用する Passive FTP (PASV)、およびプロキシサーバーを介した接続をサポートします。

データの収集を選択すると、アベイラビリティのデータ系列が生成されます。FTP サーバーが接続要求に応答したときは 1、応答しないときは 0 が返されます。

リソースオブジェクト

FTP

デフォルトのスケジュール

デフォルトの設定で、このスクリプトは **15** 分ごとに実行されます。

パラメータ値

必要に応じて、次のパラメータを設定します。

パラメータ	説明
[FTPサイトが使用できないときにイベントを発生]	イベントを発生させるには [Yes] チェックボックスをオンにします。デフォルトでイベントを発生させます。
[FTPサイトのアベイラビリティのデータを収集]	データを収集するには [Yes] チェックボックスをオンにします。[yes] を選択した場合、FTP サイトが接続要求に応答したときは 1、応答しないときは 0 が返されます。 デフォルトでデータを収集します。

[監視する FTP サーバー]	監視する FTP サーバーのパスを入力します。たとえば、次のように入力します。
	`ftp://ftp.support.com`
	あるいは、
	`ftp.support.com`
	注意：FTP サーバー自体のパスのみ入力できます。`ftp.support.com/files` など、サーバーのパスを入力することはできません。
	さらに、FTP サーバー名に続けてポート番号を渡すことができます。
	（`ftp://ftp.support.com:2100` など）

[FTPサイトへ接続するユーザー名]	監視する FTP サイトに接続するときに使用するユーザー名を入力します。FTP サイトにアクセスするときに使用する名前を正確に入力してください。
[FTPサイトへ接続するパスワード]	監視する FTP サイトに接続するときに使用するパスワードを入力します。FTP サイトにアクセスするときに使用するパスワードを正確に入力してください。 注意：パスワードのエントリは、最大で 32 文字に制限されています。

[FTPサイトからダウンロードするファイル]	FTPサイトからダウンロードするファイルのパスを入力します。スラッシュ（/）を区切り文字として使用し、次のように入力してください。たとえば、次のように入力します。 `ftpforms/CAform22.zip` 注意ファイルのパス名（ファイルが存在するディレクトリとファイル名）だけを指定してください。完全な（完全に記述された）URL（`ftp://mysite.com/ftpforms/CAform22.zip` など）を入力しないでください。
[比較するローカルファイル]	円記号（\）を区切り文字として使用し、比較するローカルファイルのパスを入力します。標準パスまたは UNC パスを指定することができます。たとえば、次のように入力します。 `C:￥CAforms￥CAform22.doc`（標準パス） `￥￥Caforms￥CAform22.doc`（UNC パス） このフィールドは大小文字を区別します。
[プロキシサーバー名]	必要に応じて、使用するプロキシサーバーコンピュータの名前とポート番号を、次のの形式で指定します。 `proxyserver:port`
[プロキシユーザー名]	必要に応じてプロキシサーバーのユーザー名を指定します。プロキシサーバーのユーザー名を次の形式で入力します。`username` または `domain￥username`。
[プロキシパスワード]	必要に応じてプロキシサーバーのパスワードを指定します。
[パッシブモードを使用]	パッシブモード FTPを有効にするには[Yes]チェックボックスをオンにします。クライアントまたはサーバーがファイアウォール外にある場合、パッシブ FTP が必要になる場合があります。 デフォルトでパッシブ FTP は有効です。
[FTPサーバーが使用できないときのイベント警告レベル]	FTP サーバーが通信できないときの、1 から 40 までの範囲のイベント警告レベルを設定します。デフォルトは 5（赤色のインジケータ）です。
[ファイルのダウンロードに失敗したときのイベント警告レベル]	FTPファイルのダウンロードが正常に終了しなかったときの、1 から 40 までの範囲のイベント警告レベルを設定します。デフォルトは 15（黄色のインジケータ）です。

[ローカルファイルが見つからないときのイベント警告レベル]	ローカルファイルが見つからなかったときの、1 から 40 までの範囲のイベント警告レベルを設定します。デフォルトは 15（黄色のインジケータ）です。
[ファイルの比較に失敗したときのイベント警告レベル]	ファイルの比較が正常に終了しなかったときの、1 から 40 までの範囲のイベント警告レベルを設定します。デフォルトは 20 です。

関連項目

Web-RT Knowledge Script リファレンス

NNTPConnect

この Knowledge Script を使用すると、NNTP サーバーのアベイラビリティを監視することができます。指定したNNTPサーバーがNNTPポート（ポート 119）の接続要求に応答しないときには、イベントが発生します。

データの収集を選択すると、アベイラビリティのデータ系列が生成されます。

- 1 -- NNTP サーバーが接続要求に応答
- 0 -- NNTP サーバーは応答しなかった

リソースオブジェクト

News (NNTP) サーバー

デフォルトのスケジュール

デフォルトの設定で、このスクリプトは **15** 分ごとに実行されます。

パラメータ値

必要に応じて、次のパラメータを設定します。

パラメータ	説明
[NNTP サーバーが使用できないときにイベントを発生]	イベントを発生させるには[Yes]チェックボックスをオンにします。デフォルトでイベントを発生させます。
[NNTP サーバーのアベイラビリティのデータを収集]	データを収集するには[Yes]チェックボックスをオンにします。 [Yes] を選択した場合、NNTP サーバーが接続要求に応答したときは1、応答しないときは0が返されます。 デフォルトでデータを収集します。
[監視する NNTP サーバー]	監視するNNTPサーバーの名前を入力します。たとえば、「`msnews.microsoft.com`」のように入力します。 さらに、NNTP サーバー名に続けてポート番号を渡すことができます。 たとえば、「`msnews.microsoft.com:563`」のように入力します。

[NNTP サーバーへの接続ユーザー名]	監視する NNTP サーバーに接続するときに使用するユーザー名を入力します。NNTPサイトにアクセスするときに使用する名前を正確に入力してください。
[NNTP サーバーへの接続パスワード]	監視する NNTP サーバーに接続するときに使用するパスワードを入力します。NNTPサイトにアクセスするときに使用するパスワードを正確に入力してください。 注意：パスワードのエントリは、最大で 32 文字に制限されています。
[NNTP サーバーが使用できないときのイベント警告レベル]	イベントの重大性を通知する、1 から 40 までの範囲のイベント警告レベルを設定します。デフォルトの警告レベルは 5（赤色のインジケータ）です。

関連項目

Web-RT Knowledge Script リファレンス

ReceiveInternetMail

この Knowledge Script を使用すると、POP3 プロトコルを使用してインターネットメールメッセージを受信するときのアベイラビリティとレスポンスタイムを監視することができます。

データの収集を選択すると、この Knowledge Script によって以下のデータ系列が生成されます。

- レスポンスタイム
- アベイラビリティ - 以下の 2 つの値のいずれかを返します。
  - 1 - テストが成功したとき
  - 0 - テストが失敗したとき

以下のいずれかが発生するとイベントが生成されます。

- しきい値を超えたとき。
- サービスアベイラビリティがエラーのためテストに失敗したとき。
- その他のエラー。

リソースオブジェクト

Internet メール

デフォルトのスケジュール

デフォルトの設定で、このスクリプトは **15** 分ごとに実行されます。

パラメータ値

必要に応じて、次のパラメータを設定します。

パラメータ	説明
[データを収集]	グラフとレポートに使用するデータを収集するには [Yes] チェックボックスをオンにします。デフォルトでデータを収集します。
[サーバーに接続できないときにイベントを発生]	サーバーに接続できないときにイベントを発生させるには [Yes] チェックボックスをオンにします。デフォルトでイベントを発生させます。

パラメータ	説明
[しきい値を超えたときにイベントを発生]	しきい値を超えたときにイベントを発生させるには [Yes] チェックボックスをオンにします。デフォルトでイベントを発生させます。
[しきい値 - 最大レスポンスタイム]	浮動小数点数を秒単位で指定します。レスポンスタイムがこのしきい値を超えたときにイベントが生成されます。しきい値イベントでは、イベントメッセージに総レスポンスタイムの内訳が含まれています。[しきい値を超えたらイベントを発生] が有効な場合は入力必須です。
[POP3 サーバー名]	POP3 サーバーの名前を入力します。
[POP3 サーバーポート番号]	POP3 サーバーのポート番号を入力します。デフォルトは 110 です。
[トランザクションタイムアウト]	秒数を入力します。デフォルトの設定は 300 です。入力必須パラメータです。
[サーバーにメッセージを残す]	POP3 サーバーにメッセージを残すには [Yes] チェックボックスをオンにします。POP3 サーバーからメッセージを削除するにはチェックボックスをオフにします。デフォルトでメッセージはサーバーに残ります。
[POP3 ユーザー名]	スクリプトを実行するクライアントの POP3 ユーザー名を入力します。入力必須パラメータです。
[POP3 パスワード]	POP3 ユーザー名に対する POP3 パスワードを入力します。入力必須パラメータです。
[実行ユーザー名]	このアプリケーションを実行する許可を持つ特定のユーザーのユーザー ID を入力します。入力必須パラメータです。
[実行ユーザーのパスワード]	ネットワークにログオンし、アプリケーションを実行する必要のあるユーザーに関連するパスワードを入力します。
[実行ユーザーのドメイン]	ログオンするユーザーに関連するドメイン名を入力します。入力必須パラメータです。
[管理クライアントの管理者グループ]	管理クライアント上の管理者グループの名前を入力します。通常、この名前は「Administrators」です。デフォルトは Administrators です。
[サーバーに接続できないときのイベント警告レベル]	イベントの重大性を通知する、1 から 40 までの範囲のイベント警告レベルを設定します。デフォルトは 5（赤色のインジケータ）です。アベイラビリティのエラーイベントを無効にすると、この値は無視されます。

パラメータ	説明
[しきい値を超えたときのイベント警告レベル]	イベントの重大性を通知する、1 から 40 までの範囲のイベント警告レベルを設定します。デフォルトは 15（黄色のインジケータ）です。レスポンスタイムのイベントを無効にすると、この値は無視されます。

例

このサンプルスクリプトは、Pop-Server.company.localサーバーからBob Jones (bjones) アカウントの POP3 メールを受信する時間が 0.5 秒未満であるかどうかを確認します。ITUser1 はドメインアカウントです。

[レスポンスタイム]	.5
[POP3 サーバー名]	pop-server.company.local
[POP3 ユーザー名]	bjones
[POP3 パスワード]	bjones**s パスワード**
[実行ユーザー名]	ITUser1
[実行ユーザーのパスワード]	ITUser1 **のパスワード**
[実行ユーザーのドメイン]	ITUser1 **のドメイン**

関連項目

Web-RT Knowledge Script **リファレンス**

Report_Web-RT_Mail

この Report Knowledge Script を使用すると、以下の Web-RT Knowledge Script を対象にアベイラビリティとレスポンスタイムを詳細に示すレポートを生成することができます。

- ReceiveInternetMail
- SendAndReceiveInternetMail
- SendInternetMail

リソースオブジェクト

Web-RT

デフォルトのスケジュール

デフォルトの設定で、このスクリプトは **1** 度だけ実行されます。

パラメータ値

必要に応じて、次のパラメータを設定します。

パラメータ	説明
[データソース]	**以下のパラメータを使用してレポート対象のデータを選択します。**
[**レポート** KS]	**レポート対象の** Knowledge Script **を選択します。参照 [...] ボタンをクリックすると、**[Knowledge Script **を選択] ダイアログボックスが表示されます。[Knowledge Script 名] リストから** Web-RT Knowledge Script **を選択し、[完了] をクリックして選択します。**

パラメータ	説明
[Web-RT クライアント]	Web-RT クライアントを選択します。参照 [...] ボタンをクリックすると、[ビューとフィルタを選択] ダイアログが表示されます。[ビュー] リストから、1 ～ 25 種類のビューを選択します。 次に選択できるのは、選択済みのビューに表示されるコンピュータまたはサーバーグループに制限されます。 フィルタオプションのいずれかを選択します。 • [ビュー]: 選択済みのビューの中のすべてのコンピュータが含まれます。 • [コンピュータ]：選択済みのビューの中の個別のコンピュータから選択します。 • [サーバーグループ]:選択済みのビューの中のサーバーグループから選択します。 サーバーグループを選択すると、そのグループ内のすべてのコンピュータが含まれます。
[メールサーバーまたはすべて]	メールサーバーの名前を入力するか、「ALL」と入力してすべてのコンピュータをメールサーバーとして指定します。 デフォルトは All です。
[期間の選択]	[期間の選択] ダイアログボックスでは、レポート情報の特定の開始日と終了日（履歴レポートまたはアドホックレポート用）を設定するか、レポートに含まれるデータの時間範囲を指定する一定期間（デフォルト）を設定します。このオプションはデフォルトで、定期的なスケジュールで実行されるレポートのために役立ちます。
[ピーク曜日を選択]	参照 [...] ボタンをクリックすると、[Knowledge Script を選択] ダイアログボックスが表示されます。ある範囲の日を選択するには、[Shift] キーを押しながら日をクリックします。それぞれの日を選択するには、[Ctrl] を押しながらクリックします。
[集計期間の単位]	データを集計する時間単位を選択します。デフォルトの設定は時間です。これは、データ集計間隔を決定する次のフィールド（[集計実行間隔]）と関連して動作します。
[集計実行間隔]	データを集計する間隔を選択します。たとえば、[集計期間の単位] パラメータに「時間」を設定してここで「1」を選択すると、データは 1 時間ごとに集計されます。

パラメータ	説明
[レポートの設定]	以下のパラメータを使用して、データのグラフ表示、レポートの出力フォルダ、およびレポートを特定するプロパティを定義します。
[パラメータカードを含める]	このレポートスクリプトのパラメータ値を一覧にしたテーブルレポートに含めるには[Yes]チェックボックスをオンにします。デフォルトの設定ではテーブルが含まれます。
[アベイラビリティの詳細テーブルを含める]	レポートの一部としてアベイラビリティ詳細テーブルを表示するかどうかを指定します。デフォルトの設定ではテーブルが含まれます。
[アベイラビリティのグラフを含める]	レポートの一部としてアベイラビリティのグラフを表示するかどうかを指定します。デフォルトの設定ではグラフが含まれます。
[アベイラビリティのグラフのしきい値]	グラフで使用するしきい値としてアベイラビリティの値をパーセント (%) で入力します。デフォルトの設定は 0（しきい値は非表示）です。
[レスポンスタイムの詳細テーブルを含める]	レスポンスタイム詳細テーブルをレポートに組み込むかどうかを指定します。デフォルトの設定ではテーブルが含まれます。
[レスポンスタイムのグラフを含める]	レスポンスタイムのグラフをレポートに組み込むかどうかを指定します。デフォルトの設定ではグラフが含まれます。
[レスポンスタイムレポートの単位]	レスポンスタイムの単位としてミリ秒（デフォルト）または秒を選択します。
[レスポンスタイムのグラフのしきい値（選択単位）]	グラフで使用するしきい値として、時間（上記で指定した単位）を入力するか、デフォルトの 0.0（しきい値を非表示）を使用します。
[グラフのスタイルを選択]	[グラフの設定] ダイアログボックスのオプションにより、グラフの表示スタイルを設定します。アベイラビリティのグラフとレスポンスタイムのグラフの両方を作成する場合は、両方に同じパラメータを使用します。デフォルトは Ribbon です。
[出力フォルダの選択]	[レポートフォルダ / ファイル名を指定] ダイアログボックスで、出力ファイル名を入力しリモートフォルダフィールドに入力します。

パラメータ	説明
[出力フォルダ名にジョブ ID を追加]	出力フォルダ名にジョブ ID を追加するかどうかを指定します。
[インデックス - レポートタイトル]	[レポートプロパティ] ダイアログボックスでレポートのタイトルを設定します。
[タイトルにタイムスタンプを追加]	レポートのタイトルにタイムスタンプを追加するかどうかを指定します。
[イベントの通知]	以下のパラメータを使用して、レポートの生成に関連するイベントを発生させ、イベントの警告レベルを設定します。
[成功時にイベントを発生]	レポートの生成時にイベントを発生させるかどうかを指定します。デフォルトでイベントを発生させます。
[レポートの生成に成功したときのイベント警告レベル]	レポートが正常に生成されたときの警告レベルを設定します。デフォルトは 35（赤紫色のインジケータ）です。
[レポートのデータがないときのイベント警告レベル]	レポートのデータがないときの警告レベルを設定します。デフォルトは 25（青色のインジケータ）です。
[レポートの生成に失敗したときのイベント警告レベル]	レポートのデータがないときの警告レベルを設定します。デフォルトは 5（赤色のインジケータ）です。

関連項目

Web-RT Knowledge Script リファレンス

Report_Web-RT_Steps

この Report Knowledge Script を使用すると、WebTransaction Knowledge Script のトランザクションステップ (Web Recorder 拡張版で作成された Knowledge Script) を対象にレスポンスタイムを詳細に示すレポートを生成することができます。

注意　この Knowledge Script **はデフォルトのステップ凡例を使用する** WebTransaction Knowledge Script **とのみ作動します。**

リソースオブジェクト

Web-RT

デフォルトのスケジュール

デフォルトの設定で、このスクリプトは **1** 度だけ実行されます。

パラメータ値

必要に応じて、次のパラメータを設定します。

パラメータ	説明
[データソース]	**以下のパラメータを使用してレポート対象のデータを選択します。**
[Web Transaction**スクリプト**]	**レポート対象の** Knowledge Script **を選択します。参照 [...] ボタンをクリックすると、**[Knowledge Script **を選択**] **ダイアログボックスが表示されます。**[Knowledge Script **名**] **リストから** Web Transaction Knowledge Script **を選択し、[完了] をクリックして選択します。**

パラメータ	説明
[Web-RT クライアント]	Web-RT クライアントを選択します。参照 [...] ボタンをクリックすると、[ビューとフィルタを選択] ダイアログが表示されます。[ビュー] リストから、1 ～ 25 種類のビューを選択します。 次に選択できるのは、選択済みのビューに表示されるコンピュータまたはサーバーグループに制限されます。 フィルタオプションのいずれかを選択します。 • [ビュー]: 選択済みのビューの中のすべてのコンピュータが含まれます。 • [コンピュータ]：選択済みのビューの中の個別のコンピュータから選択します。 • [サーバーグループ]: 選択済みのビューの中のサーバーグループから選択します。 サーバーグループを選択すると、そのグループ内のすべてのコンピュータが含まれます。
[期間の選択]	[期間の選択] ダイアログボックスでは、レポート情報の特定の開始日と終了日（履歴レポートまたはアドホックレポート用）を設定するか、レポートに含まれるデータの時間範囲を指定する一定期間（デフォルト）を設定します。このオプションはデフォルトで、定期的なスケジュールで実行されるレポートのために役立ちます。
[ピーク曜日を選択]	参照 [...] ボタンをクリックすると、[Knowledge Script を選択] ダイアログボックスが表示されます。ある範囲の日を選択するには、[Shift] キーを押しながら日をクリックします。それぞれの日を選択するには、[Ctrl] を押しながらクリックします。
[集計期間の単位]	データを集計する時間単位を選択します。デフォルトは時間です。これは、データ集計間隔を決定する次のフィールド（[集計実行間隔]）と関連して動作します。
[集計実行間隔]	データを集計する間隔を選択します。たとえば、[集計期間の単位] パラメータに「時間」を設定してここで「1」を選択すると、データは 1 時間ごとに集計されます。
[レポートの設定]	以下のパラメータを使用して、データのグラフ表示、レポートの出力フォルダ、およびレポートを特定するプロパティを定義します。

パラメータ	説明
[パラメータカードを含める]	このレポートスクリプトのパラメータ値を一覧にしたテーブルレポートに含めるには[Yes]チェックボックスをオンにします。デフォルトの設定ではテーブルが含まれます。
[レスポンスタイムの詳細テーブルを含める]	レスポンスタイム詳細テーブルをレポートに組み込むかどうかを指定します。デフォルトの設定ではテーブルが含まれます。
[レスポンスタイムのグラフを含める]	レスポンスタイムのグラフをレポートに組み込むかどうかを指定します。デフォルトの設定ではグラフが含まれます。
[レスポンスタイムレポートの単位]	レスポンスタイムの単位としてミリ秒（デフォルト）または秒を選択します。
[レスポンスタイムのグラフのしきい値（選択単位）]	グラフで使用するしきい値として、時間（上記で選択した単位）を入力します。デフォルトの設定は 0.0 です。(しきい値なし)
[グラフのスタイルを選択]	[グラフの設定] ダイアログボックスのオプションにより、グラフの表示スタイルを設定します。アベイラビリティのグラフとレスポンスタイムのグラフの両方を作成する場合は、両方に同じパラメータを使用します。デフォルトは Bar_Stacked です。
[出力フォルダの選択]	[レポートフォルダ / ファイル名を指定] ダイアログボックスで、出力ファイル名を入力しリモートフォルダフィールドに入力します。デフォルトの設定は [Web-RT_Steps_（スクリプト名）] です。
[出力フォルダ名にジョブ ID を追加]	出力フォルダ名にジョブ ID を追加するかどうかを指定します。
[インデックス - レポートタイトル]	[レポートプロパティ] ダイアログボックスでレポートのタイトルを設定します。 デフォルトの設定は [Web-RT_Steps_（スクリプト名）] です。
[タイトルにタイムスタンプを追加]	レポートのタイトルにタイムスタンプを追加するかどうかを指定します。デフォルトでは、タイムスタンプを追加しません。
[イベントの通知]	以下のパラメータを使用して、レポートの生成に関連するイベントを発生させ、イベントの警告レベルを設定します。

パラメータ	説明
[成功時にイベントを発生]	レポートの生成時にイベントを発生させるかどうかを指定します。デフォルトでイベントを発生させます。
[レポートの生成に成功したときのイベント警告レベル]	レポートが正常に生成されたときの警告レベルを設定します。デフォルトは 35（赤紫色のインジケータ）です。
[レポートのデータがないときのイベント警告レベル]	レポートのデータがないときの警告レベルを設定します。デフォルトは 25（青色のインジケータ）です。
[レポートの生成に失敗したときのイベント警告レベル]	レポートのデータがないときの警告レベルを設定します。デフォルトは 5（赤色のインジケータ）です。

関連項目

Web-RT Knowledge Script リファレンス

Report_Web-RT_URLCheck

この Report Knowledge Script を使用すると、URLCheck Knowledge Script を対象にアベイラビリティをパーセンテージで示したレポートを生成することができます。

注意　この Knowledge Script はデフォルトの凡例を使用している URLCheck Knowledge Script とのみ作動します。

必要に応じて、次のパラメータを設定します。

パラメータ	説明
[データソース]	**以下のパラメータを使用してレポート対象のデータを選択します。**
[URLCheck **スクリプト**]	**レポート対象の** Knowledge Script **を選択します。参照 [...] ボタンをクリックすると、**[Knowledge Script **を選択**] **ダイアログボックスが表示されます。**[Knowledge Script **名**] **リストから** Web Transaction **スクリプトを選択し、[完了] をクリックして選択します。**
[Web **クライアント**]	**特定のクライアントコンピュータを入力するか、または** [All] **を選択してすべてのクライアントコンピュータについてレポートします。**
[期間の選択]	**[期間の選択] ダイアログボックスでは、レポート情報の特定の開始日と終了日（履歴レポートまたはアドホックレポート用）を設定するか、レポートに含まれるデータの時間範囲を指定する一定期間（デフォルト）を設定します。このオプションはデフォルトで、定期的なスケジュールで実行されるレポートのために役立ちます。**
[ピーク曜日を選択]	**参照 [...] ボタンをクリックすると、**[Knowledge Script **を選択**] **ダイアログボックスが表示されます。ある範囲の日を選択するには、**[Shift] **キーを押しながら日をクリックします。それぞれの日を選択するには、**[Ctrl] **を押しながらクリックします。**
[集計期間の単位]	**データを集計する時間単位を選択します。デフォルトは時間です。これは、データ集計間隔を決定する次のフィールド（[集計実行間隔]）と関連して動作します。**

[集計実行間隔]	データを集計する間隔を選択します。たとえば、[集計期間の単位] パラメータに「時間」を設定してここで「1」を選択すると、データは 1 時間ごとに集計されます。
[レポートの設定]	以下のパラメータを使用して、データのグラフ表示、レポートの出力フォルダ、およびレポートを特定するプロパティを定義します。
[パラメータカードを含める]	このレポートスクリプトのパラメータ値を一覧にしたテーブルをレポートに含めるには [Yes] チェックボックスをオンにします。デフォルトの設定ではテーブルが含まれます。
[アベイラビリティのパーセント詳細テーブルを含める]	レポートの一部としてアベイラビリティ（%）詳細テーブルを表示するかどうかを指定します。デフォルトの設定ではテーブルが含まれます。
[アベイラビリティのパーセントのグラフを含める]	レポートの一部としてアベイラビリティ（%）グラフを表示するかどうかを指定します。デフォルトの設定ではグラフが含まれます。
[アベイラビリティのパーセントのグラフのしきい値（選択単位）]	グラフで使用するしきい値としてアベイラビリティの値をパーセント（%）で入力します。デフォルトの設定は 0（しきい値は非表示）です。
[グラフのスタイルを選択]	[グラフの設定] ダイアログボックスのオプションにより、グラフの表示スタイルを設定します。アベイラビリティのグラフとレスポンスタイムのグラフの両方を作成する場合は、両方に同じパラメータを使用します。デフォルトは Ribbon です。
[出力フォルダの選択]	[レポートフォルダ / ファイル名を指定] ダイアログボックスで、出力ファイル名を入力しリモートフォルダフィールドに入力します。デフォルトの設定は [Web-RT_（スクリプト名）] です。
[出力フォルダ名にジョブ ID を追加]	出力フォルダ名にジョブ ID を追加するかどうかを指定します。
[インデックス - レポートタイトル]	[レポートプロパティ] ダイアログボックスでレポートのタイトルを設定します。デフォルトの設定は [Web-RT_Steps_（スクリプト名）] です。
[タイトルにタイムスタンプを追加]	レポートのタイトルにタイムスタンプを追加するかどうかを指定します。デフォルトでは、タイムスタンプを追加しません。

[イベントの通知]	以下のパラメータを使用して、レポートの生成に関連するイベントを発生させ、イベントの警告レベルを設定します。
[成功時にイベントを発生]	レポートの生成時にイベントを発生させるかどうかを指定します。デフォルトでイベントを発生させます。
[レポートの生成に成功したときのイベント警告レベル]	レポートが正常に生成されたときの警告レベルを設定します。デフォルトは 35（赤紫色のインジケータ）です。
[レポートのデータがないときのイベント警告レベル]	レポートのデータがないときの警告レベルを設定します。デフォルトは 25（青色のインジケータ）です。
[レポートの生成に失敗したときのイベント警告レベル]	レポートのデータがないときの警告レベルを設定します。デフォルトは 5（赤色のインジケータ）です。

関連項目

Web-RT Knowledge Script リファレンス
URLCheck

Report_Web-RT_Web

この Report Knowledge Script を使用すると、WebTransaction Knowledge Script(Web Recorder 拡張版で作成された Knowledge Script) のアベイラビリティとレスポンスタイムを詳細に示すレポートを生成することができます。

注意　この Knowledge Script **はデフォルトの凡例を使用する** WebTransaction Knowledge Script **とのみ作動します。**

リソースオブジェクト

Web-RT

デフォルトのスケジュール

デフォルトの設定で、このスクリプトは **1** 度だけ実行されます。

パラメータ値

必要に応じて、次のパラメータを設定します。

パラメータ	説明
[データソース]	**以下のパラメータを使用してレポート対象のデータを選択します。**
WebTransaction **スクリプト**	**レポート対象の** Knowledge Script **を選択します。参照 [...] ボタンをクリックすると、**[Knowledge Script **を選択] ダイアログボックスが表示されます。[Knowledge Script 名] リストから** Web Transaction **スクリプトを選択し、[完了] をクリックして選択します。**

パラメータ	説明
[Web-RT クライアント]	Web-RT クライアントを選択します。参照 [...] ボタンをクリックすると、[ビューとフィルタを選択] ダイアログが表示されます。[ビュー] リストから、1 ～ 25 種類のビューを選択します。 次に選択できるのは、選択済みのビューに表示されるコンピュータまたはサーバーグループに制限されます。 フィルタオプションのいずれかを選択します。 • [ビュー]: 選択済みのビューの中のすべてのコンピュータが含まれます。 • [コンピュータ]：選択済みのビューの中の個別のコンピュータから選択します。 • [サーバーグループ]:選択済みのビューの中のサーバーグループから選択します。 サーバーグループを選択すると、そのグループ内のすべてのコンピュータが含まれます。
[期間の選択]	[期間の選択] ダイアログボックスでは、参照ボタンをクリックしてレポート情報の特定の開始日と終了日（履歴レポートまたはアドホックレポート用）を設定するか、レポートに含まれるデータの時間範囲を指定する一定期間（デフォルト）を設定します。このオプションはデフォルトで、定期的なスケジュールで実行されるレポートのために役立ちます。
[ピーク曜日を選択]	参照 [...] ボタンをクリックすると、[Knowledge Script を選択] ダイアログボックスが表示されます。ある範囲の日を選択するには、[Shift] キーを押しながら日をクリックします。それぞれの日を選択するには、[Ctrl] を押しながらクリックします。
[集計期間の単位]	データを集計する時間単位を選択します。デフォルトの設定は時間です。これは、データ集計間隔を決定する次のフィールド（[集計実行間隔]）と関連して動作します。
[集計実行間隔]	データを集計する間隔を選択します。たとえば、[集計期間の単位] パラメータに「時間」を設定してここで「1」を選択すると、データは 1 時間ごとに集計されます。
[レポートの設定]	以下のパラメータを使用して、データのグラフ表示、レポートの出力フォルダ、およびレポートを特定するプロパティを定義します。

パラメータ	説明
[パラメータカードを含める]	このレポートスクリプトのパラメータ値を一覧にしたテーブルをレポートに含めるには[Yes]チェックボックスをオンにします。デフォルトの設定ではテーブルが含まれます。
[アベイラビリティの詳細テーブルを含める]	レポートの一部としてアベイラビリティ詳細テーブルを表示するかどうかを指定します。デフォルトの設定ではテーブルが含まれます。
[アベイラビリティのグラフを含める]	レポートの一部としてアベイラビリティのグラフを表示するかどうかを指定します。デフォルトの設定ではグラフが含まれます。
[アベイラビリティのグラフのしきい値]	グラフで使用するしきい値としてアベイラビリティの値をパーセント (%) で入力します。デフォルトの設定は 0（しきい値は非表示）です。
[レスポンスタイムの詳細テーブルを含める]	レスポンスタイム詳細テーブルをレポートに組み込むかどうかを指定します。デフォルトの設定ではテーブルが含まれます。
[レスポンスタイムのグラフを含める]	レスポンスタイムのグラフをレポートに組み込むかどうかを指定します。デフォルトの設定ではグラフが含まれます。
[レスポンスタイムレポートの単位]	レスポンスタイムの単位としてミリ秒（デフォルト）または秒を選択します。
[レスポンスタイムのグラフのしきい値（選択単位）]	上記のパラメータで指定した単位のしきい値の時間を入力するか、またはデフォルト設定の 0.0 を使用します（ゼロを選択すると、しきい値のインジケータはグラフに表示されません）。
[グラフのスタイルを選択]	[グラフの設定] ダイアログボックスのオプションにより、グラフの表示スタイルを設定します。アベイラビリティのグラフとレスポンスタイムのグラフの両方を作成する場合は、両方に同じパラメータを使用します。デフォルトは Ribbon です。
[出力フォルダの選択]	[レポートフォルダ / ファイル名を指定] ダイアログボックスで、出力ファイル名を入力しリモートフォルダフィールドに入力します。
[出力フォルダ名にジョブ ID を追加]	出力フォルダ名にジョブ ID を追加するかどうかを指定します。

パラメータ	説明
[インデックス - レポートタイトル]	[レポートプロパティ] ダイアログボックスでレポートのタイトルを設定します。
[タイトルにタイムスタンプを追加]	レポートのタイトルにタイムスタンプを追加するかどうかを指定します。
[イベントの通知]	以下のパラメータを使用して、レポートの生成に関連するイベントを発生させ、イベントの警告レベルを設定します。
[成功時にイベントを発生]	レポートの生成時にイベントを発生させるかどうかを指定します。デフォルトでイベントを発生させます。
[レポートの生成に成功したときのイベント警告レベル]	レポートが正常に生成されたときの警告レベルを設定します。デフォルトは 35（赤紫色のインジケータ）です。
[レポートのデータがないときのイベント警告レベル]	レポートのデータがないときの警告レベルを設定します。デフォルトは 25（青色のインジケータ）です。
[レポートの生成に失敗したときのイベント警告レベル]	レポートのデータがないときの警告レベルを設定します。デフォルトは 5（赤色のインジケータ）です。

関連項目

Web-RT Knowledge Script リファレンス
WebTransaction

SendAndReceiveInternetMail

この Knowledge Script を使用すると、POP3 および SMTP プロトコルを使用してインターネットメールメッセージを送受信するときのアベイラビリティとレスポンスタイムを監視することができます。

データの収集を選択すると、この Knowledge Script によって以下のデータ系列が生成されます。

- レスポンスタイム
- アベイラビリティ - 以下の 2 つの値のいずれかを返します。
  - 1-- テストが成功したとき
  - 0-- テストが失敗したとき

以下のいずれかが発生するとイベントが生成されます。

- イベントパラメータに指定したしきい値を超えたとき。
- サービスアベイラビリティがエラーのためテストに失敗したとき。
- その他のエラー。

リソースオブジェクト

Internet メール

デフォルトのスケジュール

デフォルトの設定で、このスクリプトは **15** 分ごとに実行されます。

パラメータ値

必要に応じて、次のパラメータを設定します。

パラメータ	説明
[データを収集]	グラフとレポートに使用するデータを収集するには [Yes] チェックボックスをオンにします。デフォルトでデータを収集します。
[サーバーに接続できないときにイベントを発生]	サーバーに接続できないときにイベントを発生させるには [Yes] チェックボックスをオンにします。デフォルトでイベントを発生させます。

パラメータ	説明
[しきい値を超えたときにイベントを発生]	しきい値を超えたときにイベントを発生させるには [Yes] チェックボックスをオンにします。デフォルトでイベントを発生させます。
[しきい値 - 最大レスポンスタイム]	浮動小数点数を秒単位で指定します。レスポンスタイムがこのしきい値を超えたときにイベントが生成されます。しきい値イベントでは、イベントメッセージに総レスポンスタイムの内訳が含まれています。[しきい値を超えたらイベントを発生] が有効な場合は入力必須です。
[SMTP サーバー名]	SMTP サーバーの名前を入力します。
[SMTP サーバーポート番号]	SMTPサーバーのポート番号を入力します。デフォルトは 25 です。
[POP3 サーバー名]	POP3 サーバーの名前を入力します。このフィールドを空白のままにしておくと、上記のパラメータで指定した SMTP サーバー名が使用されます。
[POP3 サーバーポート番号]	POP3 サーバーのポート番号を入力します。デフォルトは 110 です。
[電子メールアドレス]	クライアントの電子メールアドレスを入力します。
[メッセージのサイズ]	メッセージの本文テキストのバイト数を入力します。デフォルトの設定は 100 です。入力必須パラメータです。
[トランザクションタイムアウト]	秒数を入力します。デフォルトの設定は 300 です。入力必須パラメータです。
[サーバーにメッセージを残す]	POP3 サーバーにメッセージを残すには [Yes] チェックボックスをオンにします。POP3 サーバーからメッセージを削除するにはチェックボックスをオフにします。デフォルトでメッセージはサーバーに残ります。
[POP3 ユーザー名]	スクリプトを実行するクライアントの POP3 ユーザー名を入力します。入力必須パラメータです。
[POP3 パスワード]	POP3 ユーザー名に対する POP3 パスワードを入力します。入力必須パラメータです。
[実行ユーザー名]	このアプリケーションを実行する許可を持つ特定のユーザーのユーザー ID を入力します。入力必須パラメータです。
[実行ユーザーのパスワード]	ネットワークにログオンし、アプリケーションを実行する必要のあるユーザーに関連するパスワードを入力します。

パラメータ	説明
[実行ユーザーのドメイン]	ログオンするユーザーに関連するドメイン名を入力します。入力必須パラメータです。
[管理クライアントの管理者グループ]	管理クライアント上の管理者グループの名前を入力します。通常、この名前は「Administrators」です。デフォルトの設定は Administrators です。
[サーバーに接続できないときのイベント警告レベル]	イベントの重大性を通知する、1 から 40 までの範囲のイベント警告レベルを設定します。デフォルトは 5（赤色のインジケータ）です。アベイラビリティのエラーイベントを無効にすると、この値は無視されます。
[しきい値を超えたときのイベント警告レベル]	イベントの重大性を通知する、1 から 40 までの範囲のイベント警告レベルを設定します。デフォルトは 15（黄色のインジケータ）です。レスポンスタイムのイベントを無効にすると、この値は無視されます。

例

このサンプルスクリプトは、SMTP-Server.company.local サーバーと POP-server.company サーバーを使用して Bob Jones (bjones) アカウントの SMTP および POP3 メールを送受信する時間が 1.2 秒未満であるかどうかを確認します。ITUser1 はドメインアカウントです。

[レスポンスタイム]	1.2
[SMTP サーバー名]	smtp-server.company.local
[POP3 サーバー名]	pop-server.company.local
[電子メールアドレス]	bjones@company.local
[POP3 ユーザー名]	bjones
[POP3 パスワード]	bjones のパスワード
[実行ユーザー名]	ITUser1
[実行ユーザーのパスワード]	ITUser1 のパスワード
[実行ユーザーのドメイン]	ITUser1 のドメイン

関連項目

Web-RT Knowledge Script リファレンス

SendInternetMail

この Knowledge Script を使用すると、SMTP プロトコルを使用してインターネットメールメッセージを送信するときのアベイラビリティとレスポンスタイムを監視することができます。

データの収集を選択すると、この Knowledge Script によって以下のデータ系列が生成されます。

- レスポンスタイム
- アベイラビリティ - 以下の 2 つの値のいずれかを返します。
  - 1 - テストが成功したとき
  - 0 - テストが失敗したとき

以下のいずれかが発生するとイベントが生成されます。

- イベントパラメータに指定したしきい値を超えたとき。
- サービスアベイラビリティがエラーのためテストに失敗したとき。
- その他のエラー。

リソースオブジェクト

Internet メール

デフォルトのスケジュール

デフォルトの設定で、このスクリプトは **15** 分ごとに実行されます。

パラメータ値

必要に応じて、次のパラメータを設定します。

パラメータ	説明
[データを収集]	グラフとレポートに使用するデータを収集するには [Yes] チェックボックスをオンにします。デフォルトでデータを収集します。
[サーバーに接続できないときにイベントを発生]	サーバーに接続できないときにイベントを発生させるには [Yes] チェックボックスをオンにします。デフォルトでイベントを発生させます。

パラメータ	説明
[しきい値を超えたときにイベントを発生]	しきい値を超えたときにイベントを発生させるには [Yes] チェックボックスをオンにします。デフォルトでイベントを発生させます。
[しきい値 - 最大レスポンスタイム]	浮動小数点数を秒単位で指定します。レスポンスタイムがこのしきい値を超えたときにイベントが生成されます。しきい値イベントでは、イベントメッセージに総レスポンスタイムの内訳が含まれています。[しきい値を超えたらイベントを発生] が有効な場合は入力必須です。
[SMTP サーバー名]	SMTP サーバーの名前を入力します。
[SMTP サーバーポート番号]	SMTPサーバーのポート番号を入力します。デフォルトは 25 です。
[電子メールアドレス]	スクリプトを実行するクライアントの電子メールアドレスを入力します。
[メッセージのサイズ]	メッセージの本文テキストのバイト数を入力します。デフォルトの設定は 100 です。入力必須パラメータです。
[トランザクションタイムアウト]	秒数を入力します。デフォルトの設定は 300 です。入力必須パラメータです。
[実行ユーザー名]	このアプリケーションを実行する許可を持つ特定のユーザーのユーザー ID を入力します。入力必須パラメータです。
[実行ユーザーのパスワード]	ネットワークにログオンし、アプリケーションを実行する必要のあるユーザーに関連するパスワードを入力します。
[実行ユーザーのドメイン]	ログオンするユーザーに関連するドメイン名を入力します。入力必須パラメータです。
[管理クライアントの管理者グループ]	管理クライアント上の管理者グループの名前を入力します。通常、この名前は「Administrators」です。デフォルトの設定は Administrators です。
[サーバーに接続できないときのイベント警告レベル]	イベントの重大性を通知する、1 から 40 までの範囲のイベント警告レベルを設定します。デフォルトは 5 です。アベイラビリティのエラーイベントを無効にすると、この値は無視されます。
[しきい値を超えたときのイベント警告レベル]	イベントの重大性を通知する、1 から 40 までの範囲のイベント警告レベルを設定します。デフォルトは 15 です。レスポンスタイムのイベントを無効にすると、この値は無視されます。

例

このサンプルスクリプトは、SMTP-Server.company.local サーバーを使用して Bob Jones (bjones) アカウントの SMTP メールを送信する時間が 0.1 秒未満であるかどうかを確認します。`ITUser1` はドメインアカウントです。

[レスポンスタイム]	.1
[SMTP **サーバー名**]	`smtp-server.company.local`
[電子メールアドレス]	`bjones@company.local`
[実行ユーザー名]	`ITUser1`
[実行ユーザーのパスワード]	`ITUser1` **のパスワード**
[実行ユーザーのドメイン]	`ITUser1` **のドメイン**

関連項目

Web-RT Knowledge Script **リファレンス**

SMTPConnect

この Knowledge Script を使用すると、SMTP サーバーのアベイラビリティを監視することができます。指定した SMTP サーバーが SMTP ポート（ポート 25）への接続に応答しないときには、イベントが発生します。

データの収集を選択すると、アベイラビリティのデータ系列が以下の値の 1 つとともに生成されます。

- 1 -- NNTP サーバーが接続要求に応答
- 0 -- NNTP サーバーは応答しなかった

リソースオブジェクト

SMTP

デフォルトのスケジュール

デフォルトの設定で、このスクリプトは **15** 分ごとに実行されます。

パラメータ値

必要に応じて、次のパラメータを設定します。

パラメータ	説明
[SMTP サーバーが使用できないときにイベントを発生]	イベントを発生させるには[Yes]チェックボックスをオンにします。デフォルトでイベントを発生させます。
[サーバーのアベイラビリティのデータを収集]	データを収集するには [Yes] チェックボックスをオンにします。 [yes] を選択した場合、SMTP サーバーが接続要求に応答したときは 1、応答しないときは 0 が返されます。デフォルトでデータを収集します。

[監視する SMTP サーバー]	監視する SMTP サーバーの名前を入力します。たとえば、「gazelle.netiq.com」のように入力します。 さらに、SMTP サーバー名に続けてポート番号を渡すことができます（gazelle.netiq.com:2500 など）。
[SMTP サーバーが使用できないときのイベント警告レベル]	イベントの重大性を通知する、1 から 40 までの範囲のイベント警告レベルを設定します。デフォルトは 5（赤色のインジケータ）です。

関連項目

Web-RT Knowledge Script リファレンス

TakeDesktopOwnership

この Knowledge Script を使用すると、管理クライアントコンピュータで他のモジュールがデスクトップを制御しているときでもその制御を再割り当てすることができます。

注意　AppManager ResponseTime for Windows を使用している場合で、同じ管理クライアント上で Web-RT_WebTransaction Knowledge Script**、および**Win-RT Knowledge Script **を実行する場合にのみ、この** Knowledge Script **を実行する必要があります。**

Win-RT と Web-RT_WebTransaction Knowledge Script のいずれも、実行または再生を行うためにデスクトップを制御する必要があります。ただし、いずれの場合も 1 つのソフトウェアアプリケーションしかデスクトップは制御できません。WebTransaction Knowledge Script を実行するときに、管理クライアント上のデスクトップレジストリキーの値がチェックされます。デスクトップの制御が他のソフトウェアアプリケーションに割り当てられている場合、Knowledge Script はエラーとなり、再生エラーが表示されます。

この Knowledge Script を使用してデスクトップレジストリキー（HKEY_LOCAL_MACHINE￥SOFTWARE￥NetIQ￥Response Time）の既存値を上書きし、デスクトップの制御を AppManager ResponseTime for Web に与えることができます。

リソースオブジェクト

Web-RT

デフォルトのスケジュール

デフォルトの設定で、このスクリプトは **1** 度だけ実行されます。

パラメータ値

必要に応じて、次のパラメータを設定します。

パラメータ	説明
[レジストリの変更に成功したらイベントを発生]	AppManager ResponseTime for Web にディスクトップの所有権があること示すレジストリ値をスクリプトが更新するとイベントを発生させるにはこのチェックボックスをチェックします。デフォルトの設定は [No] です。
[レジストリの変更に成功したときのイベント警告レベル]	Win-RT にディスクトップの所有権があること示すレジストリ値をスクリプトが更新したときに発生したイベントの警告レベルを指定します。デフォルトの警告レベルは 35（赤紫色のイベントインジケータ）です。
[レジストリの変更に失敗したときのイベント警告レベル]	AppManager ResponseTime for Web にディスクトップの所有権があること示すレジストリ値の設定をさせないためのエラーを発生させるイベントの警告レベルを指定します。デフォルトの警告レベルは 5（赤色のイベントインジケータ）です。

関連項目

Web-RT Knowledge Script リファレンス

URLCheck

この Knowledge Script を使用して URL のアベイラビリティとパフォーマンスを監視することができます。テキスト、リンク、およびオブジェクトの確認や検索も行います。この Knowledge Script は、**URL Check Recorder** エクステンションから生成されます。

URL Check Recorder で設定される URL のプロパティは、この Knowledge Script とは異なる設定であるため、Knowledge Script では編集できません。Knowledge Script のパラメータは、Knowledge Script の作成時に大部分は URL Check Recorder の設定によって決定されますが、このパラメータによってスクリプトの実行や結果の収集などの詳細な設定（または変更）を行うことができます。また、Knowledge Script オプションを編集することにより、カスタマイズ用の追加設定を行うこともできます。この設定によって、イベントのタイトルやデータ系列を決定することができます。オプションまたは URL プロパティを変更するには、Knowledge Script をチェックアウトし、URLCheck Recorder 内で開いて編集し、それを保存したあと、チェックインしてください。

注意　URLCheck Knowledge Script には状況依存ヘルプが用意されていません。URLCheck **スクリプトのヘルプを参照するには、**AppManager **のオンラインヘルプを起動します。ヘルプウィンドウの左側のウィンドウ（目次）で [Knowledge Script リファレンス] をクリックし、さらに [Web-RT Knowledge Script] をクリックします。右側のウィンドウのテーブルをスクロールし、[URLCheck] をクリックすると、スクリプトのヘルプが表示されます。**

リソースオブジェクト

URL Check

デフォルトのスケジュール

デフォルトの設定で、このスクリプトは **1** 時間ごとに実行されます。

パラメータ値

必要に応じて、次のパラメータを設定します。この表には、利用可能なすべてのパラメータが示されています。特定のスクリプトの URLCheck 記録パラメータの設定状況によって利用できないパラメータもあります。

パラメータ	説明
[URL全般のアベイラビリティ(%)のデータを収集]	URL のアベイラビリティ（%）に関するデータを収集するには[Yes]チェックボックスをオンにします。デフォルトでデータを収集します。
[しきい値 - URL 全般の最小アベイラビリティ (%)]	使用できる URL のパーセンテージの最小しきい値を指定します。デフォルトは 100% です。
[URL 全般のアベイラビリティがしきい値を満たさないとイベントを発生]	利用可能な URL の数がしきい値を下回ったときにイベントを発生させるには[Yes] チェックボックスをオンにします。デフォルトでイベントを発生させます。
[URL 全般のアベイラビリティのデータポイントとともに保存される詳細]	[Failure]、[Success]、[All]、または [None] を設定します。 • [Failure] にはエラーイベントの詳細または一致したイベント検索条件が含まれます。 • [Success] には成功の結果のみが含まれます。 • [All] にはすべての結果の詳細が含まれます。 • [None] にはデータ詳細は含まれません。 デフォルトは [None] です。
[URL 全般のアベイラビリティイベントに含まれる詳細]	エラーイベントの詳細のみ収集するには、[Failure] を設定します。すべての結果の詳細を収集するには、[All] を設定します。デフォルトは [Failure] です。
[自動リダイレクトを許可]	URL の自動リダイレクトを許可するには [Yes] チェックボックスをオンにします。デフォルトでリダイレクトを許可します。

[個々の URL アベイラビリティのデータ系列形式]	個々の URL アベイラビリティのデータ系列の形式を選択します。 前バージョンの AppManager ResponseTime for Web のアベイラビリティを示す形式は、0（使用できない）または 1（使用可能）でした。現在は、2 つの形式、0（使用できない）または 100（使用可能）のオプションがあります。 デフォルトの設定は、0-100 です。
[論理ターゲット]	AppManager Analysis Center 2.0 以上によるデータ系列の取得を有効にするために使用する識別子を入力します。 デフォルトは最初の URL のラベルまたはリンクです。
タイムアウト	以下のパラメータを使用してタイムアウトを定義します。
[URL 接続のタイムアウト（秒）]	接続のタイムアウトを秒単位で指定します。デフォルトは 10 です。
[URL ダウンロードのタイムアウト（秒）]	ダウンロードのタイムアウトを秒単位で指定します。デフォルトは 30 です。
[イベント警告レベル]	以下のパラメータを使用してイベント警告レベルを定義します。
[URL のアベイラビリティがしきい値を満たさないとイベントを発生]	URL 使用可能パーセンテージのしきい値を満たさないときのイベントの重大性を通知する、1 から 40 までの範囲のイベント警告レベルを設定します。デフォルトの警告レベルは 15 です。
[URL エラーのイベント警告レベル]	個々の URL のチェックに失敗したときに発生するイベントの重大性を通知する、1 から 40 までの範囲のイベント警告レベルを設定します。デフォルトの警告レベルは 20 です。
[ダウンロードのしきい値を超えたときのイベント警告レベル]	[ダウンロード時間の測定] で設定したしきい値を超えた場合にイベントの重大性を通知する、1 から 40 までの範囲のイベント警告レベルを設定します。デフォルトの警告レベルは 21 です。

[リンク検証がエラーのときのイベント警告レベル]	1 ページ上のリンクに HTTP ステータスコード、WinInet エラー、または WinHTTP エラーがあるときに、イベントの重大性を通知する、1 から 40 までの範囲のイベント警告レベルを設定します。デフォルトは 22 です。
[オブジェクト検証がエラーのときのイベント警告レベル]	1ページ上のオブジェクトにHTTPステータスコード、WinInet エラー、または WinHTTP エラーがあるときに、イベントの重大性を通知する、1 から 40 までの範囲のイベント警告レベルを設定します。デフォルトは 22 です。
[文字列の検索条件に一致したときのイベント警告レベル]	検索文字列が見つかったかまたは見つからなかった場合に、イベントの重大性を通知する、1 から 40 までの範囲のイベント警告レベルを設定します。デフォルトは 25 です。
[リンクの検索条件に一致したときのイベント警告レベル]	検索リンクが見つかったかまたは見つからなかった場合に、イベントの重大性を通知する、1 から 40 までの範囲のイベント警告レベルを設定します。デフォルトは 25 です。
[オブジェクトの検索条件に一致したときのイベント警告レベル]	検索オブジェクトが見つかったかまたは見つからなかった場合に、イベントの重大性を通知する、1 から 40 までの範囲のイベント警告レベルを設定します。デフォルトは 25 です。
[すべてのイベントを無効にする]	以下のパラメータを使用して、指定した URL プロパティに対してすべてのイベントを無効にします。
[個々の URL のエラー]	この URL プロパティに対してすべてのイベントを無効にするには [Yes] チェックボックスをオンにします。デフォルトでイベントを有効にします。
[ダウンロード時間を測定]	この URL プロパティに対してすべてのイベントを無効にするには [Yes] チェックボックスをオンにします。デフォルトでイベントを有効にします。

[すべてのリンクを検証]	すべての URL に対してそれぞれの [リンク検証がエラーのときにイベントを発生] オプションを無効にします。デフォルトで各イベントを有効にします。
[すべてのオブジェクトを検証]	すべての URL に対してそれぞれの [オブジェクトがエラーのときにイベントを発生] オプションを無効にします。デフォルトで各イベントを有効にします。
[文字列を検索]	この URL プロパティに対してすべてのイベントを無効にするには [Yes] チェックボックスをオンにします。デフォルトでイベントを有効にします。
[リンクを検索]	この URL プロパティに対してすべてのイベントを無効にするには [Yes] チェックボックスをオンにします。デフォルトでイベントを有効にします。
[オブジェクトを検索]	この URL プロパティに対してすべてのイベントを無効にするには [Yes] チェックボックスをオンにします。デフォルトでイベントを有効にします。
[ダウンロード時間のデータを収集]	情報のダウンロードにかかった時間に関するデータを収集するには[Yes]チェックボックスをオンにします。デフォルトでデータを収集します。

関連項目

ステータスコードとステータスの詳細
リダイレクト
タイムアウト
Web-RT Knowledge Script **リファレンス**

ステータスコードとステータスの詳細

確認が行われた各 URL に対して、Web サーバーからステータスコードとステータスの詳細が返されます。リダイレクト URL の場合も同様です。

1xx、2xx、および 3xx の HTTP ステータスコードを返された URL は、正常であるとみなされています。4xx または 5xx の HTTP ステータスコード、WinHTTP および WinInet エラーコード（12xxxx）、または Windows Sockets

エラーコード（11xxxx）が返された URL は、異常があるとみなされています。これらのコードについての詳細は、URLCheck Recorder のヘルプを参照してください。

HTTP ステータスコードの詳細については、以下を参照してください。

http://msdn.microsoft.com/library/default.asp?url=/library/en-us/wininet/wininet/http_status_codes.asp

WinHTTP エラーコードの詳細については、以下を参照してください。

http://msdn.microsoft.com/library/default.asp?url=/library/en-us/winhttp/http/error_messages.asp

WinInet エラーコードの詳細については、以下を参照してください。

http://msdn.microsoft.com/library/default.asp?url=/library/en-us/wininet/wininet/http_status_codes.asp

Windows Sockets エラーコードの詳細については、以下を参照してください。

http://msdn.microsoft.com/library/default.asp?url=/library/en-us/winsock/winsock/windows_sockets_error_codes_2.asp

関連項目

ステータスコードとステータスの詳細
リダイレクト
タイムアウト
URLCheck
Web-RT Knowledge Script **リファレンス**

リダイレクト

デフォルトでは、リダイレクトされる URL のステータスをチェックするとき、元の URL と次にリダイレクトされる URL の確認が行われて、両方の URL に対してステータスコードが返されます。[自動リダイレクトを許可] パラメータを無効にするとこのオプションが無効になります。

注意　1 回のリダイレクトのみサポートされます。

関連項目

ステータスコードとステータスの詳細
タイムアウト
URLCheck
Web-RT Knowledge Script **リファレンス**

タイムアウト

接続およびダウンロードがタイムアウトしている場合、URL 接続のタイムアウトと URL ダウンロードのタイムアウトを修正できます。ほとんどの場合、タイムアウト状態を表すWinInetエラーコードの「12002」が返されます。

関連項目

ステータスコードとステータスの詳細
リダイレクト
URLCheck
Web-RT Knowledge Script **リファレンス**

WebTransaction

Web Recorder 拡張版を使用すると、Web サイトにおける標準的なユーザートランザクションを記録し、AppManager Knowledge Script として情報を保存することができます。新しい Knowledge Script をチェックインすると、デフォルトにより Web-RT 分類に追加されます。

それ以降、この Knowledge Script は、Web-RT 管理オブジェクトがインストールされているコンピュータ上で実行できます。生成された Knowledge Script により、トランザクション全体およびトランザクションの各ステップを完了するために必要なアベイラビリティとレスポンスタイムを監視できます。

このバージョンの Web Recorder には、生成される Knowledge Script に影響するような多くの変更が加えられています。これらの変更が原因で、WebTransaction スクリプトの実行中に新しいエラーメッセージが表示される場合があります。詳細については、Web Recorder ユーザーガイドのオンラインヘルプのトラブルシューティングの章を参照してください。

各 Web Transaction Knowledge Script にはトランザクションの実行と記録中に入力したすべての情報が含まれます。記録されたブラウジングセッション中に暗号化された情報はすべて、結果となる Knowledge Script でも暗号化されます。

注意　Web Recorder で WebTransaction Knowledge Script を生成したら、名前を変更して各トランザクションの内容を保存します。ただし、名前を変更すると、変更後のスクリプトで状況依存ヘルプが機能しなくなります。WebTransaction Knowledge Script **のヘルプを参照するには、**AppManager **のオンラインヘルプを起動します。ヘルプウィンドウの左側のウィンドウ（目次）で [Knowledge Script リファレンス] をクリックし、さらに [Web-RT Knowledge Script] をクリックします。**

リソースオブジェクト

Web トランザクション

デフォルトのスケジュール

デフォルトの設定で、このスクリプトは **15** 分ごとに実行されます。

パラメータ値

必要に応じて、次のパラメータを設定します。

パラメータ	説明
一般	これらのパラメータを使用して Knowledge Script が管理オブジェクト上で再生され、データが Analysis Center 2.0 にログされる方法を決めるパラメータを設定します。
[サイレントモードで実行]	[Yes] を選択すると、コンピュータの画面に何も表示することなく（サイレントモードで実行）、Knowledge Script を再生します。 注意 Knowledge Script に MouseMove オプションが有効になっているステップが含まれる場合は、サイレントモードは使用できません。 デフォルトでサイレントモードは有効です。
[実行速度]	[Slow]、[Medium]、[Fast] に設定して、Knowledge Script が管理クライアント上で再生される速度を決定します。このパラメータは Web Recorder の Playback 速度機能によってコントロールされます。 デフォルトでは、実行速度は Medium に設定されます。 値については、Web Recorder のオンラインヘルプを参照してください。
[論理ターゲット]	AppManager Analysis Center 2.0以上によるデータ系列の取得を有効にするために使用する識別子を入力します。 デフォルトで、このフィールドは最初のナビゲートステップからの情報で設定されます。
[ターゲットコンピュータ]	AppManager Analysis Center 2.0以上によるデータ系列の取得を有効にするために使用する識別子を入力します。 ターゲット Web サーバーの名前を選択します。監視される Web サーバーのリストから選択します。 このフィールドはブランクにしても構いません（デフォルト設定）。

パラメータ	説明
[セッションのトランスクリプトをログする]	[Yes] を選択すると、Playback のセッショントランスクリプトを含むログファイルを生成します。有効にすると、..¥NetIQ¥AppManager¥temp¥にログファイルを保存します。 netiq_debug¥[computername] ディレクトリ ログファイル名は `Web-RT[JobNumber]Transcript.log` です。 デフォルトでは、ログは生成されません。 注意 このオプションは問題のデバッグを行う場合にのみ有効にしてください。
[全体のアベイラビリティ]	このパラメータを使用してアベイラビリティのデータを収集するかどうかを決定します。
[データを収集]	[Yes] を選択すると、この Knowledge Script によってテストされた Web サイトのアベイラビリティ全体のデータを収集します。デフォルトでデータを収集します。
[全体のレスポンスタイム]	このパラメータを使用して全体のレスポンスタイムのデータを収集し、イベントを発生させるかどうかを決定します。
[データを収集]	[Yes] を選択すると、この Knowledge Script によってテストされた Web サイトのアベイラビリティ全体のデータを収集します。デフォルトでデータを収集します。
[しきい値 - 全体の最大レスポンスタイム]	イベントを発生するまでに全体としてトランザクションのすべてのステップで計測された最大レスポンスタイムを設定します。デフォルトの設定は 120 です。
[しきい値を超えたときにイベントを発生]	全体のレスポンスタイムのしきい値を超えたときにイベントを発生させるには[Yes]チェックボックスをオンにします。デフォルトでイベントを発生させません。
[しきい値を超えたときのイベント警告レベル]	イベントの重大性を通知する、1 から 40 までの範囲のイベント警告レベルを設定します。デフォルトの警告レベルは 15 です。
[全体のプロセスタイム]	このパラメータを使用して全体のプロセスタイムのデータを収集し、イベントを発生させるかどうかを決定します。
[データを収集]	[Yes] を選択すると、この Knowledge Script の実行で消費した全体のプロセスタイムのデータを収集します。デフォルトでデータを収集します。

パラメータ	説明
[しきい値 - 全体の最大プロセスタイム]	イベントを発生させるまでに記録されたトランザクションの実行に消費される最大時間を設定します。デフォルトの設定は 180 です。
[しきい値を超えたときにイベントを発生]	全体のプロセスタイムのしきい値を超えたときにイベントを発生させるには[Yes]チェックボックスをオンにします。デフォルトでイベントを発生させません。
[しきい値を超えたときのイベント警告レベル]	プロセス時間全体のしきい値を超えたときにイベントの重大性を通知する、1 から 40 までの範囲のイベント警告レベルを設定します。デフォルトの警告レベルは 20 です。
[タイマ]	このパラメータを使用してそれぞれのトランザクションステップのタイムアウトを決定し、バウンダリを設定します。 注意 これらのタイマの 1 つから Knowledge Script に追加される時間は、レスポンスタイムの測定 (Total REsponse Time) には含まれません。結果として示される [Total Processing Time] にのみ含まれます。
[キュータイムアウト]	1 から 60 分までのタイムアウト値を設定して、終了されるまでにジョブがリソースを待機することができる時間を決定します。 複数で同時の WebTransaction Knowledge Script ジョブは、すべて Internet Explorer に依存するため実行するトークンを待機する必要があります。実行しようとしているジョブのトークンが使用できない場合は、トランザクションはキューに追加され、キュータイマが起動します。ジョブのキュータイムアウトが切れると、トランザクションは実行されず、[キュータイムアウト] イベントが発生します。トランザクションはキューの最後に移動します。 デフォルトは 5 です。

パラメータ	説明
[ジョブのタイムアウト]	1 から 60 分までのタイムアウト値を設定して、終了されるまでにジョブを処理することができる最大時間を決定します。 WebTransaction Knowledge Script ジョブが実行されると，ジョブタイマが起動します。トランザクションがジョブタイムアウトよりも長くかかると、そのトランザクションは停止し、[ジョブのタイムアウト] イベントが発生します。これにより、Internet Explorer のリソースを使用する時間が長すぎるジョブが許可されません。 デフォルトは 5 です。 注意 再生後の結果に示される総プロセス時間は、適切なジョブタイムアウト値を決定するガイドラインとなります。ジョブタイムアウト値は総プロセス最大時間よりも少し長くする必要があります。
[ページ変更後ドキュメント完了とみなす秒数]	1 から 30 秒の値を設定して、Web ページのトランザクションイベント後にページのダウンロードが完了するために Web Recorder が待機する時間を決定します。 このタイマで、ページのダウンロードが完了したという Internet Explorer から [ドキュメント完了] の通知を受けなくても、WebRecorder がトランザクションステップを完了できます。 デフォルトの設定は 20 です。
[ダウンロード完了後ドキュメント完了とみなす秒数]	5 から 300 秒の値を設定して、ページのダウンロードが完了したとみなす Internet Explorer からの「ダウンロード完了」の通知を受けたあとに Web Recorder が待機する時間を決定します。 このタイマで、新しいページのダウンロードが完了したことを示す Internet Explorer からの適切な通知を受けなくても、WebRecorder がトランザクションステップを完了できます。 デフォルトの設定は 10 です。

パラメータ	説明
[ドキュメント完了後の遅延]	0 から 10 秒の値を設定して、Web Recorder が新しいステップに移るまでに停止する時間を決定します。 Internet Explorer は何度か「ドキュメント完了」通知を送る場合があります。そのため、すべてのオブジェクトが実際に完了するまでに最初の「ドキュメント完了」通知でステップを完了する可能性があります。このオプションは、ステップが完了されたと決定した後、次のステップに移る前に、すべてのオブジェクトが取得される機会を与えるために、Web Recorder が最大 10 秒まで待機することを示します。 デフォルトの設定は 1 です。
[グローバルステップオプション]	このパラメータを使用してすべての個々のトランザクションステップに適用できるオプションを設定します。
[しきい値を超えたときのイベント警告レベル]	個々のステップのレスポンスタイムがしきい値を超えたときにイベントの重大性を通知する、1 から 40 までの範囲のイベント警告レベルを設定します。デフォルトの警告レベルは 16 です。
[ステップエラーのイベント警告レベル]	個々のステップが失敗したときにイベントの重大性を通知する、1 から 40 までの範囲のイベント警告レベルを設定します。デフォルトの警告レベルは 10 です。
ステップ [n] [x] [d]	個々のステップフォルダでこのパラメータを使用してデータ収集オプションの設定、しきい値の定義、およびイベントを有効にします。 各ステップはステップインデックス番号（ 変数 `n`）、ステップタイプ（ 変数 `x`）、およびステップ説明（ 変数 `d`）で識別されます。Web Recorder の「User Guide」にこれらの値の詳細が含まれます。
[アベイラビリティのデータを収集]	このステップによってアクセスされた Web ページのアベイラビリティ（%）に関するデータを収集するには [Yes] チェックボックスをオンにします。デフォルトでは、データは収集されませんが、この値は Web Recorder オプション（Knowledge Script タブ）に設定した内容によって決まります。

パラメータ	説明
[レスポンスタイムのデータを収集]	このステップによってアクセスされた Web ページのロードにかかったレスポンスタイムのデータを収集するには [Yes] チェックボックスをオンにします。デフォルトでは、データは収集されませんが、この値は Web Recorder オプション（Knowledge Script タブ）に設定した内容によって決まります。
[しきい値 - 最大レスポンスタイム]	イベントを発生させるまでにこのトランザクションステップの完了にかかる最大時間を設定します。デフォルトの設定は30です。この値はWeb Recorderオプション（Knowledge Script タブ）に設定した内容によって決まります。
[しきい値を超えたときにイベントを発生]	レスポンスタイムのしきい値を超えたときにイベントを発生させるには[Yes]チェックボックスをオンにします。デフォルトでイベントを有効にします。 グローバルステップオプションフォルダに設定したイベント警告レベルがこのイベントに適用されます。

関連項目

Web-RT Knowledge Script リファレンス

第 8 章

AppManager ResponseTime for Web のトラブルシューティング

この章では、AppManager ResponseTime for Web をトラブルシューティングする方法を説明します。

Web Recorder や WebTransaction Knowledge Script の再生に関する問題については、Web Recorder『ユーザーガイド』の「トラブルシューティング」の章を参照してください。

特定の問題については以下のセクションを参照してください。

- 「URLCheck Knowledge Script と WebTransaction Knowledge Script の結果の違い」151 ページ
- 「インストールに関する問題」154 ページ
- 「URL Check Recorder に関する問題」155 ページ
- 「Discovery に関する問題」159 ページ
- 「Knowledge Script の実行に関する問題」164 ページ

URLCheck Knowledge Script と WebTransaction Knowledge Script の結果の違い

Web-RT Knowledge Script を使用して Web ページを監視すると、データサイズやレスポンスタイムの情報を取得することができます。WebTransaction と URLCheck Knowledge Script で同じ Web サイトを監視した結果を比較すると、かなり違いが生じていることに気付く場合があります。実際の Web サイトをテストしているときに何らかの予期しない結果が返った場合は、何が生じているかを把握するためにソースページをよく調べるように要求プロンプトが返されます。その理由としては、World Wide Web は無秩序の

状態であり、コーディングの基準が非常にあいまい、あるいはまったく基準がないともいえるからです。したがって、AppManager ResponseTime for Webから出された結果に疑問を持つ前にWebページのコンテンツをまず知ることが大切です。詳細は以下のセクションで説明します。World Wide Webの不規則性およびWeb Recorderとの関連などに関する詳細は、Web Recorderの『ユーザーガイド』を参照してください。

ブラウザのオーバーヘッド

まず始めに、Web Recorder は Microsoft Internet Explorer 内で実行されることを考慮してください。つまり、Internet Explorer に依存しない URL Check Recorderと異なり、Web Recorderでは動的なコンテンツを処理するのでオーバーヘッドが発生します。ダウンロードサイズが同じときでも、両方のテクノロジによって実行される場合は通常、URLCheck Knowledge Script によってレポートされるレスポンスタイムは短くなります。

静的コンテンツ

静的な Web サイトコンテンツが参照するのはすべて Web ページ上にあり、ほとんど変更されないリンクやオブジェクトです。たとえば、変更が定期的に行われることのないHTMLページまたはアニメーションや定期的に入れ替わる広告などがなく外観が常に同じである HTML ページは、たいていの場合は静的であると思われます。この場合、URLCheck Knowledge ScriptとWebTransaction Knowledge Scriptの結果はサイズも時間も近い値になります。

動的コンテンツ

動的 Web サイトのコンテンツには、クライアントコンピュータと Web サーバー間でデータの流れが処理される JavaScript、ActiveX、またはアプレットが含まれます。Macromedia Flash オブジェクトがよい例です。自動車製造会社の Web サイトでは、Web ページのダウンロードが完了すると、ブラウザを閉じるまで、またはユーザーが他のページまで移動するまで、データがサーバーとクライアント間で永続的に流れ続けるものがあります。このような場合、URLCheck Knowledge Script はデータサイズを 10KB と計測し、元の ASP またはダウンロードされた HTML ドキュメントのサイズに一致します。一方、WebTransaction Knowledge Script は同じページを 400KB と計測するかもしれません。HTTP プロトコルアナライザは最初 300KB と

レポートし、継続的には 1 分ごとにあと 500KB とレポートする場合があります。

DHTML

DHTML、ダイナミック HTML は、動的というよりは静的といえますが、たとえばリンク上にマウスを移動しただけで、オブジェクトがダウンロードされることがあります。簡単な例としては、DHTML 属性の付いたアンカーがあります。アンカーは、ページと共に前もって読み込まれる画像を示します。また、アンカーは OnMouseOver など特定のマウスイベントと画像を関連されることもできます。このスクリプトコマンドでは、マウスポインタがそのアンカー上に移動すると、前もってロードされなかった他の画像が動的にダウンロードされます。このような場合、URLCheck Knowledge Script はこれらの画像をすべてリストし、ダウンロードします。そのため、ダウンロードサイズでは、WebTransaction Knowledge Script のレポートより大きいサイズがレポートされます。

サイズの差は、WebTransaction Knowledge Script はデフォルトのアンカー画像、および最初の HTML ページと共に Preload のタグが付けられたすべての画像をダウンロードすることに起因しています。Web Recorder は画像および OnMouseOver アクションを無視します。Web Recorder では、Web サーバー上のプロセスに関わるアクション、およびマウスクリックのように Web ページのコンテンツを変えるアクションのみを記録します。

インストールに関する問題

ここでは、次の問題について説明します。

- 「問題 1：MO コンポーネントにプレインストールチェックを実行できない」154 ページ
- 「問題 2：メンテナンスインストーラを実行できない」154 ページ
- 「問題 3：アドインを起動できない」155 ページ

問題 1：MO コンポーネントにプレインストールチェックを実行できない

インストール時に次のポップアップが表示されました：`WARNING: The pre-install check failed for the MO component. This component will not be installed.`

解決方法：
AppManager ResponseTime for Web をインストールするための要件が満たされていません。

この警告がリポジトリコンピュータまたはオペレータコンソールコンピュータで発生した場合は、いくつかのファイルはインストールされますが、Web-RT 管理オブジェクトはインストールされません。このコンピュータで Web レスポンスタイムを監視しない場合は問題ありません。

Web Recorder などのアドインのほかに、リポジトリ上では Web-RT Knowledge Script がチェックインされ、オペレータコンソール上ではヘルプファイルがインストールされることがあります。Web-RT 管理オブジェクトをインストールするオプションもありますが、まず最初にエラーログを調べてどの要件が満たしていないかを確認する必要があります。

問題 2：メンテナンスインストーラを実行できない

AppManager AMAdmin_MaintenanceInstall Knowledge Script によるインストールが部分的に完了しました。

次のようなイベント詳細が表示されます。: `WARNING: The pre-install check failed for the MO component. This component will not be installed.`

解決方法:
この警告は、AppManager UI オプション（オペレータコンソール）がインストールされているコンピュータにインストールするときに発生することがあります。これは、ヘルプファイル（および Web Recorder などのアドイン）はインストールされたものの、コンピュータが要件を満たしていなかったために Web-RT 管理オブジェクトがインストールされなかったことを示します。

Web-RT 管理オブジェクトをインストールするためのシステム要件を調べるには、第 2 章「AppManager ResponseTime for Web のインストール」を参照してください。

問題 3：アドインを起動できない

オペレータコンソールの [アドイン] メニューから Web Recorder または URL Check Recorder を選択して起動しようとしましたが、起動できません。

解決方法:
アドインをインストールするには AppManager エージェントがインストールされている必要があるため、オペレータコンソールコンピュータにアドインをインストールできなかったことが原因と思われます。AppManager ResponseTime for Web で新規に加わったこの要件は、すべての管理対象クライアント上にアドインを自動的にインスールするインストールパッケージにおける変更の一部です。その他のインストールに問題がなければ、アドインのインストール問題は報告されないことがあります。

URL Check Recorder に関する問題

ここでは、次の問題について説明します。

- 「問題 1：接続がタイムアウトする」156 ページ
- 「問題 2：[URLs] タブにリンクをドラッグアンドドロップできない」157 ページ

- 「問題 3：Explore オプションが Web サイトを見失う」157 ページ
- 「問題 4：インターネットリソースを使用できない」157 ページ
- 「問題 5：[Measure Download Time] のデータ系列が表示されない」158 ページ

問題 1：接続がタイムアウトする

イベントおよびデータポイントサマリテーブルのエラーコードが接続タイムアウトを示しています。

イベントまたはデータポイントのサマリテーブルで以下のいずれかの HTML ステータスコードが表示された場合、以下の方法で対処します。

ステータスコード	説明	解決方法
11001	**接続がタイムアウトしました：ホストが見つかりません。**	**接続のタイムアウト時間を長く設定します。** **生成された Knowledge Script で、Timeout > URL Connection Timeout をクリックします。**
12002	**要求がタイムアウトになりました**	**次の手順の 1 つを実行してタイムアウト値を増やします。** • **URL Check Recorder で [Tools]、[Recorder Options] をクリックします。[Verification Timeout] の値を変更するか、または** • **生成された Knowledge Script で、[プロパティ]タブをクリックします。[Timeouts] フォルダで [URL Download Timeout] パラメータを見つけます。**
12029	**サーバーへの接続が確立できませんでした。**	**URL Check Recorder の [General] タブで、プロキシサーバーとポートが正しく設定されていることを確認します。**

これらのコードについては、「Status Codes」84 ページを参照してください。

問題 2：[URLs] タブにリンクをドラッグアンドドロップできない

Web ページから [**URLs**] タブにドラッグしたリンクの [**Description**] フィールドに正しい説明が指定されていない場合、Internet Explorer に問題がある可能性があります。たとえば、Internet Explorer ではスラッシュ（/）が正しく処理されません。

解決方法 :

[URLs]タブの代わりにデスクトップにリンクをドラッグアンドドロップしてみてください。デスクトップでも URL Check Recorder の場合と同じようにそのリンクのページが表示される場合、Internet Explorer のコピー操作が正しく処理されていません。このような場合には、リンクまたは説明を手動で入力、修正してください。

問題 3：Explore オプションが Web サイトを見失う

Explore メニュー項目を起動するとブラウザで自分の場所を見失います。

解決方法 :

URL Check Recorder での作業中に、Web サイトを参照してから、URL Check Recorder の GUI で URL のプロパティを調整する間、ブラウザのウィンドウを最小化する場合があります。このときに [URL] メニューの [**Explore**] をクリックすると、使用していたブラウザのウィンドウにローカルコンピュータのブラウザで設定されているデフォルトの Web サイトが表示されます。

[URL] メニューの [**Explore**] をクリックするたびに新しいインスタンスで Internet Explorer が表示されるように設定するには、Internet Explorer を開いて以下の設定を行います。[ツール]、[インターネットオプション] をクリックします。[詳細設定] タブで [ショートカットを起動するためにウィンドウを再使用する] オプションをクリアします。

問題 4：インターネットリソースを使用できない

「`Internet resources unavailable.`」というイベントメッセージを受け取りました。

完全なメッセージは以下のとおりです。

```
Unable to process the job at this time due to contention for
Internet resources. Increase the time interval between job
iterations for this job.
```

理由：

1 つの Web-RT 管理オブジェクトに対して、まったく同じかまたはほぼ同じ間隔で、複数の大規模な URL ジョブや非常に多くの URL ジョブを実行しているときにこのメッセージが表示されることがあります。これらの各ジョブはどれも WinHTTP（または WinINet）を呼び出そうとするため、特定のジョブがこれらの呼び出しを行うために必要なリソースを取得できなくなることがあります。このような場合、そのジョブによって「`Internet resource unavailable`」というイベントメッセージが返されます。

解決方法 :

このメッセージが表示された場合、「Internet Resource Unavailable」イベントメッセージが表示されたジョブの繰り返しの間隔を長く設定します。

問題 5：[Measure Download Time] のデータ系列が表示されない

URLCheck Knowledge Script を実行すると、Measure Download Time の個々のデータ系列が、AppManager オペレータコンソールの [グラフデータ] タブに表示されません。また、URL Check Recorder で Knowledge Script を作成したときにそのオプションを選択したにもかかわらず、各実行間隔で指定した URL のデータポイントが返されません。

解決方法 :

指定したURLが実行間隔時にエラーステータスコードを受け取るが表示できない場合、Measure Download Time のデータは収集されていません。そのため、Measure Download Time のその実行間隔の個々のデータ系列は作成されません。

指定した URL の Measure Download Time の個々のデータ系列が表示されない場合は、URL がそれぞれの実行間隔でエラーステータスコードを受けたかどうかを調べてください。エラーには、Measure Download Time の個々のデータ系列が表示されない理由が示されます。

Measure Download Time の個々のデータ系列はあるが、特定の実行間隔ではデータポイントを受け取っていない場合は、URL がそれぞれの実行間隔でエラーステータスコードを受けたかどうかを調べてください。エラーには、Measure Download Time の個々のデータ系列でデータポイントが作成されなかった理由が含まれます。

Discovery に関する問題

ここでは、次の問題について説明します。

- 「問題 1：Client Resource Monitor サービスはローカルシステムとして実行する必要がある」159 ページ
- 「問題 2：Web-RT がインストールされていないため、ActiveX コンポーネントがオブジェクトを作成できない」160 ページ
- 「問題 3：Web-RT がインストールされていない」160 ページ
- 「問題 4：クラスが登録されていない」161 ページ
- 「問題 5：パラメータが正しくない」161 ページ
- 「問題 6：Web-RT 管理対象オブジェクトが依存オブジェクトをロードできない」162 ページ
- 「問題 7：Web-RT を検証できない」162 ページ
- 「問題 8：アクセスが拒否される」162 ページ
- 「問題 9：クラスメンバが無効」163 ページ
- 「問題 10：バージョンが古い」163 ページ

問題 1：Client Resource Monitor サービスはローカルシステムとして実行する必要がある

Discovery の実行時に以下のエラーが返されました。

```
The "NetIQ AppManager Client Resource Monitor" service
(netiqmc.exe) user account is currently set as "xxxx". It
must run as "Local System" account in order to use this
ResponseTime module.
```

解決方法

AppManager の Windows エージェント (`netiqmc`) が Local System として実行するように設定されていないと、ResponseTime ジョブは実行できません。この場合、エージェントは他のアカウントで実行されています。

ほとんどの AppManager ResponseTime アプリケーションが AppManager エージェントから「out of process」として実行されているためです。管理対象オブジェクトのプロセスは、それぞれの Knowledge Script 内で指定されたユーザー ID として別々に実行されます。エージェントは、Knowledge Script パラメータで指定されたどんなユーザーIDとしても新しいプロセスを開始する権限を持たなければなりません。したがって、エージェントを実行するにはローカルシステム権限を持たなければなりません。

エージェントが Local System として実行されるように更新する必要があります。「ローカルシステムとしての Windows エージェントの実行」14 ページを参照してください。

問題 2：Web-RT がインストールされていないため、ActiveX コンポーネントがオブジェクトを作成できない

Discovery を実行したときに以下のエラーが返されました。

```
The Web-RT managed object returned Web-RT is not supported.
```

あるいは、

```
The Web-RT managed object is not installed or not registered.
ActiveX component can't create object.
```

解決方法 :

Web-RT 管理オブジェクトがコンピュータにインストールされていません。要件を満たしているかどうかを確認して、再度インストールしてください。

問題 3：Web-RT がインストールされていない

Discovery の実行時に以下のエラーが返されました。

```
Web-RT is not installed.
```

解決方法:
AppManager ResponseTime for Web がインストールされていません。要件を満たしているかどうかを確認して、再度インストールしてください。

問題 4：クラスが登録されていない

Discovery の実行時に以下のエラーが返されました。

```
Web-RT cannot work properly. Class not registered.
```

解決方法:
いくつかの AppManager ResponseTime for Web 共有コンポーネントはインストールされていますが、モジュール自体がインストールされていません。または、一部の下位バージョンのコンポーネントがインストールされたままになっています。AppManager ResponseTime for Web の新バージョンをインストールしたときに管理オブジェクトがアップグレードされていなかったことが原因と思われます。または、Discovery Knowledge Script 自体をアップグレードする必要があります。

要件を満たしているかどうかを確認して、新しいバージョンの AppManager ResponseTime for Web を再度インストールしてください。「セットアッププログラムの実行」16 ページの指示に従って、新しい Web-RT 管理オブジェクトと新しい Knowledge Script をインストールしてください。

問題 5：パラメータが正しくない

Discovery の実行時に以下のエラーが返されました。

```
Web-RT cannot work properly. The parameter is incorrect.
```

解決方法:
コンピュータ上で特定のユーザーとして `NetIQmc` サービスの実行中に、別のユーザーがコンピュータにログオンしています。`NetIQmc` を Local System として実行するように変更します。これは Web-RT 管理オブジェクトの要件です。「ローカルシステムとしての Windows エージェントの実行」14 ページを参照してください。

問題 6：Web-RT 管理対象オブジェクトが依存オブジェクトをロードできない

Discovery の実行時に以下のエラーが返されました。

```
The Web-RT managed object returned cannot load dependent
object: "qweba4.dll". Web-RT is not supported.
```

解決方法：

従来の WebServices エージェントはコンピュータにインストールされていますが、Web-RT 管理オブジェクトはインストールされていません。AppManager ResponseTime for Web を使用するには、最新バージョンの Web-RT 管理オブジェクトをコンピュータにインストールしてください。第 2 章「AppManager ResponseTime for Web のインストール」を参照してください。

問題 7：Web-RT を検証できない

Discovery の実行時に以下のエラーが返されました。

```
Unable to validate Web-RT. Please be sure there is a user
logged on to the computer. A Terminal Services session is not
a valid, logged-on user.
```

解決方法：

WebTransaction Knowledge Script を実行するには、ユーザーがコンピュータにログオンする必要があります。ターミナルサービスのログオンは有効ではありません。詳細については、Web Recorder『ユーザーガイド』の「トラブルシューティング」の章を参照してください。

問題 8：アクセスが拒否される

Discovery の実行時に以下のエラーが返されました。

```
Web-RT cannot work properly. Access is denied.
```

解決方法：

コンピュータ上で特定のユーザーとして `NetIQmc` サービスの実行中に、別のユーザーがコンピュータにログオンしています。

NetIQMC を Local System として実行するように変更します。これは Web-RT 管理オブジェクトの要件です。「ローカルシステムとしての Windows エージェントの実行」14 ページを参照してください。

問題 9：クラスメンバが無効

Discovery の実行時に以下のエラーが返されました。

```
The Web-RT managed object returned the "Class =
WebEngine.ActiveWebEngine" member is invalid or the
ResponseTime module is not installed properly.
```

あるいは、

```
Cannot load dependent object: 'qweba4.dll'. WEB-RT is not
supported.
```

解決方法：

AppManager ResponseTime for Web が正しくインストールされ、ユーザーがコンピュータにログオンしていることを確認します。AppManager ResponseTime for Web を実行するには、ユーザーがコンピュータ上にログオンしている必要があります。詳細については、Web Recorder『ユーザーガイド』の「トラブルシューティング」の章を参照してください。

インストールを確認するには、\netiq\temp\ ディレクトリの Web-RT_Install.log を表示します。

問題 10：バージョンが古い

Discovery の実行時に以下のエラーが返されました。

```
Back-level version. This is a back-level version of NetIQ
AppManager ResponseTime for Web. Please install the latest
version of the software.
```

解決方法：

旧バージョンの Web-RT 管理オブジェクトがインストールされているコンピュータ上で最新バージョンの AppManager ResponseTime for Web で作成された Discovery Knowledge Script の実行が試みられました。

そのコンピュータ上で最新バージョンの AppManager のインストールプログラムを実行することにより管理オブジェクトをアップグレードしてください。その後、再度 Discovery Knowledge Script を実行します。

Knowledge Script の実行に関する問題

WebTransaction Knowledge Script を実行するとき、または Web Recorder でそれを再生するときに発生する問題については、Web Recorder『ユーザーガイド』の「トラブルシューティング」の章を参照してください。

ここでは、次の問題について説明します。

- 「問題 1：認証パラメータが無効」165 ページ
- 「問題 2：Client Resource Monitor サービスのユーザーアカウント」166 ページ
- 「問題 3：ドメインコントローラを見つけられない」166 ページ
- 「問題 4：ローカルグループメンバを検証できない」167 ページ
- 「問題 5：ドメインユーザーを認証できない」167 ページ
- 「問題 6：ローカルグループにメンバを追加できない」168 ページ
- 「問題 7：管理対象オブジェクトがトランザクションを実行できない」168 ページ
- 「問題 8：管理対象オブジェクトがインストールされていないか、登録されていない」169 ページ
- 「問題 9:ジョブのタイムアウト -- リソースを使用できない」169 ページ
- 「問題 10：管理対象オブジェクトがアップグレードされていない」170 ページ
- 「問題 11：URLCheck Knowledge Script のバージョンが古い」170 ページ
- 「問題 12:スクリプトのバージョンがサポートされていない」171 ページ
- 「問題 13：バージョンが古い」171 ページ

問題 1：認証パラメータが無効

Web-RT_ReceiveInternetMail Knowledge Scriptを実行しようとすると、以下のメッセージが返されました。

```
Invalid or misspelled Authentication parameter.
```

解決方法 :

この問題は、SendInternetMail Knowledge Script と SendAndReceiveInternetMail Knowledge Script にも適用されます。

Response Time管理オブジェクトはKnowledge Scriptパラメータ [**Run as user ID/** 実行ユーザーのドメイン] に指定された値を検査し、そのユーザーとして Web-RT 管理オブジェクトプロセスを開始します。クライアントが、[実行ユーザーのドメイン] パラメータにリストされるドメインのドメインコントローラにアクセスできないとプロセスを起動できないため、トランザクションは実行できません。

エラーメッセージの詳細については、以下の表を参照してください。

NT4 のエラーメッセージ	2000/XP/.NET のエラーメッセージ	原因
Unable to validate Domain User. The username is not a valid user on the domain.	Unable to validate domain user. This is often caused by an invalid username. It may also be caused by trust relationship failure between the primary domain and the trusted domain.	[Run as User] **または**[Logon User]**が無効です。**
Server execution failed	The server process could not be started because the configured identity is incorrect. Check the username and password.	**サーバーを実行できません。**

NT4 のエラーメッセージ	2000/XP/.NET のエラーメッセージ	原因
The xxx ResponseTime Managed Object's RunTransaction method returned –2147024809 Could not find the domain controller for the domain.	The xxx ResponseTime Managed Object's RunTransaction method returned –2147024809 Could not find the domain controller for the domain.	[実行ユーザーのドメイン] または [Logon domain] が無効です。
The specified local group does not exist.	The specified local group does not exist.	[管理クライアントの管理者グループ] が無効です。

問題 2：Client Resource Monitor サービスのユーザーアカウント

Web-RT 管理オブジェクトの `RunTransaction` メソッドが次のメッセージを返しました

```
The 'NetIQ AppManager Client Resource Monitor' service
(netiqmc.exe) user account is currently set as 'xyz'. It must
run as 'Local System' account in order to use this
ResponseTime module.
```

解決方法 :

AppManager Client Resource Monitor サービス(`netiqmc.exe`)を Local System として設定する必要があります。この設定は、ほとんどの AppManager ResponseTime アプリケーションで必要です。「ローカルシステムとしての Windows エージェントの実行」14 ページを参照してください。`netiqmc.exe` のログオン設定を変更したら、ジョブを再度実行してみてください。

問題 3：ドメインコントローラを見つけられない

Web-RT 管理オブジェクトの `RunTransaction` メソッドが次のメッセージを返しました。

```
Could not find the domain controller for the domain.
```

解決方法:
この問題で考えられる原因の 1 つは、「実行ユーザーのドメイン」パラメータに入力した値のスペルが間違っているか、存在しないことです。

Web-RT 管理オブジェクトはパラメータ [**Run as user ID**/ 実行ユーザーのドメイン] を検査し、そのユーザーとして Web-RT 管理オブジェクトプロセスを開始します。クライアントが、[実行ユーザーのドメイン] パラメータにリストされるドメインのドメインコントローラにアクセスできない場合、プロセスは起動できないため、トランザクションは失敗します。

[実行ユーザーのドメイン] に入力した値が有効であり、タイプミスがないことを確認します。ドメインコントローラがアクティブで、クライアントとドメインコントローラとの間にネットワークの問題がないことを確認します。問題が続く場合は、ドメイン管理者にお問い合わせください。

問題 4：ローカルグループメンバを検証できない

以下のエラーメッセージが表示されました

```
Unable to validate the local group member. ploblems with
operating system.
```

注意　通常はネットワークの保守中にこのエラーが表示されます。

解決方法:
オペレーティングシステムは、その時点ではローカルグループに関する情報を提供できません。これは、ネットワーク障害またはシステム保守の最中にときどき発生する場合があります。数分間待ってからもう一度試してください。

問題が続く場合は、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

問題 5：ドメインユーザーを認証できない

以下のエラーメッセージが表示されました。

```
Unable to validate Domain User.Problems contacting the
domain controller while validating domain name and user
account.
```

注意　通常はネットワークの保守中にこのエラーが表示されます。

解決方法:
このエラーは、ネットワーク障害またはシステム保守の最中にときどき発生する場合があります。AppManager ResponseTime for Web の動作中にドメインコントローラをシャットダウンまたは再起動したときに発生することもあります。

問題が続く場合は、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

問題 6：ローカルグループにメンバを追加できない

Web-RT 管理オブジェクトの `RunTransaction` メソッドが次のメッセージを返しました。

```
A member could not be added to or removed from the local group
because the member does not exist.
```

解決方法:
コンピュータがドメインに所属していない（ワークグループに含まれていない）か、Knowledge Script の [実行ユーザーのドメイン] パラメータに指定されたドメイン（または信頼されたドメイン）に所属していません。パラメータ設定を確認して、ジョブを再度実行してみてください。

問題 7：管理対象オブジェクトがトランザクションを実行できない

Knowledge Script ジョブを実行しようとして、以下のメッセージが返されました。

```
The Managed Object failed to execute the transaction.
```

エラーの詳細は次のとおりです。

```
The Managed Object failed to execute the transaction because
a thread could not be allocated to service the request.
```

解決方法:
このイベントは、Web-RT 管理オブジェクトが Knowledge Script に記録されたトランザクションを実行できなかったことを示します。ここで述べられ

たスレッドの割り当て問題の発生は、この WebTransaction スクリプトがサポートされていない旧バージョンであることが原因です。これは旧バージョンの Web Recorder で記録されていますが、AppManager ResponseTime for Web は最新バージョンにアップグレードされています。

新しいバージョンの Web Recorder でトランザクションを再度記録してください。記録したら、ジョブを再度実行してみてください。

問題 8：管理対象オブジェクトがインストールされていないか、登録されていない

Knowledge Script ジョブを実行しようとして、以下のメッセージが返されました。

```
The Web-RT managed object is not installed or not registered.
```

エラーの詳細は次のとおりです。“`429: ActiveX component can't create object`”.

解決方法:

旧バージョンの Web-RT 管理オブジェクトがインストールされているクライアントコンピュータ上で（新バージョンの Web Recorder で記録された Knowledge Script を使用して）ジョブを実行しようとしたためにこのエラーが発生しました。新しいバージョンの AppManager ResponseTime for Web の管理オブジェクトをそのコンピュータにインストールして、ジョブを再度実行してみてください。

問題 9：ジョブのタイムアウト -- リソースを使用できない

WebTransaction Knowledge Script ジョブを実行しようとして、以下のメッセージが返されました。

```
Job timeout -- resources unavailable.
```

解決方法:

WebTransaction Knowledge Script のジョブタイムアウト値が低すぎるため、Web サーバーからの応答はジョブがタイムアウトする前に到着しないこと

がこのエラーの原因です。ジョブのタイムアウト値とその設定方法については、Web Recorder の『ユーザーガイド』を参照してください。

問題 10：管理対象オブジェクトがアップグレードされていない

WebTransaction Knowledge Script ジョブを実行しようとして、以下のメッセージが返されました。

```
Knowledge Script Error 0x803F002: The Knowledge Script
requires ResponseTime for Web version 6.2.113.0 or higher to
run properly.
```

解決方法:
最新バージョンのWeb Recorderで作成されたKnowledge Scriptを旧バージョンの管理オブジェクトソフトウエアがインストールされたコンピュータ上で実行しようとしました。そのコンピュータ上に最新バージョンの Web-RT 管理オブジェクトをインストールする必要があります。それには、管理オブジェクトをアップグレードするコンピュータ上で再度 AppManager インストールプログラムを実行します。

問題 11：URLCheck Knowledge Script のバージョンが古い

URLCheck Knowledge Script ジョブを実行しようとして、以下のメッセージが返されました。

```
Please use a Knowledge Script generated by NetIQ URL Check
Recorder version 4.6.2810.0 or later.
```

解決方法:
通常、旧バージョンの URL Check Recorder で作成された URLCheck Knowledge Script は、Web_RT 管理オブジェクトがアップグレードされたコンピュータ上で問題なく実行できます。ただし、AppManager ResponseTime for Web のバージョン 1.2 と 2.0 の間では URLCheck Knowledge Script が大幅に変更されました。実行しようとしたスクリプトは現在サポートされていません。

最新バージョンの URL Check Recorder を使用して Knowledge Script を再作成し、再度保存してリポジトリにチェックインします。

問題 12：スクリプトのバージョンがサポートされていない

URLCheck Knowledge Script ジョブを実行しようとして、以下のメッセージが返されました。

```
Unsupported script version.
```

詳細なエラーメッセージは次のとおりです。

```
Please use a Knowledge Script generated by NetIQ URL Check
Recorder version 4.6.2810.0 or later.
```

解決方法:
通常、旧バージョンの URL Check Recorder で作成された URLCheck Knowledge Script は、Web_RT 管理オブジェクトがアップグレードされたコンピュータ上で問題なく実行できます。ただし、実行しようとしているスクリプトは、現在 AppManager に含まれているものより古いバージョンの URL Check Recorder で作成されていますが、管理オブジェクトのバージョンが AppManager より古いです。このため管理オブジェクトによってサポートされていません。

管理クライアント上で AppManager インストールプログラムを再度事項して、Web-RT 管理オブジェクトをアップグレードしてください。最新バージョンの URL Check Recorder を使用して Knowledge Script を再作成し、再度保存してリポジトリにチェックインする必要もあります。

問題 13：バージョンが古い

WebTransaction Knowledge Script は実行されず、次のメッセージが返されました。

```
Back-level version. This is a back-level version of NetIQ
AppManager ResponseTime for Web. Please install the latest
version of the software.
```

解決方法:
旧バージョンの Web-RT 管理オブジェクトがインストールされているコンピュータ上で最新バージョンの AppManager ResponseTime for Web で作成された WebTransaction Knowledge Script を実行しようとしました。

そのコンピュータ上で最新バージョンの AppManager のインストールプログラムを実行することにより管理オブジェクトをアップグレードしてください。その後、Knowledge Script を再実行します。

索引

A

AppManager
- 拡張サポート ix
- サポートされる製品 ix

AppManager ResponseTime for Web 1
- Knowledge Script 6, 97
- アドイン 3
- インストール 17
- インストール先 16
- 概要 1
- コンポーネント 3
- ダウンロード 15
- レポート 8
- バージョン , 互換性 99
- 特徴 98

AppManager ResponseTime for Windows 28

D

DHTML
- サポート 153

Discovery_Web-RT 16, 17
- 問題 159

Dynamic HTML
- DHTML を参照

E

Explore メニュー項目 48

F

FTP 101

H

Help
- インストール 19

HTML
- スクリプトコード 69

HTML Structure ビュー 25

HTTP ステータスコード 84

I

Internet Explorer 10

J

Job Timeout
- 設定方法 30

K

Knowledge Script
- チェックイン 52
- 保存 42
- 問題 164

Knowledge Script オプション 74
- General タブ 74
- Measure connection time タブ 76
- Measure download time タブ 78
- Search links タブ 82
- Search objects タブ 83
- Search strings タブ 81
- Validate all links タブ 79

Validate all objects タブ 80

L

Local System アカウント 14

M

MO
Web-RT 管理オブジェクトを参照

N

NetIQ AppManager Client Resource Monitor サービス
netiqmc サービスを参照
netiqmc サービス
アップデート 14
NNTPConnect 105
Note タブ 65

O

Object Properties ビュー 25

P

Paste Properties 47, 51
Playback
記録と再生を参照
Preferences 45

Q

Queue Timeout 30
イベント 30
設定 29
QWEBA6.exe プロセス 29

R

ReceiveInternetMail 107
Recorder Option 42, 49
レジストリの場所 42
Report_Web-RT_Mail 110
Report_Web-RT_Steps 114
Report_Web-RT_URLCheck 118
Report_Web-RT_Web 121
Results ウィンドウ 33

S

Script Option 44
設定 43
操作のヒント 45
SendAndReceiveInternetMail 125
SendInternetMail 129
Session Transcript ビュー 26
SMTPConnect 132
strings
searching 68

T

TakeDesktopOwnership 134
Tools メニュー 42
Total Processing Time 30
Total Response Time 34

U

URL Check Recorder 41
アクセス 42
概要 41
制限 52
問題 155
URL Properties 47, 53
General タブ 54
Measure download time タブ 57
Note タブ 65
Search links タブ 62
Search objects タブ 63
Search strings タブ 61

Validate all links タブ 58
Validate all objects タブ 60
URLCheck Knowledge Script 52, 136
アップグレード 12
旧バージョン 12
推奨される設定 42
データ収集 41
バージョン 99
レポート 118
URLs 47
検査ステータス 46
サポートされるプレフィックス 47
ショートカット 49
プロパティ 47
URLs タブ 45
メニュー 49, 50
URLs テーブル
Line カラム 47
操作 46
操作のヒント 48

W

Web Recorder 21
Knowledge Script 23
機能 23
問題 172
Web Services
AppManager ResponseTime for Web との比較 98
Web-RT
TakeDesktopOwnership 134
Web-RT Knowledge Script 5, 97
FTP 101
FTP スクリプト 7
News スクリプト 7
NNTPConnect 105
ReceiveInternetMail 107
Report_Web-RT_Mail 110
Report_Web-RT_Steps 114
Report_Web-RT_URLCheck 118
Report_Web-RT_Web 121
SendAndReceiveInternetMail 125
SendInternetMail 129
SMTPConnect 132
SMTP スクリプト 7
URLCheck 7, 136
WebTransaction 7, 143
理解 6
バージョン 98
Web-RT 管理対象オブジェクト
アップグレード 12
インストール先 13
インストールされない 17
Web-RT 管理オブジェクト 5
インストールされていないか登録されていない 169
トランザクションを実行できない 168
WebServices Knowledge Script 12, 98
互換性 99
WebTransaction Knowledge Script 21, 26, 143
アップグレード 12
機能 26
許容される同時ジョブ数 29
実行 26
定義済み 25
古い 168

バージョン 99
WebTransactionLimit レジストリキー 29
Windows Sockets エラーコード 93
WinHTTP API
エラーコード 91
サポート 10
WinINet API
エラーコード 87
サポート 10

あ

アベイラビリティ
全体と個別 71
測定方法 5
アップグレードの問題 170
アドイン
開始できない 155
比較 4
暗号化 143
パラメータ 143

い

イベント
URLCheck Knowledge Script 56
WebTransaction Knowledge Script 23
イベントの詳細 72
個別と全体 70
しきい値 23
タイトルのカスタマイズ 74
イベントの詳細 69
検索文字列 / リンク / オブジェクト 69
すべてのリンク / オブジェクトの認証 68
インストール 19
Knowledge Script による 19
Web-RT 管理対象オブジェクト 13
アドイン 155
クライアントコンピュータ上 18
対象アプリケーションサーバー 18
ヘルプ 19
マニュアル 18
問題 154
リポジトリコンピュータ 17
リモートクライアント 19

え

エージェント
アカウント要件 160
インストール先 13
エージェントのアップグレード 11

お

オブジェクト 69
検索 63
認証 68
有効 63
有効化 60
オンラインヘルプ
ヘルプを参照

か

管理対象オブジェクト
Web-RT 管理オブジェクトを参照
管理対象クライアント 24, 26
必要条件 10

き
既知の制限
URL Check Recorder 52
結果におけるブラウザオーバヘッド 152
ダウンロードサイズの測定 152, 153
キャシュ
重要性 5
旧バージョンのコンポーネントの検出 161
記録と再生
概要 23
トラブルシューティング 151
必要条件 10
問題 172

け
検査 42
検索機能 61
検査のタイムアウト 42

こ
互換性 99

さ
サイレントモード 144
サービスパック 10
サポート
Web サイト ix
サポートされる製品 ix

し
システム要件 10
新規 URL の自動検査 42
新機能 22
ジョブ
アップグレード 12

す
スクリプトエディタ 25
ステータスコード 84
ステップ
定義済み 24
スレッド割り当てエラー 170

せ
静的 Web サイトコンテンツ 152
セキュリティの考慮 143
セットアッププログラム 16
接続時間の測定 45
全体的 URL のアベイラビリティ 72

そ
相対パス 63
ソフトウエアのアップグレード 11
総プロセスタイム 146

た
タイムアウト 142
タイムアウト
キュー 30
リソースを使用できない 169
ダウンロード時間 57
しきい値 58
ダウンロード時間の測定 45

て
データ 72
Knowledge Script での収集 41, 72
詳細 72

デスクトップの所有者 28
デフォルトのプレフィックス 43, 47

と

ドメインコントローラ 166
　見つからない 166
ドメインユーザーが有効でない 167

に

認証情報 143

は

バージョンの互換性 99

ひ

表記規則 , 文書 vii

ふ

ファイアウォール 5
フレーム 68
　ダウンロード時間の測定 68
ブックマーク 59, 63
文書
　管理ガイド ix
　追加 viii
　表記規則 vii
　ヘルプ vii
プレインストールチェック
　失敗 17
　実行 15

へ

ヘルプ vii
　カスタム Knowledge Script 143

も

文字列
　検索 61, 68

ゆ

有効化 45
ユーザーオプション 42

り

リセットボタン 74
リダイレクト 141
リンク 62
　検査 54
　検索 62
　認証 68
　有効 59, 62
　有効化 58

れ

レスポンスタイム 23
　計算方法 34
レポート 110
　URLCheck 118
　Web-RT_Mail 8、110
　Web-RT_Steps 8、114
　Web-RT_Web 8、121

ろ

ローカルグループメンバ 167
　存在しない 168